

作業室用

茨城県教育財団文化財調査報告第192集

石 畑 遺 跡

12県単道改12-03-261-0-052号
埋 蔵 文 化 財 調 査 報 告 書

平成14年3月

茨城県境土木事務所
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第192集

いし はた い せき
石 畑 遺 跡

12県単道改12-03-261-0-052号
埋蔵文化財調査報告書

平成14年3月

茨城県境土木事務所
財団法人 茨城県教育財団

序

茨城県は長期的な展望のもと、産業・経済の発展に伴う広域流通機構の整備と、県全域にわたる調和のとれた発展を図るために、県内の交通体系の整備を進めております。一般県道西関宿栗橋線の整備事業も、その目的に添って計画されたものであります。

このたび、茨城県境土木事務所は、五霞町新幸谷地区において、西関宿栗橋線の整備を計画いたしました。その予定地内には石畑遺跡が所在しております。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県境土木事務所と埋蔵文化財発掘調査について委託契約を結び、平成12年10月から平成13年1月まで五霞町石畑遺跡において発掘調査を実施いたしましたところ、貴重な遺構・遺物を検出することができました。

本書は石畑遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が学術的な研究資料としてはもとより、郷土への理解を深める手だてとして、そして、教育、文化の向上の一助として広く活用されますことを希望いたします。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県境土木事務所から多大なる御協力を賜りましたことに対し、深く御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、五霞町教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、衷心より感謝の意を表します。

平成14年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 齋藤佳郎

例 言

- 1 本書は、茨城県境土木事務所の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成12年度に発掘調査を実施した、茨城県猿島郡五霞町大字新幸谷字石畑に所在する石畑遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。
調 査 平成12年10月1日～平成13年1月31日
整 理 平成13年12月1日～平成14年3月31日
- 3 当遺跡の発掘調査は、調査第一課長阿久津久の指揮のもと、調査第2班長仙波亨、首席調査員川津法伸、主任調査員成島一也が担当した。
- 4 当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は、整理第一課長川井正一の指揮のもと、主任調査員成島一也が担当した。
- 5 本書の作成にあたり、確認遺跡の分布状況について、埼玉県栗橋町教育委員会生涯学習課大谷千佳子氏、同幸手市教育委員会生涯学習課市史編さん室浜野一重氏、千葉県関宿町教育委員会社会教育課石井穂氏に御指導いただいた。
- 6 発掘調査及び整理に際し、御指導・御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標を原点とし、X軸 = +12,960m、Y軸 = -8,400mの交点を基準点 (A 1 a1) とした。

調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西、南北に各々10等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A 1 区」、「B 2 区」のように呼称した。さらに、大調査区内の小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3…0とし、名称は、大調査区の名称を冠し、「A 1 a1区」、「B 2 b2区」のように呼称した。

2 遺構、遺物、土層に使用した記号は、次のとおりである。

遺構 住居跡 - S I 土坑・方形竪穴遺構 - S K 井戸跡 - S E 溝 - S D

遺物 土器 - P 土製品 - D P 石器・石製品 - Q 金属製品 - M 拓本記録土器 - T P

土層 攪乱 - K

3 遺構・遺物の実測図中の表示は、次のとおりである。

 焼土・炉・釉・繊維土器  柱痕・柱の抜き取り痕

● 土器・拓本記録土器 □ 石器 △ 金属製品

4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

5 遺構・遺物実測図の掲載方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の1、各遺構の実測図は60分の1または80分の1の縮尺にした。

(2) 遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり、その場合は個々に縮尺をスケールで表示した。

6 「主軸」は、住居跡については炉を通る軸線あるいは南北の柱穴を結ぶ軸線とし、その他については長軸（径）を主軸とみなした。「主軸・長径方向」は、主軸・長径が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。（例 N - 10° - E）

7 遺物観察表の記載方法は次のとおりである。

(1) 土器の計測値の単位はcmである。なお、現存値は()で、推定値は[]を付して示した。

(2) 備考欄は、土器の現存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号については、土器、拓本のみ掲載の土器片、土製品、石器、金属製品ごとに通し番号とし、挿図、観察表、写真図版に記した番号は同一とした。

8 遺構一覧表における計測値は、現存値は()で、推定値は[]を付して示した。

抄 録

ふりがな	いしはたいせき							
書名	石畑遺跡							
副書名	12県単道改第12-03-261-0-052号埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第192集							
著者名	成島一也							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行年月日	2002(平成14)年3月25日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村番号	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
いしはたいせき 石畑遺跡	いばらきけんさきしまぐんごかまち 茨城県猿島郡五霞町 おおあざしんこうやあざいしはな 大字新幸谷字石畑 759番地の1ほか	08542 -012	36度 6分 53秒	139度 44分 31秒	12m	20001001 ~ 20010131	3754.56㎡	一般県道西関宿栗 橋線整備事業に伴 う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
石畑遺跡	包蔵地	旧石器			石器(石核)		縄文時代前期から晩 期の集落跡と中・近 世の集落跡・墓域の 複合遺跡である。特 に、縄文時代前期前 葉の集落が中心であ る。また、中世の火葬 墓から骨片と古銭が、 方形竪穴遺構の柱穴 から礎石が出土して いる。	
	集落跡	縄文	竪穴住居跡	9軒	縄文土器(浅鉢, 深鉢, 蓋) 土製品(土偶) 石器(石鏃, 石斧, 剥片, 凹石, 石皿, 敲石) 石製品(石剣)			
		中世	方形竪穴遺構	14基	土師質土器(小皿, 焙烙, 擂鉢)			
	墓跡	中・近世	火葬墓	1基	瓦質土器(火鉢) 陶磁器(碗, 香炉, 瓶子, 片口鉢, 甕) 土製品(泥面子, 土人形) 石製品(礎石) 金属製品(古銭)			
	その他	時期不明	土坑	91基 8条	土師器(坏, 甕) 須恵器(甕) 金属製品(刀子)			

目 次

序	
例 言	
凡 例	
抄 録	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の成果	7
第1節 遺跡の概要	7
第2節 基本層序	7
第3節 遺構と遺物	8
1 旧石器時代の遺物	8
2 縄文時代の遺構と遺物	8
(1) 竪穴住居跡	8
(2) 土坑	21
(3) 遺構外出土遺物	32
3 中・近世の遺構と遺物	37
(1) 方形竪穴遺構	37
(2) 火葬墓	52
(3) 井戸跡	54
(4) 土坑	57
(5) 溝	69
(6) 遺構外出土遺物	71
4 時期不明の遺構と遺物	72
(1) 土坑	72
(2) 溝	74
(3) 遺構外出土遺物	75
第4節 まとめ	76
写真図版	
付 図	

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

茨城県は、猿島郡五霞町新幸谷において、一般県道西関宿栗橋線のバイパス工事を進めている。

平成11年11月25日、茨城県境土木事務所長から茨城県教育委員会教育長宛てに、一般県道西関宿栗橋線道路改良事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会があった。

これに対して茨城県教育委員会は、平成11年12月6日に現地踏査を行い、平成11年12月9日、10日に試掘調査を実施した。そして、平成11年12月12日、茨城県教育委員会教育長から茨城県境土木事務所長宛てに、事業地内に石畑遺跡が所在する旨回答した。

平成12年3月24日、茨城県境土木事務所長から茨城県教育委員会教育長宛てに、事業地内における埋蔵文化財（石畑遺跡）の取扱いについて協議書が提出された。

その結果、現状保存が困難であることから、平成12年3月24日、茨城県教育委員会教育長から茨城県境土木事務所長宛てに、事業地内における石畑遺跡について、記録保存のための発掘調査を実施する旨回答し、併せて調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。

茨城県教育財団は、茨城県境土木事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業についての委託を受け、平成12年10月1日から平成13年1月31日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

石畑遺跡の調査は、平成12年10月1日から平成13年1月31日までの4か月間実施した。以下、調査の経過について、その概要を表で記載する。

期 間 項 目	10 月	11 月	12 月	1 月
調査準備 表土除去 遺構確認				
遺構調査				
遺物洗浄 注記作業 写真整理				
補足調査 及 び 後片付け				

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

石畑遺跡は、茨城県猿島郡五霞町大字新幸谷字石畑759番地の1ほかに所在している。

五霞町は、茨城県の中でも利根川以南に位置している唯一の町で、北を利根川、東を江戸川、西から南にかけて権現堂川によって区画されている。

遺跡周辺の地勢は、利根川の氾濫平原に開けた、起伏のない平坦地で、町内の最高標高は17.5m、最低標高は9.0mで、平均標高は約12mである。この利根川流域に広がる低台地は、地質的には新生代第四紀沖積統と呼ばれる低地が中心で、約1万年前から現在までの新しい時代の堆積物で形成されている。また、この沖積統の下には、第四紀洪積世（奥東京湾時代）後期に形成された洪積統が堆積しており、下層から竜ヶ崎砂礫層、常総粘土層、関東ローム層（武蔵野ローム層、立川ローム層など）に分層される。

当遺跡は、利根川と権現堂川に挟まれた、奥東京湾に西面した低台地上、標高12mに位置しており、低地との比高は1～2mである。遺跡周辺の土地利用状況は、主として水田・畑地であり、遺跡の現況は水田であった。

第2節 歴史的環境

石畑遺跡が所在する利根川流域には、沖積統の低地と洪積統の台地が広がっている。利根川の北側（茨城県側）では、利根川の支流によって解析された谷津が広がり、谷津から洪積統の台地にかけて、多くの遺跡が存在している。また、利根川の南側（五霞町、埼玉県、千葉県側）では、広大な沖積統が広がり、奥東京湾に面した標高10～13mほどの低地に遺跡が確認されている。特に、縄文時代の集落跡や貝塚などが数多く分布し、古代から多くの人々の生活の場であったことを示している。

当遺跡〈1〉は、昭和51年から52年にかけて圃場整備事業に伴う発掘調査が行われている¹⁾。21軒の竪穴住居跡と200基におよぶ土坑などが確認され、縄文時代前期前葉（関山式、黒浜式）、後期前葉（堀之内式）、後期後葉～晩期前葉（安行Ⅰ式～Ⅲ式）の土器が出土している。住居跡の時期は、前期前葉が5軒、後期前葉が7軒、後期後葉が2軒、晩期前葉が1軒である。特に、後期前葉の住居跡は円形と方形のものに二分されることが報告されている。今回の調査では、縄文時代前期から晩期まで、長い年月に渡って集落が営まれていたことが判明しただけではなく、中世の集落跡および墓域として利用されていたことが確認された。

ここでは、当遺跡を中心とした、利根川流域の縄文時代と中・近世の主な遺跡について述べることにする。（表1、第1図）

利根川以北の総和町では、日下部遺跡〈3：前期〉や大橋B遺跡〈6：前期、後期〉、駒羽根遺跡〈10：早期から晩期〉において、前期（黒浜式）の住居跡が確認されている²⁾。香取東遺跡〈4〉では、前期中葉と後期初頭の住居跡、早期前半から晩期前半までの遺物包含層が確認されている³⁾。また、釈迦才伝遺跡〈7〉では、中期から晩期にかけての住居跡32軒が確認され、前期（黒浜式）から、中期後葉（加曾利EⅢ式～Ⅳ式）、後期前葉（称名寺Ⅰ式～堀之内Ⅱ式）、後期中葉（加曾利BⅠ式～Ⅲ式）、後期後葉（安行Ⅰ・Ⅱ式）、晩期前葉（安行Ⅲa式～Ⅲc式）にかけての土器や土製仮面1点、耳飾り44点など貴重な遺物が出土している⁴⁾。

このほか、羽黒遺跡〈2：早期から晩期〉、大橋A遺跡〈5：前期、中期、後期〉、香取西遺跡〈8：前期、後期〉、西坪A遺跡〈14：前期〉、高野遺跡〈15：前期〉、南坪A遺跡〈18：前期、後期〉、南坪B遺跡〈17：前期、後期〉、南坪C遺跡〈16：早期、前期〉など縄文時代前期の遺跡が目立っている⁵⁾。

利根川以南の五霞町では、縄文時代の遺跡が51か所確認されている。前期と後期の住居跡29軒が確認され、人骨18体、ヤマトシジミ、オキシジミ、オオタニシ、カワニナの貝類が出土した冬木A貝塚〈20：前期、中期、後期〉、ヤマトシジミ、オキシジミ、オオタニシ、カワニナ、チョウセンハマグリなどの貝類が出土し、後期から晩期にかけての住居跡10軒が確認された冬木B貝塚〈24：後期、晩期〉をはじめ、貝塚が多く存在している⁶⁾。また、坂間遺跡〈23：前期〉などは、古くから縄文時代の土器が出土する場所として知られている⁷⁾。

埼玉県の幸手市では、東部に下総台地の先端が伸び、奥東京湾沿岸に沿って縄文時代の遺跡が5か所確認されている。縄文前期の土器が多量に出土した槇野地西遺跡〈31〉と槇野地北遺跡〈34：早期、前期〉をはじめ、貝塚が確認されている槇野地原遺跡〈35：前期〉など、縄文前期の遺跡が多いことが分かる⁸⁾。

千葉県の関宿町では、幸手市槇野地の対岸の、江戸川沿岸に貝塚が多く確認されている。前期から後期までの土器が出土している雲国寺内貝塚〈36〉、加曾利E式と安行Ⅲd式の土器、アサリ、ヤマトシジミ、カキが出土した内町貝塚〈37：中期、晩期〉⁹⁾など、5か所の貝塚が集中している。また、前期の黒浜式土器が出土している下納谷遺跡〈38〉や元町遺跡〈39：前期から後期〉などの包蔵地も確認されており、江戸川を挟んだ地域に密接な関連がうかがわれる。

中世になり、この地域で重要なのは、古河公方足利氏と関連がある城館跡である。常陸川水系と古利根川水系の結節点であるこの地域の特異性から、この地を治める重要性は高く、古河公方足利氏の重臣たちが付近に居城や砦を構えている。総和町には、築田氏一族の城下である水海城跡〈9〉、五霞町には、野田氏の居城で、堀跡がよく残っている城山城跡（栗橋城跡）〈22〉、幸手市には、一色氏の陣屋跡と考えられている幸手市No.3遺跡〈32〉とその砦である天神島砦跡〈33〉、関宿町には、築田氏嫡流家の居城として発展した関宿城跡〈40〉がある¹⁰⁾。一部の発掘調査しか行われていないことから、今後の調査研究が期待される場所である。

その他の中世遺跡としては、利根川以北の総和町に、14世紀末から15世紀初頭と考えられる陶器（瀬戸、常滑の甕）が堀から出土した羽黒遺跡〈2〉、中世から近世初頭の土坑墓が確認された香取東遺跡〈4〉、中世の土師質土器（小皿、内耳鍋）、陶器（皿、台付壺）、古銭が出土した向坪B遺跡〈11〉などがある¹¹⁾。また、利根川以南では、古利根川流域の低湿地と自然堤防沿いに、中世の集落跡や墓域などが多く分布している。

近世になると、利根川の流路変遷によって、水運が発達した。このため、利根川以南の栗橋、川妻（現五霞町）、関宿などが流通路の中継点として発展した。奥州街道の「房川（利根川）渡し」が設置された栗橋町は、河岸として栄え、埼玉県指定旧跡の関所〈29〉が置かれた。また、関宿町にも水関所が置かれ、町人文化が花開いた¹²⁾。

※文中の〈 〉内の番号は、表1、第1図の該当番号と同じである。

註

- 1) 五霞村教育委員会『石畑遺跡』1977年
- 2) a 総和町教育委員会、羽黒・日下部遺跡発掘調査団『羽黒・日下部遺跡発掘調査報告書』1999年
b 茨城県教育財団「主要地方道つくば古河線緊急地方道路事業地内埋蔵文化財調査報告書 大橋B遺跡 釈迦才仏遺跡」
『茨城県教育財団文化財調査報告』第131集 1998年
c 総和町教育委員会『駒羽根遺跡・大橋A遺跡』1991年
- 3) 総和町、武蔵文化財研究所『茨城県総和町 都市計画道路東牛谷・釈迦線道路（町道9号線）改良工事に伴う埋蔵文化財

発掘調査報告書 香取東遺跡・釈迦才仏遺跡】2001年

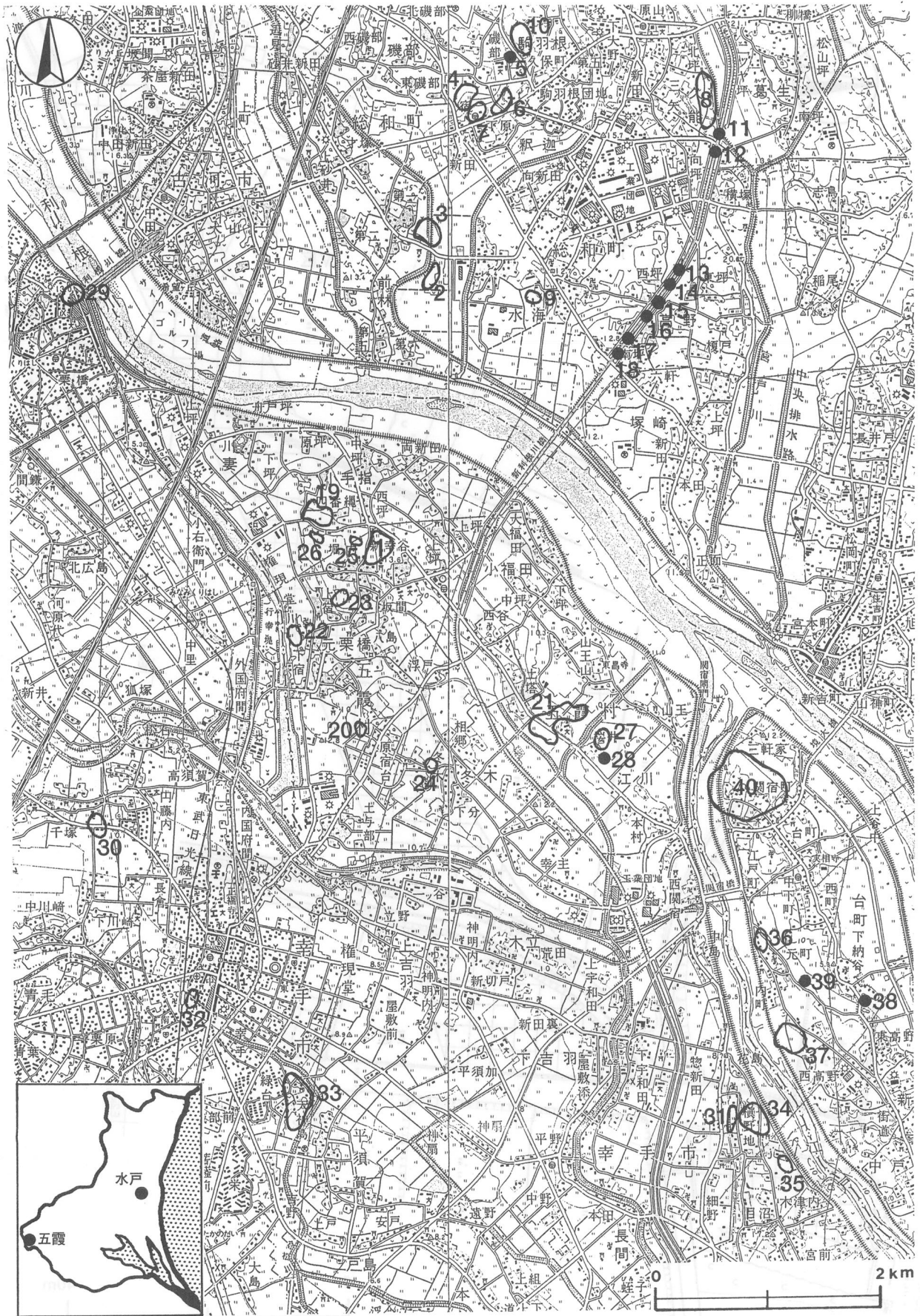
- 4) 註2 bに同じ
- 5) a 総和町教育委員会, 香取西遺跡発掘調査団『香取西遺跡発掘調査報告』1998年
b 茨城県教育財団「一般国道4号改築工事地内埋蔵文化財調査報告書1(総和地区) 南坪A・B・C遺跡 向坪A・B遺跡 高野遺跡 北新田A・B・C遺跡 西坪A・B遺跡 溜原B遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第38集 1986年
- 6) 茨城県教育財団「冬木地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 冬木A貝塚 冬木B貝塚」『茨城県教育財団文化財調査報告Ⅸ』1981年
- 7) 立正大学考古学研究会『坂間遺跡B地点発掘調査報告概要』1974年
- 8) a 幸手市教育委員会「槇野地北遺跡・牧野地西遺跡」『幸手市埋蔵文化財発掘調査報告書』第1集 1992年
b 幸手市市史編さん室「幸手市の埋蔵文化財」『櫻道-幸手市史編さんだより-』第4号 1988年
- 9) 関宿町教育委員会『内町貝塚』1982年
- 10) a 総和町教育委員会・町史編さん室「戦国期築田氏城下水海の歴史的位置-関東の二大河川流通路の結節点を考える-」『そうわの文化財』4号 1995年
b 五霞村教育委員会『城山遺跡(栗橋城跡)』1989年
- 11) 註2 a, 註3, 註5 bに同じ
- 12) a 栗原町教育委員会『栗原町の歴史と文化財』1982年
b 関宿町『関宿町観光ガイドマップ』

参考文献

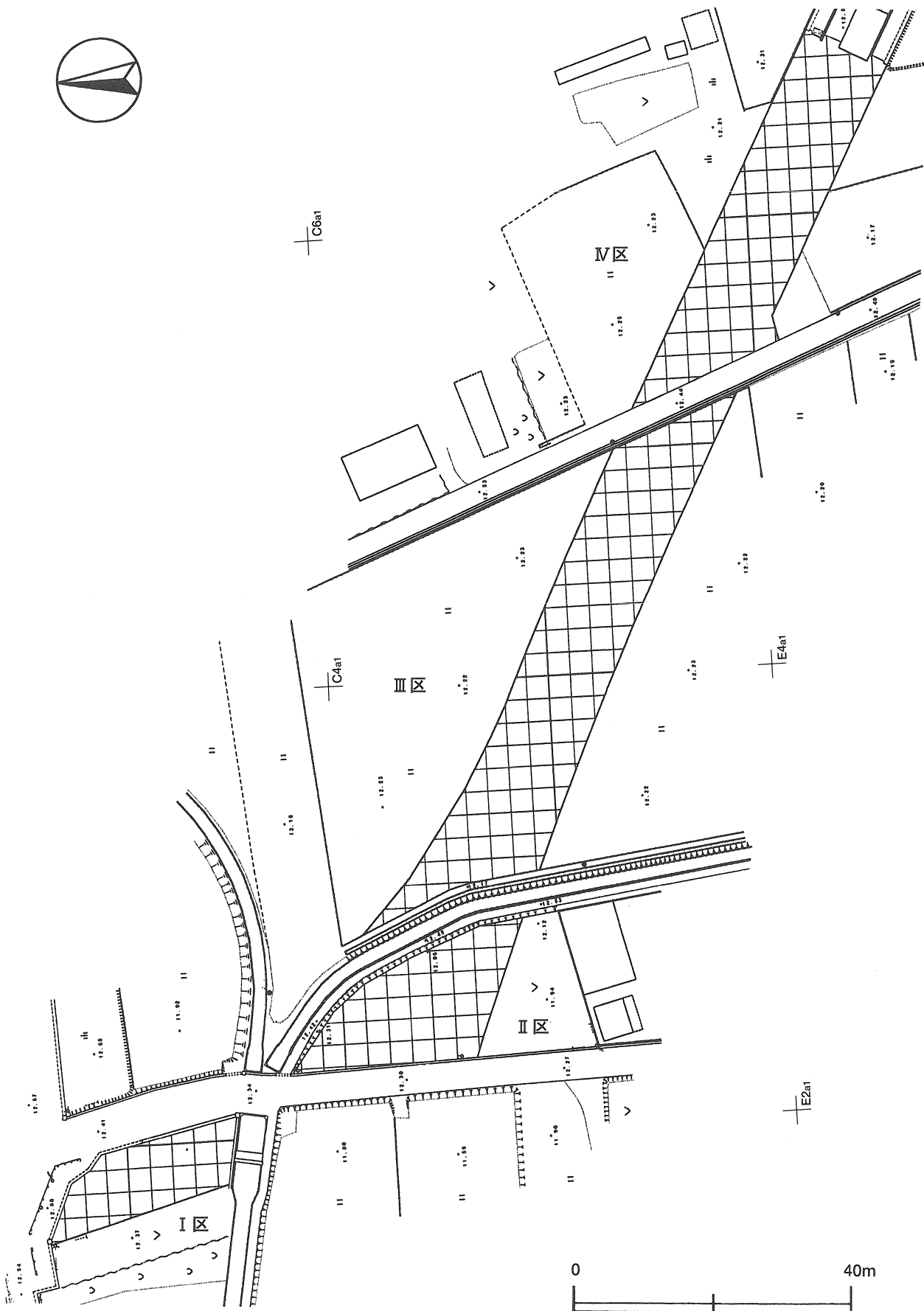
- ・ 蜂須紀夫ほか『茨城県 地理ガイド』
- ・ 茨城県『茨城県史料 考古資料編 先土器・縄文時代』1979年
- ・ 茨城県教育庁文化課『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会 2001年
- ・ 栗橋町教育委員会『栗橋町遺跡分布地図』2001年
- ・ 幸手市教育委員会『幸手市遺跡分布地図』1996年
- ・ 千葉県教育委員会『千葉県遺跡地図』1997年

表1 石畑遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈平	中世			近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈平	中世
1	石畑遺跡		○		○	○	○	21	土塔(江川)貝塚		○	○	○			
2	羽黒遺跡		○		○	○	○	22	城山城跡						○	
3	日下部遺跡	○	○	○	○	○	○	23	坂間遺跡		○		○	○		
4	香取東遺跡	○	○		○		○	24	冬木B貝塚		○					
5	大橋A遺跡		○		○	○	○	25	猪塚遺跡		○					
6	大橋B遺跡		○		○	○	○	26	内肥土遺跡		○					
7	釈迦才仏遺跡	○	○		○		○	27	川岸貝塚		○					
8	香取西遺跡	○	○	○	○	○	○	28	桜井貝塚		○					
9	水海城跡					○	○	29	関所跡							○
10	駒羽根遺跡		○		○	○	○	30	千塚柴原遺跡					○		○
11	向坪B遺跡				○		○	31	槇野地西遺跡		○		○	○		
12	向坪A遺跡		○				○	32	幸手市No.3遺跡						○	
13	西坪B遺跡		○				○	33	天神島砦跡						○	
14	西坪A遺跡		○				○	34	槇野地北遺跡		○					
15	高野遺跡		○				○	35	槇野地原遺跡		○					
16	南坪C遺跡		○				○	36	雲国寺内貝塚		○					
17	南坪B遺跡		○				○	37	内町貝塚		○					
18	南坪A遺跡		○		○	○		38	下納谷遺跡		○					
19	小手指貝塚		○			○	○	39	元町遺跡		○					
20	冬木A貝塚		○					40	関宿城跡						○	○



第1図 石畑遺跡周辺遺跡分布図



第2図 調査区設定図

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

石畑遺跡は、縄文時代と中・近世の複合遺跡である。調査前の現況は水田で、調査面積は3754.56㎡である。今回の調査によって、縄文時代の竪穴住居跡9軒、土坑17基、中・近世の方形竪穴遺構14基、火葬墓1基、井戸跡7基、土抗64基、溝5条、時期不明の土抗91基、溝8条が検出されている。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）で39箱分が出土した。遺物の多くは縄文土器で、早期末から晩期中葉まで幅広く出土している。他には、土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器、陶磁器、土偶、泥面子、石核、石鏃、石斧、削器、剥片、敲石、凹石、石剣、礎石、古銭などが出土している。

第2節 基本層序

調査Ⅲ区のD4g9区にテストピットを設定し、約2.4m掘り下げて、基本土層の観察を行った（第3図）。なお、ローム層の層序区分については、武蔵野台地での層序区分を参考に、ローマ数字で示すことにする。

I層は、黒褐色の表土層で、ローム小ブロック・ローム粒子を中量含んでいる。粘性と締まりはともに弱く、層厚は24～38cmである。

II層は、黒褐色の腐植土層で、ローム粒子・白色スコリアを少量、ローム小ブロックを微量含み、粘性は弱く、締まっている。表土とローム層の間層で、層厚は24～34cmである。

III～V層は確認できなかった。

VI層は、にぶい黄褐色のハードローム層で、白色粒子を微量含んでおり、若干の粘性と締まりを帯びる。下位に若干のAT（始良丹沢テフラ）を含んでいる。層厚は10～24cmである。

VII層は、暗褐色のハードローム層で、赤色粒子・白色スコリアを微量含んでおり、粘性と締まりを帯びている。第二黒色帯（BB II）の最上層と考えられ、層厚は14～20cmである。この層は、約20,000～25,000年前に比定できる。

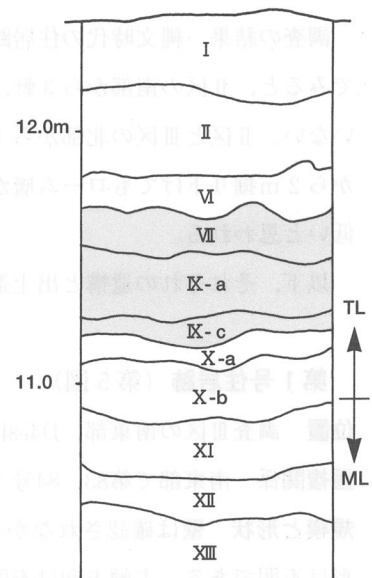
VIII層は、層位が安定せず、確認できなかった。

IX-a層は、黒褐色のハードローム層で、赤色粒子・白色スコリアを微量含んでおり、粘性と締まりを帯びている。第二黒色帯の下層である。層厚は20～28cmである。

IX-c層は、暗褐色のハードローム層で、赤色粒子・白色スコリアを微量含んでおり、粘性が強く、締まっている。IX-a層よりも色調が明るいことから、IX-c層と考えられ、第二黒色帯の最下層である。層厚は4～12cmである。この層は、約28,000年前に比定できる。

X-a層は、褐色のハードローム層で、赤色粒子を少量含み、粘性と締まりを帯びている。層厚は6～12cmである。

X-b層は、褐色のハードローム層で、黒色粒子を少量含み、硬く締まっている。層厚は18～26cmである。ここまでの立川ローム層（TL）に比定されると考えられる。



第3図 基本土層図

XI層は、黄褐色のハードローム層である。黒色粒子を少量含み、強い粘性を帯び、締まっている。層厚は20～24cmである。この層以下が武蔵野ローム層（ML）に比定される。

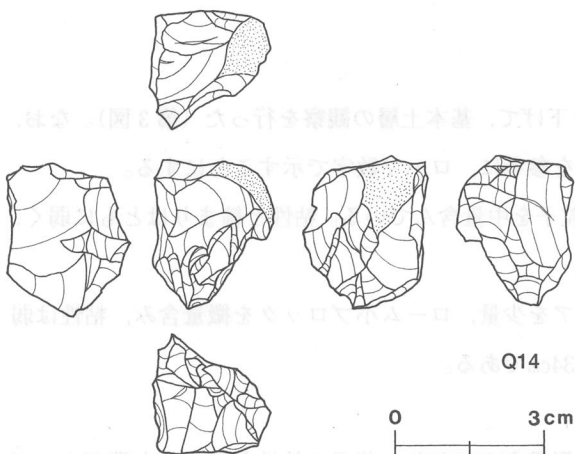
XII層は、明黄褐色のハードローム層である。黒色粒子を少量含み、強い粘性を帯び、硬く締まっている。層厚は8～18cmである。

XIII層は、黄褐色のハードローム層である。鉄分を微量含み、強い粘性を帯び、硬く締まっている。層厚は24cm以上である。

なお、遺構の多くは、VI層上面で確認され、VI層からIX-a層にかけて掘り込まれている。

第3節 遺構と遺物

1 旧石器時代の遺物



調査の結果、旧石器時代に該当する遺構は確認できなかったが、安山岩製の石核1点が表土中から出土している。以下、第4図に記載する。

遺構外出土遺物(旧石器時代)観察表(第4図)

番号	器種	計測値			
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
Q14	石核	3.0	2.4	2.5	16.5
	石質	特徴		出土位置	備考
	ガラス質 黒色安山岩	打面転移による剥片剥離。		IV区表土	PL7

第4図 遺構外出土遺物(旧石器時代)実測図

2 縄文時代の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

調査の結果、縄文時代の住居跡9軒(前期前葉7軒, 中期後葉1軒, 後期前葉1軒)が検出された。調査区でみると、II区の南部から3軒, III区の中央部から南部にかけて6軒が検出され、I区とIV区では検出されていない。II区とIII区の北部からI区にかけて谷が入っており、黒色土層が堆積していることや、I区では表土から2m掘り下げてもローム層が確認できなかったことを考えると、I区には住居などが構築された可能性は低いと思われる。

以下、それぞれの遺構と出土遺物について記述する。

第1号住居跡(第5図)

位置 調査III区の南東部, D4e8区。

重複関係 南東部で第83, 84号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 壁は確認されなかった。柱穴及び炉の配置から規模は長軸5.80m, 短軸4.97mと推定され、平面形は不明である。主軸方向は不明である。

ピット 42か所。P1～P18は深さ16～59cmで、その規模と配置から柱穴と考えられる。P19～P42の性格は

不明である。

炉 中央部やや北寄りに付設されている。長径65cm，短径55cmの楕円形で，床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床及び炉壁は，火熱を受けて赤変している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 明赤褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子微量

遺物出土状況 縄文土器深鉢片5点が出土している。土器はすべて細片である。TP1の深鉢は，P1の覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器及び遺構の形態から縄文時代前期前葉と考えられる。



第5図 第1号住居跡・出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表（第5図）

番号	器種	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP1	深鉢	LRの単節縄文を施す。	P1覆土	前期前葉 PL8

第2号住居跡（第6図）

位置 調査Ⅲ区の北西部，C3h6区。住居跡の集中区に位置する。

重複関係 北部から中央部にかけて、第164、165、167号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 平面形は径4.41mの円形である。壁は外傾して立ち上がり、壁高は4～10cmである。

床 ほぼ平坦である。特に硬化した部分は認められなかった。

ピット 9か所。P1～P7は深さ13～16cmで、規模及び配置から柱穴と考えられる。P8・9の性格は不明である。

炉 確認されなかった。

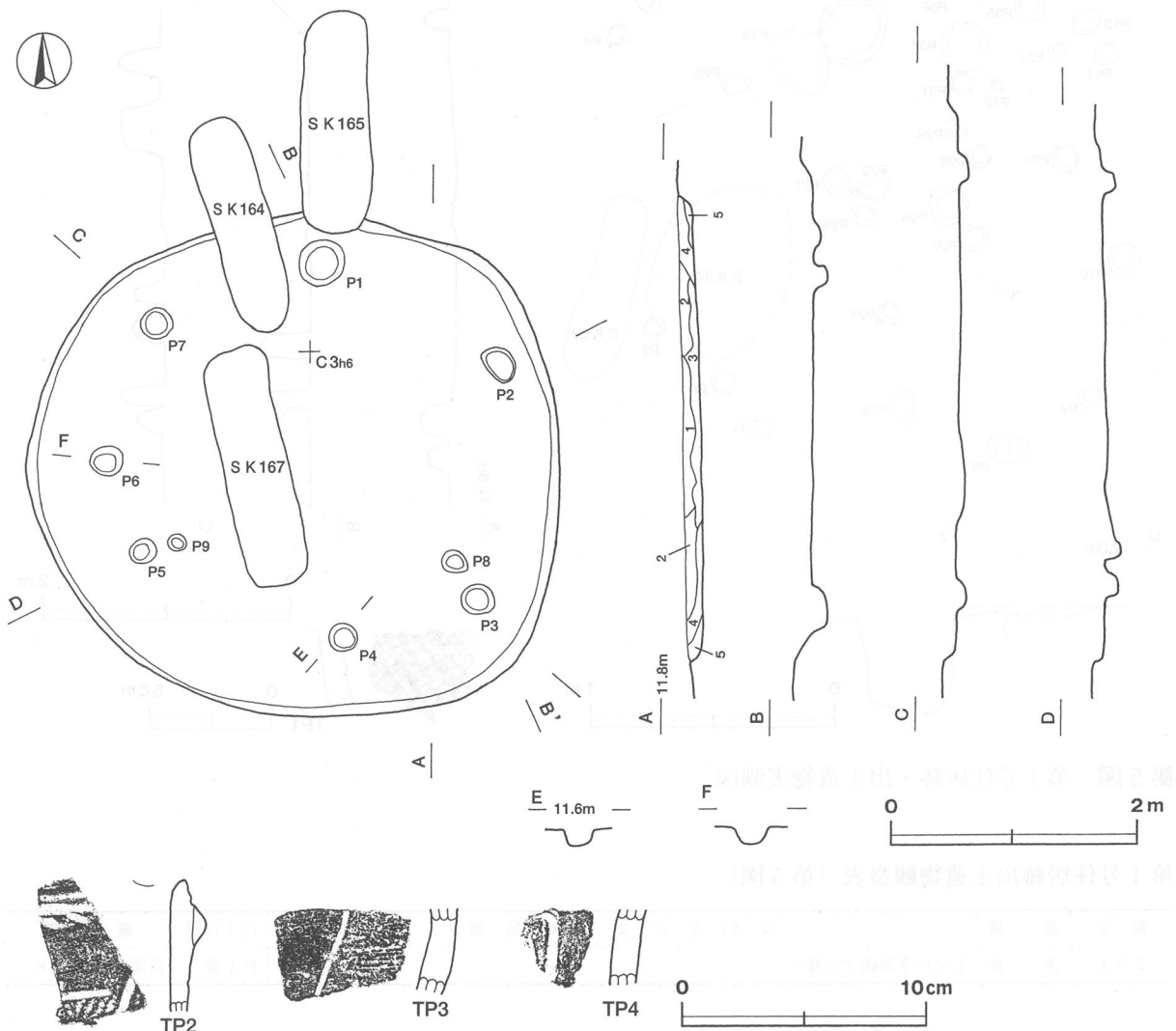
覆土 5層に分層される。全体的に粘性が強く、やや締まりがある。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 縄文土器深鉢片40点、礫2点が出土している。土器のほとんどが細片である。TP2～TP4の深鉢は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器及び遺構の形態から縄文時代後期前葉と考えられる。



第6図 第2号住居跡・出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表(第6図)

番号	器種	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP2~4	深鉢	2は口縁部に隆帯を貼り付け押捺文を、沈線で区画した中に縄文を充填している。 3・4は沈線で区画した中を磨り消す。	覆土	後期 PL8

第3号住居跡(第7図)

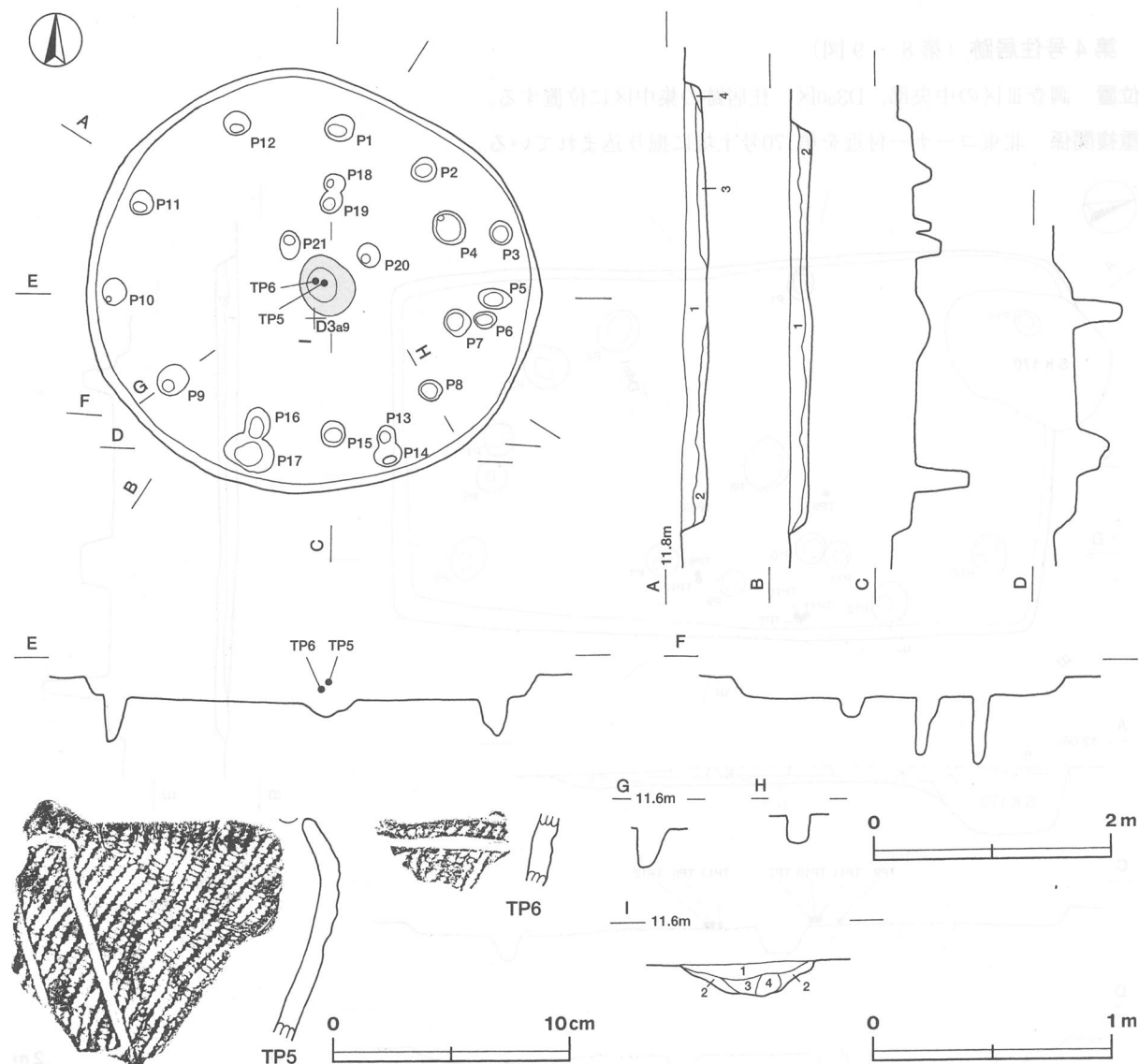
位置 調査Ⅲ区の中央部, C3j8区。住居跡の集中区に位置する。

規模と形状 平面形は径3.37mの円形である。壁は外傾して立ち上がり、壁高は15~22cmである。

床 平坦である。特に硬化した部分は認められなかった。

ピット 21か所。P1~P12は深さ18~70cmであり、規模と配置から柱穴と考えられる。P13~P17は深さ18~58cmで、南壁寄りに位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P18~P21の性格は不明である。

炉 ほぼ中央部に付設されている。長径54cm, 短径45cmの楕円形で、床面を皿状に13cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火熱を受けて硬化している。



第7図 第3号住居跡・出土遺物実測図

炉土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | 3 黒褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |

覆土 4層に分層される。全体的にロームブロックを含み、黒褐色・暗褐色を基調として、締まりがある。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器深鉢片20点が出土している。土器のほとんどが細片で、覆土中から出土している。TP 5・6の深鉢は、炉内から出土している。

所見 時期は、出土土器及び遺構の形態から縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ～Ⅳ式期）と考えられる。

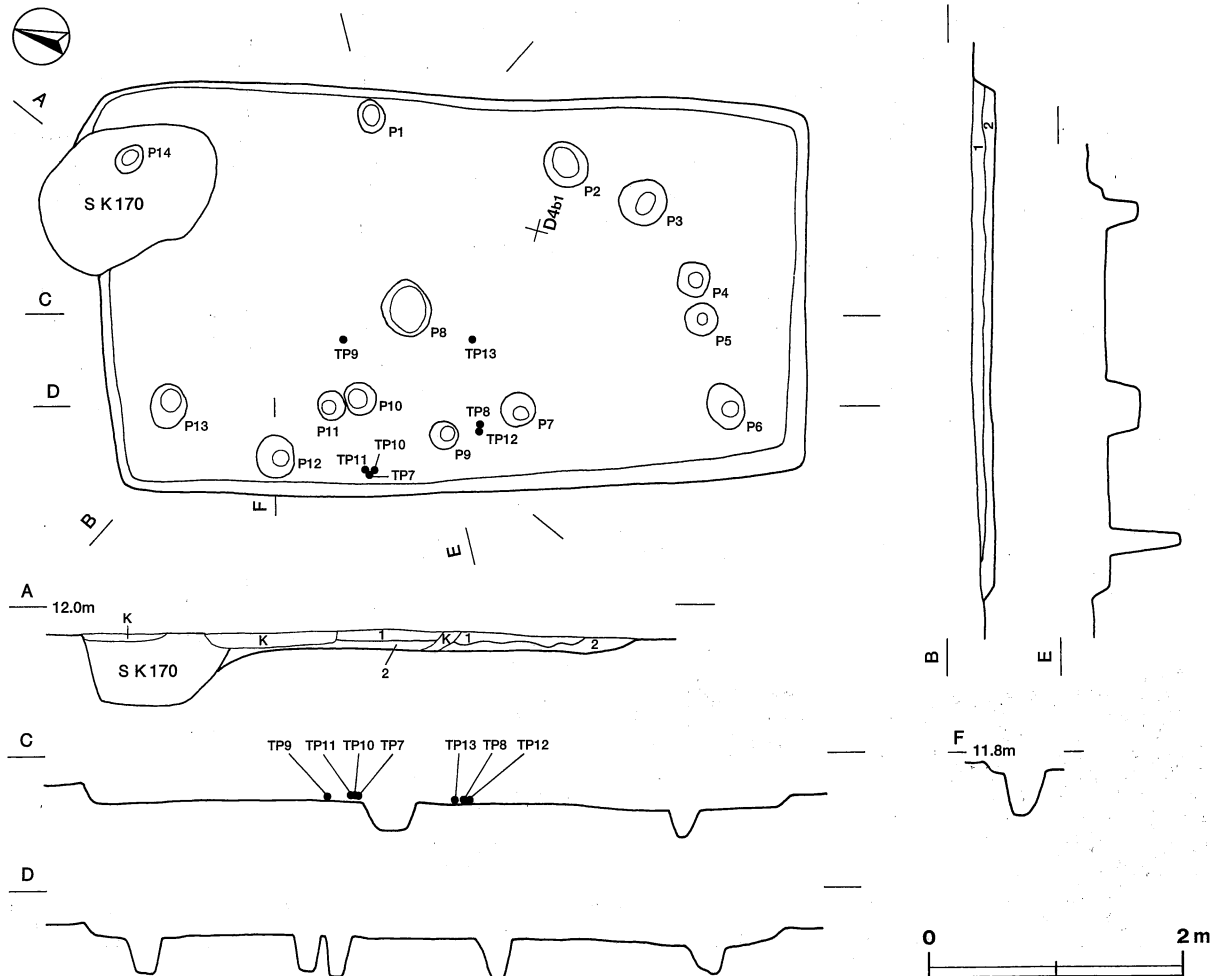
第3号住居跡出土遺物観察表(第7図)

番号	器種	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP.5・6	深鉢	LRの単節縄文を地文とし、沈線を巡らす。	炉内	中期後葉 PL8

第4号住居跡(第8・9図)

位置 調査Ⅲ区の中央部, D3a0区。住居跡の集中区に位置する。

重複関係 北東コーナー付近を第170号土坑に掘り込まれている。



第8図 第4号住居跡実測図

規模と形状 確認できた長軸5.46m, 短軸3.24mで, 平面形は長方形と推定される。主軸方向はN-15°-Wである。壁は外傾して立ち上がり, 壁高は7~15cmである。

床 ほぼ平坦である。特に硬化した部分は認められなかった。

ピット 14か所。P1~P14の性格は不明である。

炉 確認されていない。

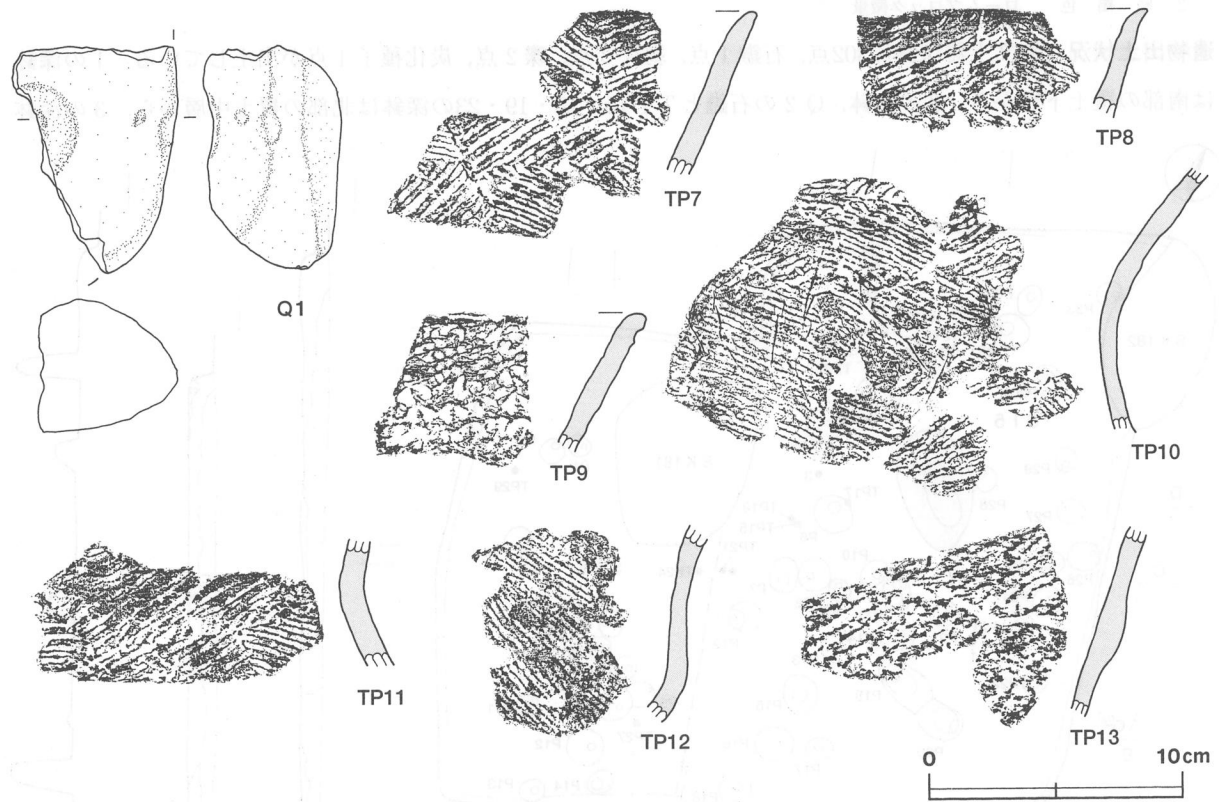
覆土 2層に分層される。全体にロームブロックを含み, やや締まりがある。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器深鉢片113点, 凹石1点, 礫6点が出土している。西部の出土密度がやや高い。土器のほとんどが細片である。TP9・13の深鉢は中央部の覆土下層から, TP7・8・10~12の深鉢は西部の覆土下層から出土している。TP7・8・10~12は同一個体の可能性が高い。

所見 時期は, 出土土器から縄文時代前期前葉(黒浜式期)と考えられる。



第9図 第4号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表(第9図)

番号	器種	計測値				石質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
TP7~13	深鉢	単節縄文・無節縄文による羽状縄文, ループ文を施す。						覆土下層	前期前葉 7~12PL8, 13PL9
Q1	凹石	(8.8)	(6.7)	5.4	(240.9)	安山岩	表面凹部1か所。	覆土	

第5号住居跡 (第10~12図)

位置 調査Ⅲ区の中央部, C3h7区。住居跡の集中区に位置する。

重複関係 第6号住居跡を掘り込んでいる。また, 北西コーナー部を第182号土坑に, 東壁を第181号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.83m, 確認できた短軸3.05mで, 平面形は長方形と推定される。主軸方向はN-14°-Eである。壁は外傾して立ち上がり, 壁高は15~30cmである。

床 平坦である。特に硬化した部分は認められなかった。

ピット 33か所。P1~P33の性格は不明である。

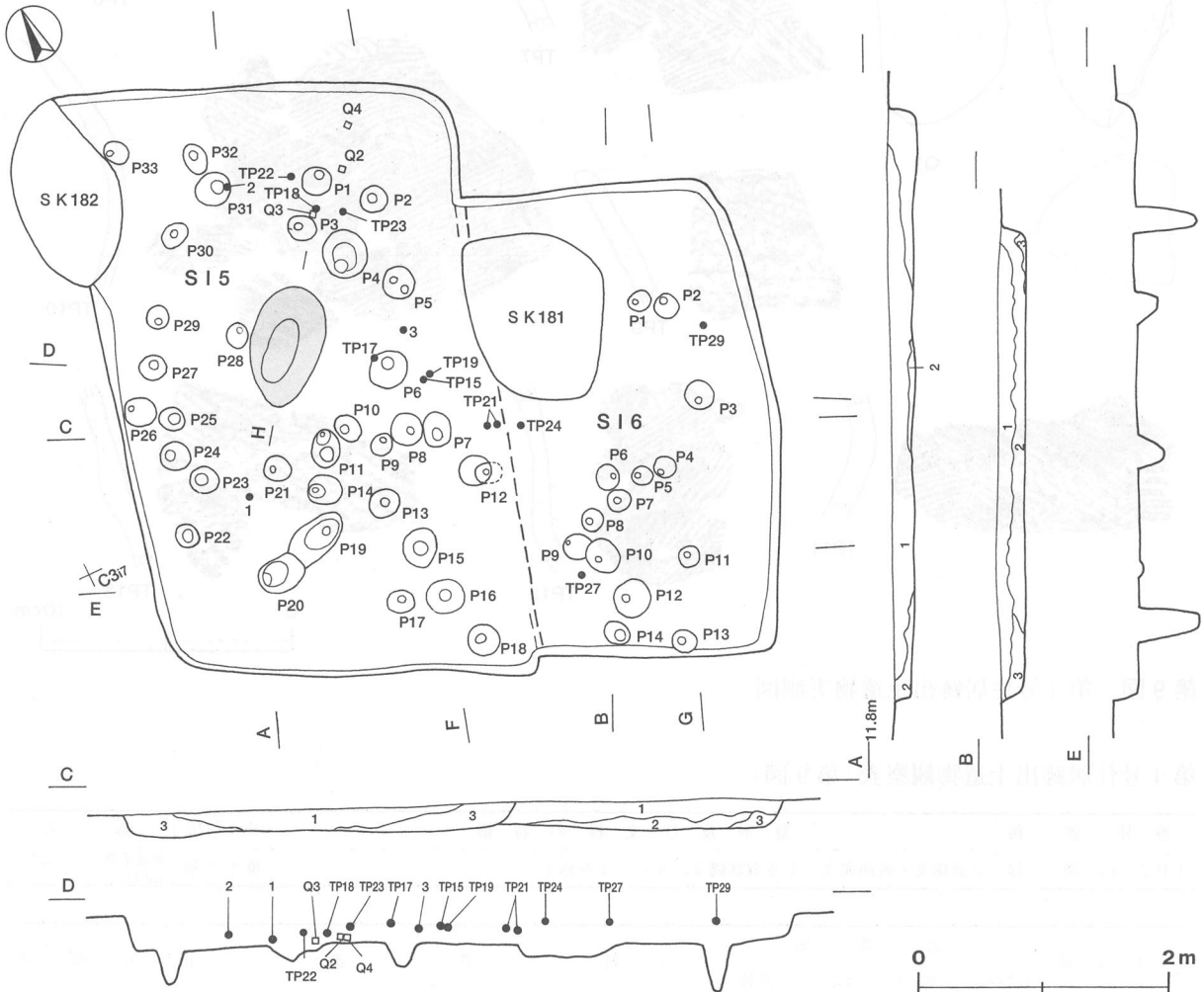
炉 ほぼ中央部に付設されている。長径97cm, 短径58cmのほぼ楕円形で, 床面を17cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床および炉壁は, 火熱を受けて硬化している。

覆土 3層に分層される。全体的に黒褐色を基調として, 粘性が強く, たいへん締っている。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | | |

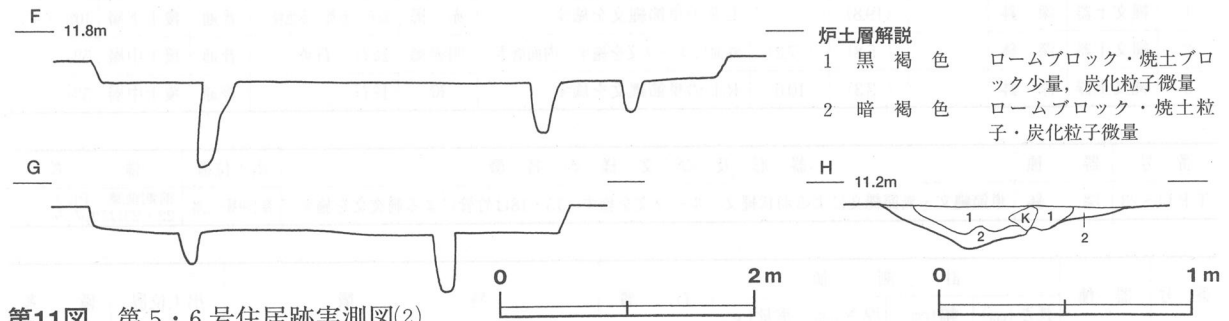
遺物出土状況 縄文土器深鉢片302点, 石鏃1点, 剥片3点, 礫2点, 炭化種子1点が出土している。1の深鉢は南部の覆土下層から, 2の深鉢, Q2の石鏃とTP15・18・19・23の深鉢は北部の覆土中層から, 3の深鉢



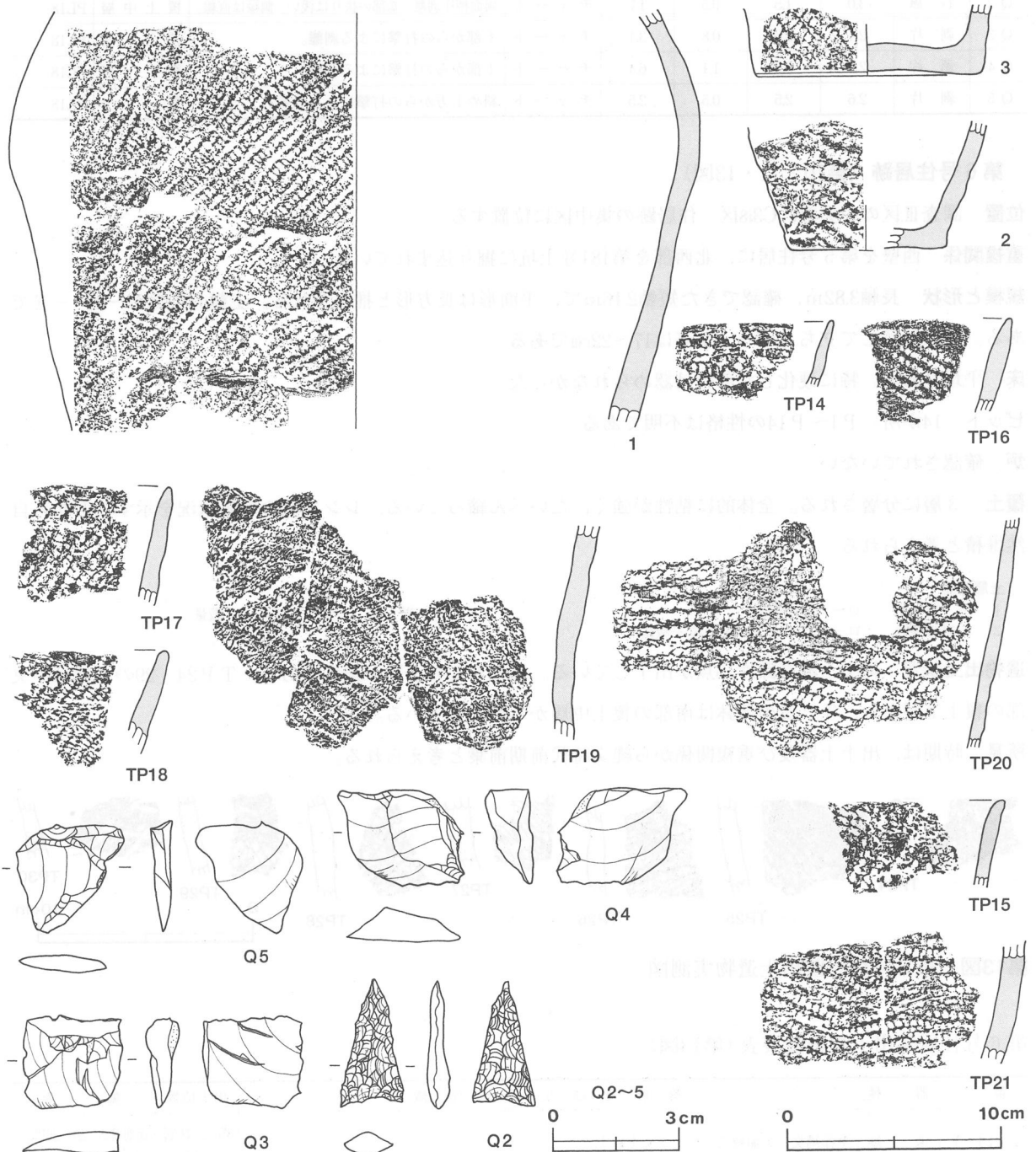
第10図 第5・6号住居跡実測図(1)

は中央部の覆土中層から、T P 21の深鉢は南東部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器及び遺構の形態から縄文時代前期前葉と考えられる。



第11図 第5・6号住居跡実測図(2)



第12図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表(第12図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(19.8)	—	LRの単節縄文を施す。	赤褐	長石 石英 赤色粒子	普通	覆土下層	10% PL7
2	縄文土器	深鉢	—	(5.8)	(7.2)	外面にループ文を施す。内面磨き。	明赤褐	長石 石英	普通	覆土中層	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(3.3)	10.6	RLの単節縄文を施す。	橙	長石	普通	覆土中層	5%

番号	器種	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP14~23	深鉢	単節縄文・無節縄文による羽状縄文, ループ文を施す。15・18は竹管による刺突文を施す。	覆土中層~上層	前期前葉 PL9 22・23はPLのみ

番号	器種	計測値				石質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q2	石鏃	3.0	1.5	0.5	1.7	チャート	両面押圧剥離。基部の抉りは浅い。側縁は直線。	覆土中層	PL18
Q3	剥片	2.1	2.3	0.8	3.1	チャート	上部からの打撃による剥離。	覆土下層	PL18
Q4	剥片	2.2	3.0	1.1	6.4	チャート	上部からの打撃による剥離。	覆土下層	PL18
Q5	剥片	2.6	2.5	0.5	2.5	チャート	斜め上方からの打撃による剥離。	覆土	PL18

第6号住居跡(第10・11・13図)

位置 調査Ⅲ区の中央部, C38区。住居跡の集中区に位置する。

重複関係 西壁を第5号住居に, 北西部を第181号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.82m, 確認できた短軸2.16mで, 平面形は長方形と推定される。主軸方向はN-19°-Eである。壁は外傾して立ち上がり, 壁高は17~22cmである。

床 平坦である。特に硬化した部分は認められなかった。

ピット 14か所。P1~P14の性格は不明である。

炉 確認されていない。

覆土 3層に分層される。全体的に粘性が強く, たいへん締っている。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説

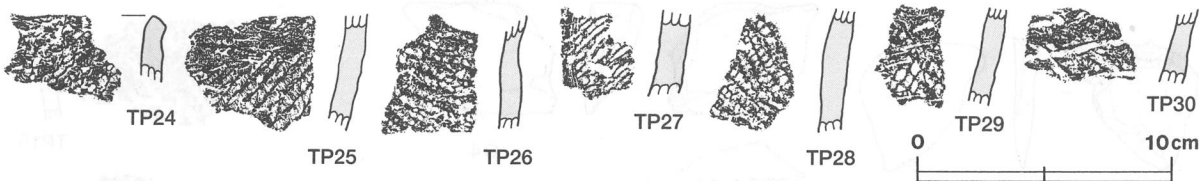
1 黒褐色 ローム粒子微量

2 にぶい黄褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

3 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器深鉢片18点が出土している。ほとんどの土器が細片である。TP24・29の深鉢は中央部の覆土上層から, TP27の深鉢は南部の覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土土器及び重複関係から縄文時代前期前葉と考えられる。



第13図 第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表(第13図)

番号	器種	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP24~30	深鉢	単節縄文, 無節縄文, ループ文を施す。	覆土中層 ~上層	前期前葉 24~26PL9, 27~30PL10

第10号住居跡 (第14・15図)

位置 調査Ⅱ区の南部, C2g8区。低地の縁辺部に位置する。

重複関係 南東コーナー付近で第12号住居と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と平面形 南西コーナー部が調査区域外となっている。確認できた長軸5.61m, 短軸4.82mで, 平面形は長方形と推定される。主軸方向はN-14°-Wである。壁は外傾して立ち上がり, 壁高は19~27cmである。

床 平坦である。特に硬化した部分は認められなかった。

炉 中央部やや北寄りに位置する。長径88cm, 短径50cmのほぼ楕円形で, 床面を皿状に19cmほど掘りくぼめたのち, 土を盛り, 中央に炉床を作っている。炉床は, 火熱を受けて赤変硬化している。

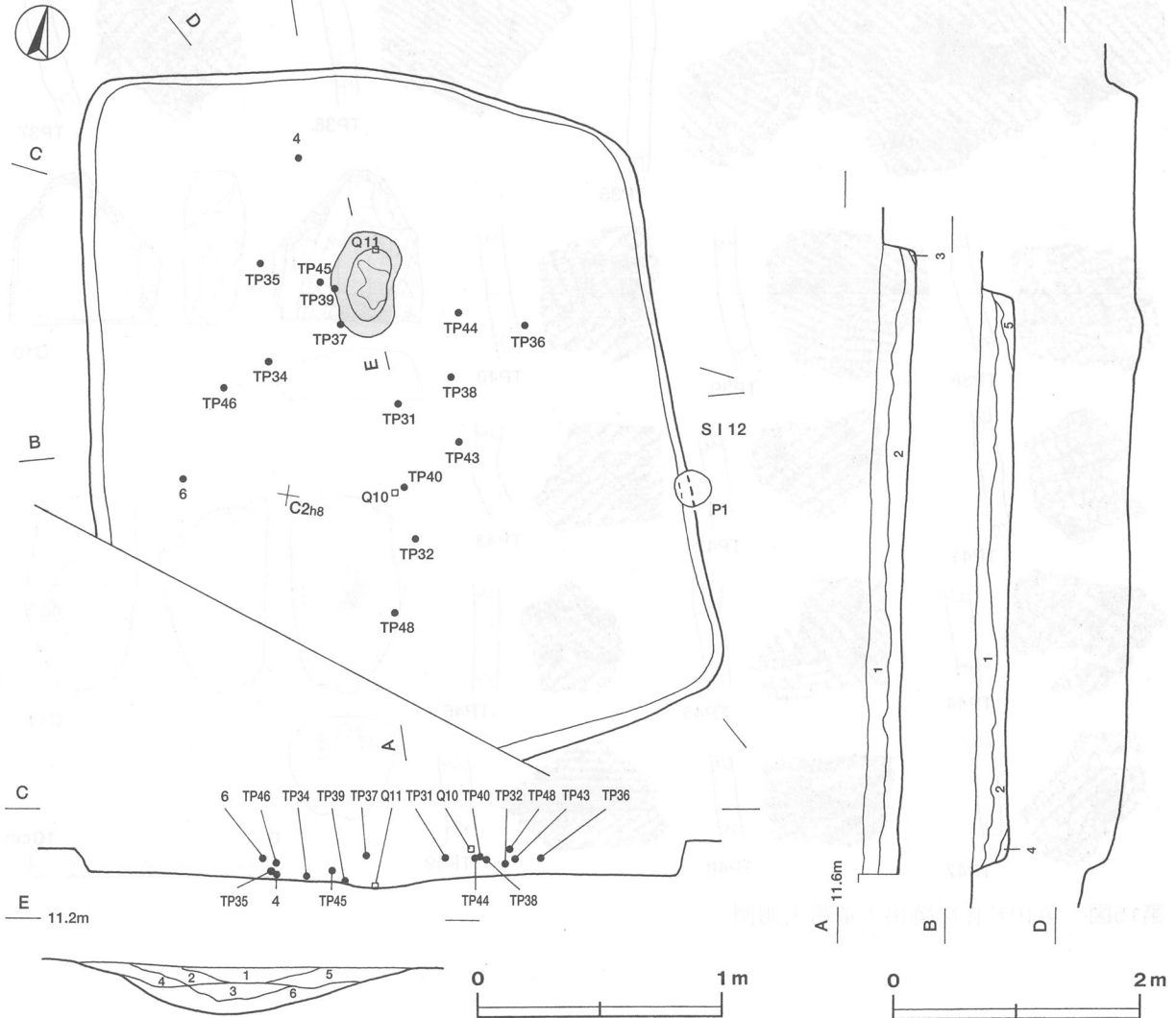
炉土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|-------|-------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | 炭化粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | 焼土粒子中量, ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | 焼土粒子微量 |
| 3 赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子少量 | 6 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |

覆土 5層に分層される。全体的に暗褐色で, 土の粒子が細かいため, 締まりがない。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説

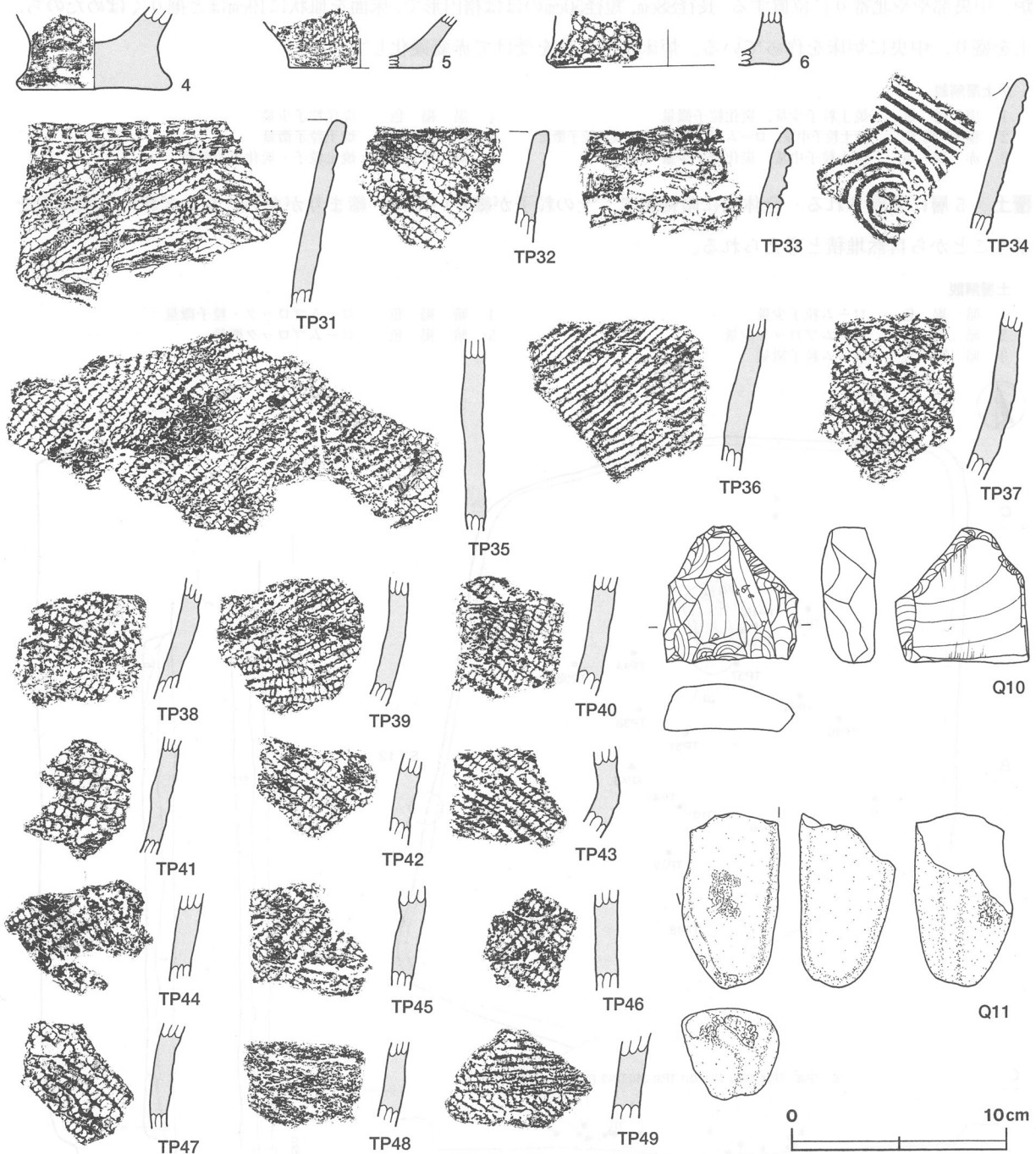
- | | | | |
|-------|-----------|-------|--------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子微量 | | |



第14図 第10号住居跡実測図

遺物出土状況 縄文土器深鉢片293点、敲石1点、剥片2点、碎片3点、礫9点が出土している。遺物は中央部から集中して出土している。4の深鉢とTP35の深鉢は北部の床面直上から、TP45の深鉢は覆土下層から、6の深鉢は西部の覆土中層から、TP46の深鉢は覆土下層から、Q10の剥片とTP31・37・38・40・43・44の深鉢は中央部の覆土中層から、TP32の深鉢は覆土下層から、TP34の深鉢は床面直上から、Q11の敲石とTP39の深鉢は炉内から、TP36の深鉢は東部の覆土下層から、TP48の深鉢は南部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器及び遺構の形態から縄文時代前期前葉（関山式期）と考えられる。



第15図 第10号住居跡出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表（第15図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
4	縄文土器	深鉢	—	(3.6)	7.2	L Rの単節縄文を施す。	明褐	長石 石英	普通	床面直上	5%
5	縄文土器	深鉢	—	(2.2)	[6.6]	L Rの単節縄文を施す。	明褐	長石 石英 白色粒子	普通	覆土	5%
6	縄文土器	深鉢	—	(2.5)	[11.6]	L Rの単節縄文を施す。	明褐	長石 石英	普通	覆土中層	5%

番号	器種	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP31~49	深鉢	単節縄文・無節縄文による羽状縄文，ループ文を施す。31は口縁端部に沈線を巡らし，刺突文を施す。33は口縁端部に押捺文を施す。34は沈線を渦巻き状に巡らし，刺突文を施す。48は竹管による刺突文を施す。	床面～覆土中層	前期前葉 31～42PL10, 43～49PL11

番号	器種	計測値				石質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q 6	碎片	2.0	1.3	0.4	0.8	黒曜石	打撃の際に飛び散った石片。	覆土	PL18のみ
Q 7	碎片	1.5	1.9	0.2	0.8	黒曜石	打撃の際に飛び散った石片。	覆土	PL18のみ
Q 8	剥片	2.6	1.0	0.5	0.6	黒曜石	上部からの打撃による剥離。	覆土	PL18のみ
Q 9	碎片	2.3	1.2	0.8	1.6	黒曜石	打撃の際に飛び散った石片。	覆土	PL18のみ
Q10	剥片	3.1	3.1	1.3	12.9	黒曜石	上部からの打撃による剥離。	覆土中層	PL18
Q11	敲石	(8.2)	(4.6)	(4.4)	(197.7)	安山岩	先端部敲打痕。	炉内	PL7

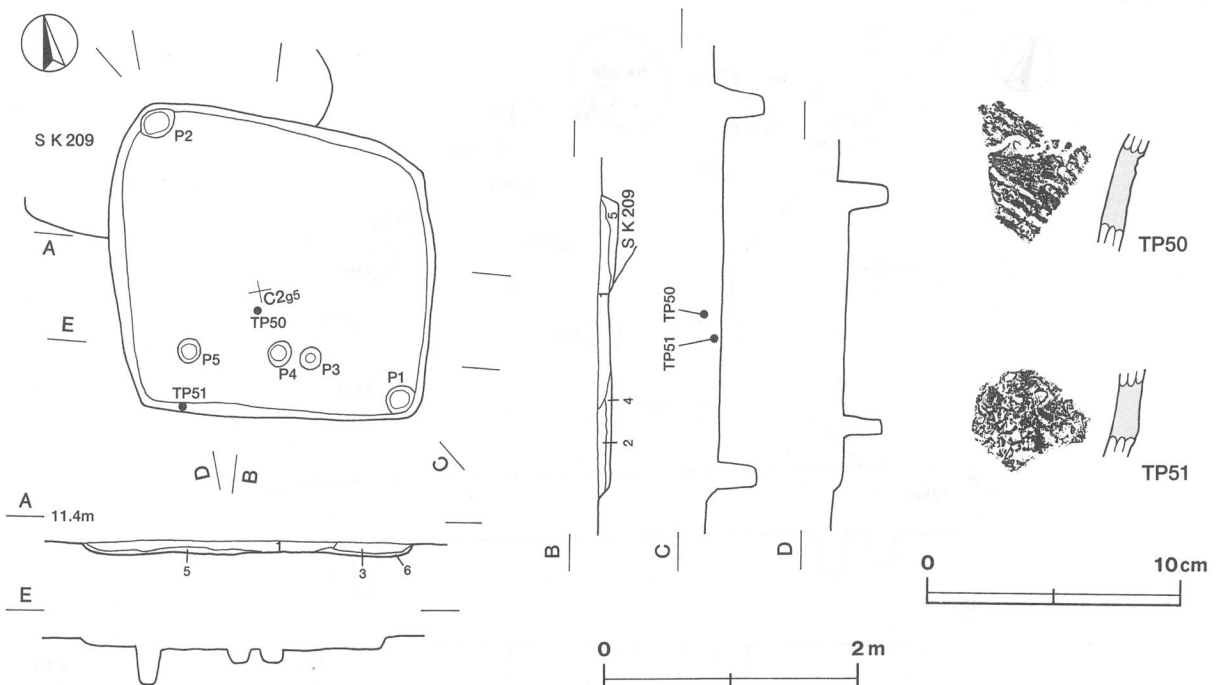
第11号住居跡（第16図）

位置 調査Ⅱ区の南部，C2f5区。低地の縁辺部に位置する。

重複関係 第209号土坑の南部を掘り込んでいる。

規模と形状 一辺2.45mで，平面形は不整形である。主軸方向はN-75°-Wである。壁は緩やかに立ち上がり，壁高は5～10cmである。

床 平坦である。特に硬化した部分は認められなかった。



第16図 第11号住居跡実測図

ピット 5か所。P1とP2は深さ30~39cmであり、その配置及び規模から柱穴と思われる。P3~P5の性格は不明である。

炉 確認されていない。

覆土 6層に分層される。全体的に暗褐色で、土の粒子が細かいため、締まりがない。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|---------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量, 砂粒微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器深鉢片8点が出土している。すべて細片である。T P 50の深鉢が中央部の覆土中層から、T P 51の深鉢が、南壁沿いの覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器と重複関係から縄文時代前期前葉と考えられる。

第11号住居跡出土遺物観察表(第16図)

番号	器種	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
T P 50・51	深鉢	単節縄文・無節縄文による羽状縄文, ループ文を施す。	覆土中層	前期前葉 PL11

第12号住居跡(第17図)

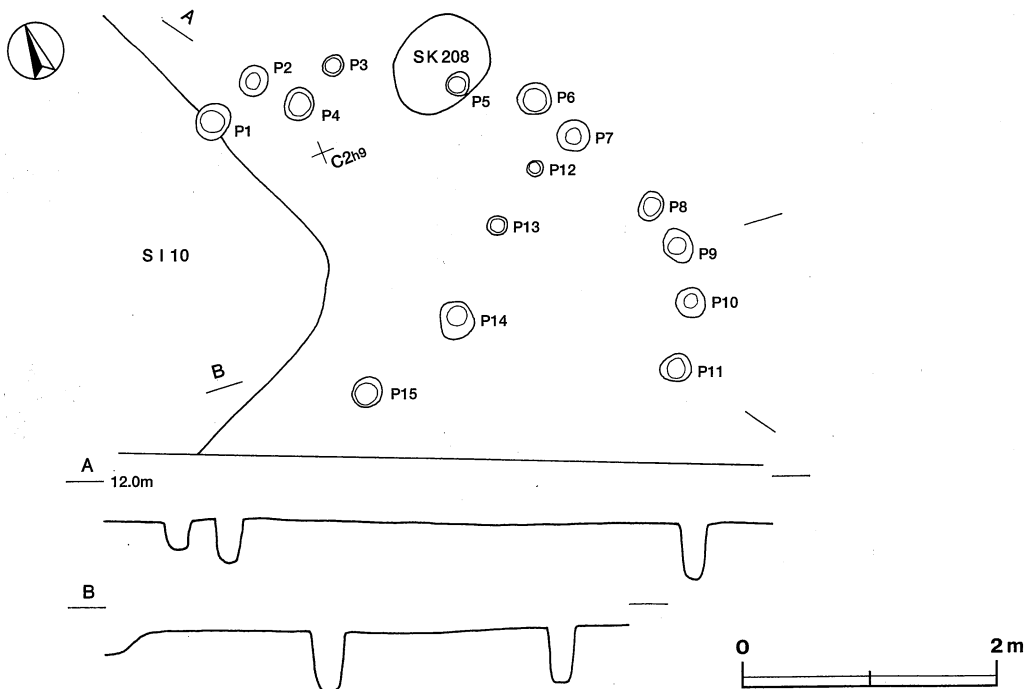
位置 調査Ⅱ区の南部, C2h9区。低地の縁辺部に位置する。

重複関係 北西部で第10号住居と、P5付近で第208号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 壁は確認できなかった。柱穴から規模は長軸4.44m, 短軸3.00mと推定され、平面形は不明である。

ピット 15か所。P1~P11は深さ17~52cmであり、その配置及び規模から柱穴と思われる。P12~P15の性格は不明である。

炉 確認されていない。



第17図 第12号住居跡実測図

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 出土遺物がなく、時期の判断は困難であるが、調査Ⅱ区の表土中の遺物が、ほとんど縄文時代前期前葉であり、重複している第10号住居跡内に本跡に伴うピットは確認できないことから、縄文時代前期前葉の可能性が高い。

表2 住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸) (m)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	出土遺物	出土遺物	備考 新旧関係(古→新), 時代, その他
								柱穴	出入口	ピット	炉				
1	D4e8	不明	不明	(5.80)×(4.97)	—	平坦	—	18	—	24	1	不明	縄文土器5(深鉢)	縄文時代前期前葉	(SI1), SK83・84 との新旧は不明
2	C3h6	—	円形	4.41×4.41	4~10	平坦	—	7	—	2	—	自然	縄文土器40(深鉢), 礫2	縄文時代後期前葉	本跡(SI2)→ SK164・165・167
3	C3j8	—	円形	3.37×3.37	15~22	平坦	—	12	5	4	1	自然	縄文土器20(深鉢)	縄文時代中期後葉	(SI3)
4	D3a0	N-15°-W	[長方形]	(5.46)×(3.24)	7~15	平坦	—	—	—	14	—	自然	縄文土器113(深鉢), 凹石 1, 礫6	縄文時代前期前葉	本跡(SI4)→ SK170
5	C3h7	N-14°-E	[長方形]	4.83×(3.05)	15~30	平坦	—	—	—	33	1	自然	縄文土器302(深鉢), 石鏃1, 剥片3, 礫2, 炭化種子1	縄文時代前期前葉	SI6→本跡(SI5) →SK181・182
6	C3i8	N-19°-E	[長方形]	3.82×(2.16)	17~22	平坦	—	—	—	14	—	自然	縄文土器18(深鉢)	縄文時代前期前葉	本跡(SI6)→ SI5, SK181
10	C2g8	N-14°-W	[長方形]	(5.61)×(4.82)	19~27	平坦	—	—	—	—	1	自然	縄文土器293(深鉢), 敲石 1, 剥片2, 砕片3, 礫9	縄文時代前期前葉	(SI10), SI12との 新旧は不明
11	C2f5	N-75°-W	不整形	2.45×2.45	5~10	平坦	—	2	—	3	—	自然	縄文土器8(深鉢)	縄文時代前期前葉	SK209→本跡(SI11)
12	C2h9	不明	不明	(4.44)×(3.00)	—	平坦	—	11	—	4	—	不明		縄文時代前期前葉	(SI12), SI10・SK208 との新旧は不明

(2) 土坑

調査の結果、縄文時代の土坑17基が検出された。調査区でみると、Ⅱ区から4基、Ⅲ区から11基、Ⅳ区から2基である。Ⅰ区での遺構は確認されていない。

以下、主な遺構と出土遺物について記述し、その他のものは第33図と一覧表に記載する。

第66号土坑 (第18図)

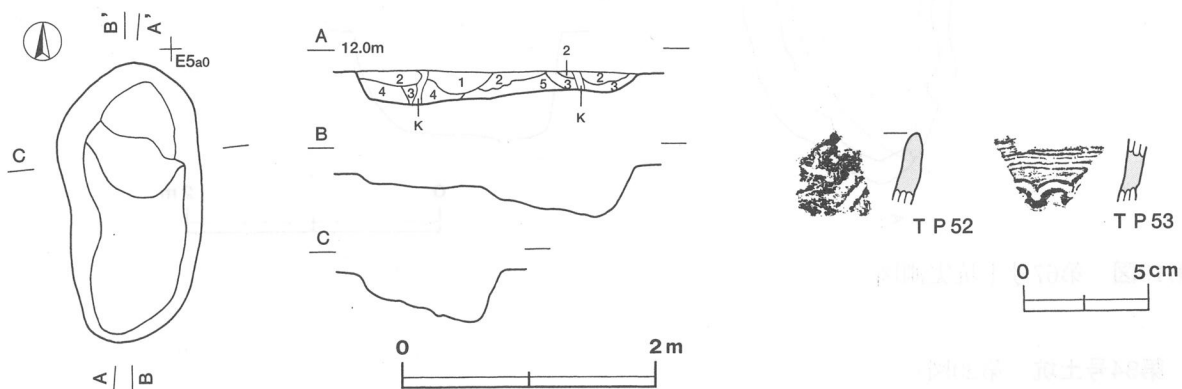
位置 調査Ⅳ区の中央部, E5a9区。

規模と形状 平面形は長径2.22m, 短径1.14mの楕円形である。深さは42cmである。壁は外傾して立ち上がる。長径方向はN-3°-Eである。底面は平坦であるが、南東方向に傾斜している。

覆土 5層に分層される。全体的に暗褐色土を基調とし、たいへん締まっている。ブロック状の堆積状況を示し、ロームブロックや焼土粒子, 炭化粒子を含んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | | |



第18図 第66号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器深鉢片4点、剥片1点が出土している。TP52・53の深鉢が覆土中から出土している。
所見 時期は、出土遺物から縄文時代前期前葉（関山式期）と考えられる。

第66号土坑出土遺物観察表（第18図）

番号	器種	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP52・53	深鉢	52は羽状縄文を施す。53は半載竹管による沈線・コンパス文を施す。	覆土	前期前葉 PL11

番号	器種	計測値				石質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q12	剥片	1.6	2.2	0.3	0.7	黒曜石	上部からの打撃による剥離。	覆土	PL18のみ

第67号土坑（第19図）

位置 調査Ⅳ区の中央部、E5a9区。

規模と形状 平面形は長径2.77m、短径1.68mの不整楕円形である。深さは85cmである。壁は外傾して立ち上がる。長径方向はN-9°-Eである。底面は平坦である。

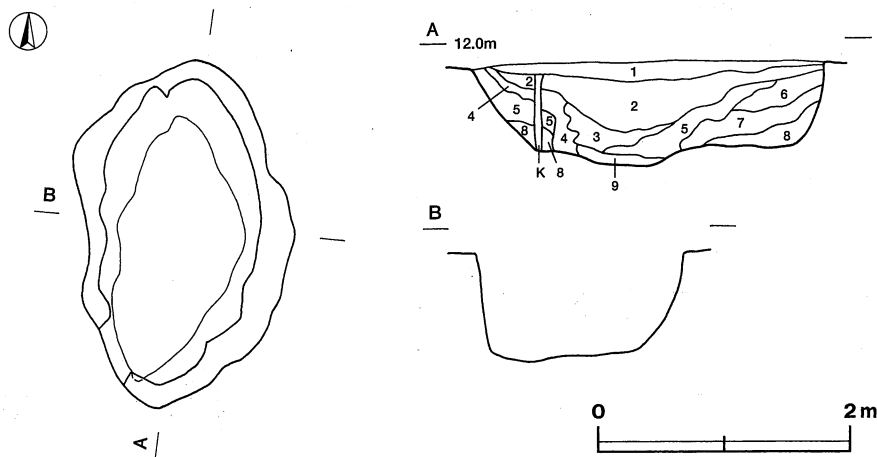
覆土 9層に分層される。全体的に暗褐色土を基調とし、締まっている。ブロック状の堆積状況を示し、ロームブロックや焼土粒子、炭化粒子を多く含んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器深鉢片5点が出土している。

所見 時期は、出土遺物及び遺構の形態から、縄文時代前期前葉（黒浜式期）と考えられる。形態から陥し穴の可能性が高い。



第19図 第67号土坑実測図

第84号土坑（第20図）

位置 調査Ⅲ区の南東部、D4e9区。

重複関係 第1号住居跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は長径1.45m、短径1.14mの楕円形で、深さは42cmである。壁は緩やかに立ち上がる。長径方向はN-38°-Wである。底面は皿状である。

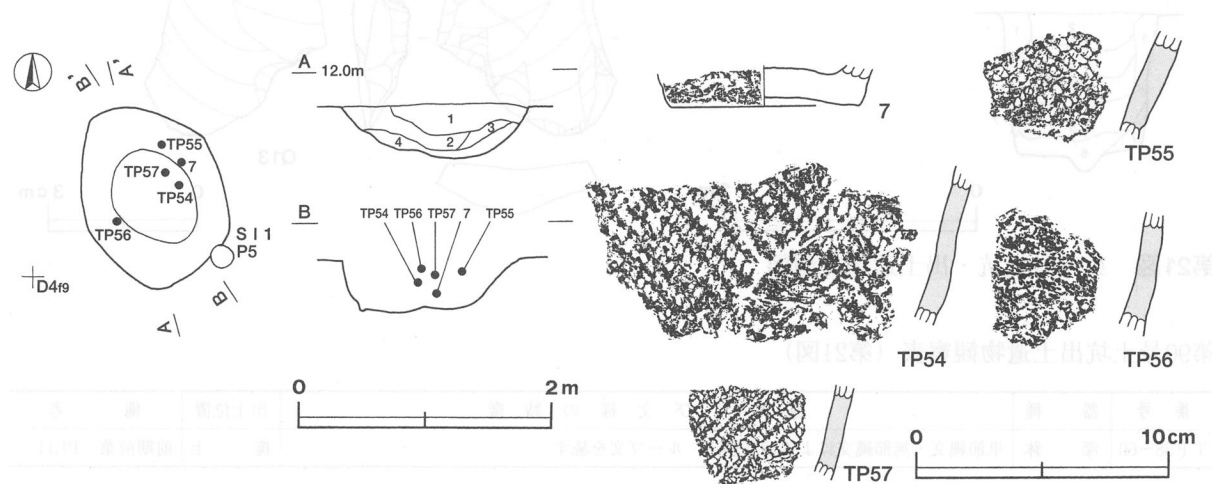
覆土 4層に分層される。ブロック状の堆積状況を示し、ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | 4 褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量 |

遺物出土状況 縄文土器深鉢片36点が、北部から集中して出土している。7の深鉢は覆土中層から、TP54~57の深鉢は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土遺物から縄文時代前期前葉と考えられる。



第20図 第84号土坑・出土遺物実測図

第84号土坑出土遺物観察表 (第20図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
7	縄文土器	深鉢	—	(1.4)	6.4	RLの単節縄文を施す。	明赤褐	長石 石英	普通	覆土中層	5%

番号	器種	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP54~57	深鉢	単節縄文・無節縄文による羽状縄文を施す。	覆土上層	前期前葉 PL11

第90号土坑 (第218図)

位置 調査Ⅲ区の南東部, D4e6区。

規模と形状 平面形は長径1.33m、短径0.96mの楕円形で、深さは113cmである。壁は直立して立ち上がる。長径方向はN-65°-Wである。底面は平坦で、中央部に深さ12cmのピット状の掘り込みを持っている。

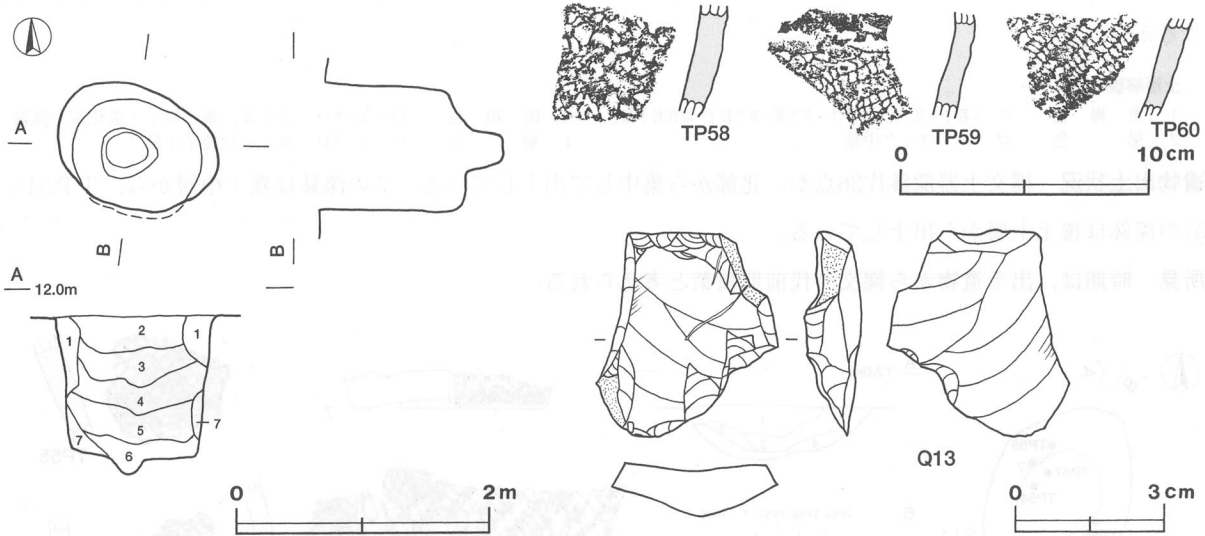
覆土 7層に分層される。ブロック状の堆積状況を示し、部分的に層位が逆転していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------------|-------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, ロームブロック少量, 強く締まっている | 4 黒色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子・ガラス質の粒子微量, 強く締まっている | 5 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子・ガラス質の粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| | | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器深鉢片21点，剥片1点が出土している。Q13の剥片，TP58～60の深鉢は覆土中から出土している。

所見 時期は，出土遺物から縄文時代前期前葉と考えられる。



第21図 第90号土坑・出土遺物実測図

第90号土坑出土遺物観察表（第21図）

番号	器種	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP58～60	深鉢	単節縄文・無節縄文による羽状縄文，ループ文を施す。	覆土	前期前葉 PL11

番号	器種	計測値				石質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q13	剥片	4.0	3.6	0.9	12.8	頁岩	上部からの打撃による剥離。	覆土	PL18

第93号土坑（第22図）

位置 調査Ⅲ区の南東部，D4d7区。

重複関係 東壁を第5号井戸跡に，北部を第9号溝に掘り込まれている。

規模と形状 確認できた長径2.50m，短径1.28mで，平面形は楕円形と推定され，深さは82cmである。壁は外傾して立ち上がる。長径方向は，N-22°-Eである。底面は平坦であるが，少し傾斜している。

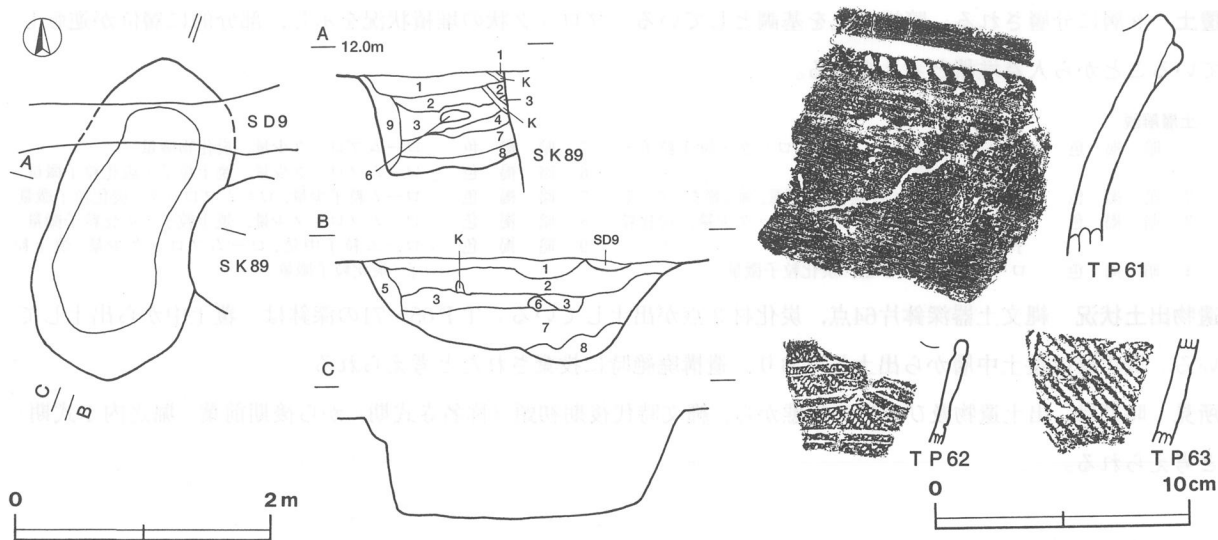
覆土 9層に分層される。ブロック状の堆積状況を示し，部分的に層位が逆転していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量	5 暗褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量，強く締まっている	6 暗褐色	ローム粒子中量，ロームブロック少量
3 暗褐色	ローム粒子中量，ロームブロック少量，強く締まっている	7 黒褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子微量，強く締まっている	8 黒褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量，強く締まっている
		9 暗褐色	ローム粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器深鉢片22点が出土している。TP61～63の深鉢は，覆土中から出土している。

所見 時期は，出土遺物及び遺構の形態から，縄文時代後期前葉と考えられる。形態から陥し穴の可能性が考えられる。



第22図 第93号土坑・出土遺物実測図

第93号土坑出土遺物観察表 (第22図)

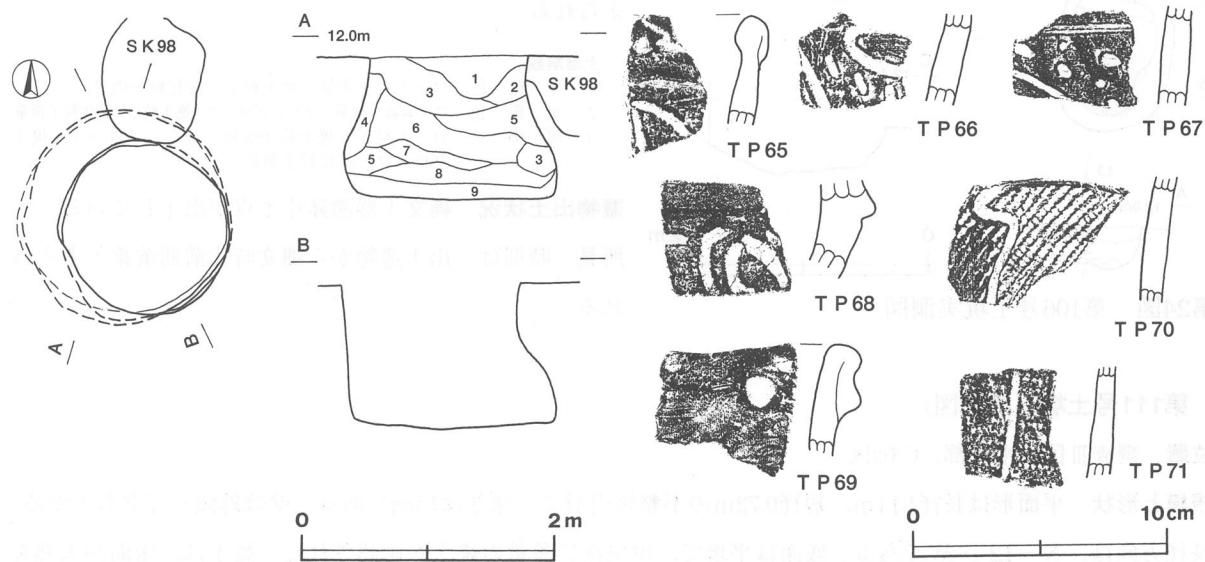
番号	器種	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP61~63	深鉢	61は口縁部に隆帯を貼り付け、刺突文を施す。62はRLの単節縄文を地文に、沈線を巡らす。63はRLの単節縄文を施す。	覆土	後期前葉 PL11

第95号土坑 (第23図)

位置 調査Ⅲ区の南東部, D4e5区。

重複関係 第98号土坑の南部を掘り込んでいる。

規模と形状 平面形は上面が径1.42m, 底面が径1.66mの円形で、深さは115cmである。壁は外傾して立ち上がり、フラスコ状を呈する。底面は平坦である。



第23図 第95号土坑・出土遺物実測図

覆土 9層に分層される。暗褐色土を基調としている。ブロック状の堆積状況を示し、部分的に層位が逆転していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量
2 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量, 強く締まっている	6 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子中量, ロームブロック少量, 炭化粒子微量, 強く締まっている	7 暗褐色	ローム粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
		9 暗褐色	ローム粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器深鉢片64点, 炭化材3点が出土している。T P 65~71の深鉢は, 覆土中から出土している。炭化材は覆土中層から出土しており, 遺構廃絶時に投棄されたと考えられる。

所見 時期は, 出土遺物及び遺構の形態から, 縄文時代後期初頭(称名寺式期)から後期前葉(堀之内I式期)と考えられる。

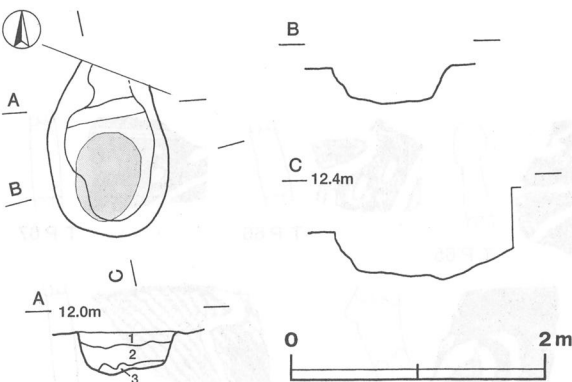
第95号土坑出土遺物観察表 (第23図)

番号	器種	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
T P 65~71	深鉢	65~67は沈線で区画した中に刺突文を施す。68は沈線で区画した中を磨り消している。69は口縁部に隆帯を貼り付ける。70・71は単節縄文の地文に沈線を巡らす。	覆土	後期初頭から前葉 PL12

第106号土坑 (第24図)

位置 調査Ⅲ区の南東部, D4a5区。

規模と形状 北部が調査区域外であることから, 確認できた長径1.35m, 短径0.93mで, 平面形は楕円形と推定される。深さは28cmである。壁は外傾して立ち上がる。長径方向は, N-3°-Wである。底面は平坦で, 中央部から南部にかけて多量の焼土が確認された。焼土は, 床面が火熱を受けて赤変硬化していないことから, 遺構廃絶時に, 意図的に投棄されたと考えられる。



覆土 3層に分層される。暗褐色土を基調とし, 締まりがない。焼土が投棄されていることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器深鉢片1点が出土している。

所見 時期は, 出土遺物から縄文時代前期前葉と考えられる。

第24図 第106号土坑実測図

第111号土坑 (第25図)

位置 調査Ⅲ区の中央部, C4j2区。

規模と形状 平面形は長径1.11m, 短径0.72mの不整楕円形で, 深さは15cmである。壁は外傾して立ち上がる。長径方向は, N-12°-Wである。底面は平坦で, 中央部に多量の焼土が確認された。焼土は, 床面が火熱を受けて赤変硬化していないことから, 遺構廃絶時に, 意図的に投棄されたと考えられる。

覆土 5層に分層される。焼土ブロック・焼土粒子を含み, たいへん締まっている。焼土が投棄されているこ

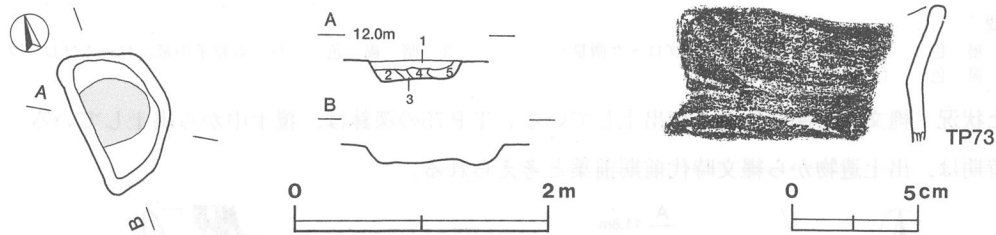
とから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|----------|------------------|--------|----------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, 焼土ブロック少量 | 5 暗褐色 | 焼土粒子・炭化物微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器深鉢片 9点が出土している。TP73の深鉢は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土遺物から縄文時代晩期前葉（安行Ⅲ式期）と考えられる。



第25図 第111号土坑・出土遺物実測図

第111号土坑出土遺物観察表（第25図）

番号	器種	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP73	深鉢	沈線を巡らす。	覆土	晩期前葉 PL12

第178号土坑（第26図）

位置 調査Ⅲ区の中央部, D3j8区。

規模と形状 平面形は長径1.52m, 短径0.86mの楕円形で、深さは21cmである。壁は一部が緩やかに、外傾して立ち上がる。長径方向は、N-28°-Eである。底面は平坦である。

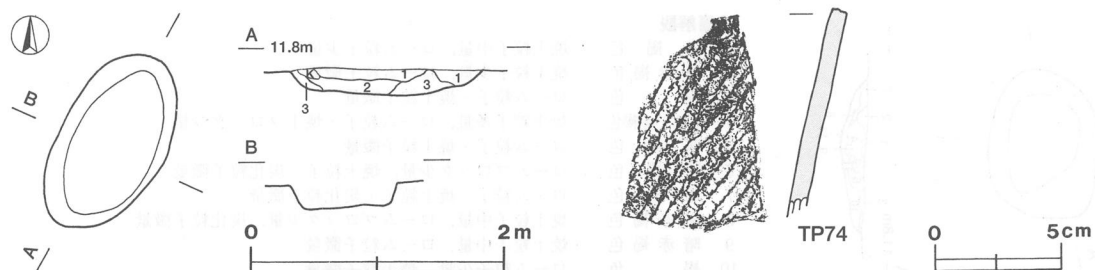
覆土 3層に分層される。暗褐色土を基調とし、締まっている。ブロック状の堆積状況を示していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器深鉢片 2点が出土している。TP74の深鉢は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土遺物から縄文時代前期前葉と考えられる。



第26図 第178号土坑・出土遺物実測図

第178号土坑出土遺物観察表（第26図）

番号	器種	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP74	深鉢	無節縄文を施す。	覆土	前期前葉 PL12

第179号土坑（第27図）

位置 調査Ⅲ区の中央部，C3i8区。

規模と形状 平面形は長径0.97m，短径0.54mの楕円形で，深さは20cmである。壁は緩やかに立ち上がる。長径方向は，N-25°-Eである。底面は平坦である。

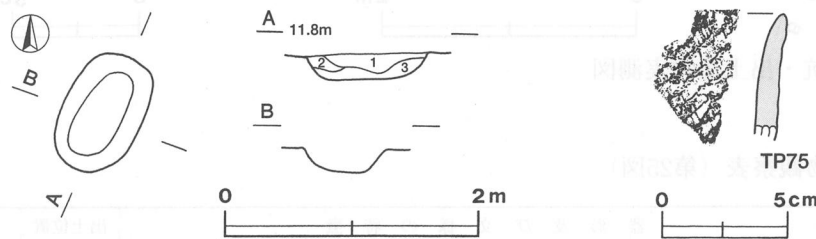
覆土 3層に分層される。暗褐色土を基調とし，粒子の細かい土である。レンズ状の堆積状況を示していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，ロームブロック微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量，ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器深鉢片5点が出土している。TP75の深鉢は，覆土中から出土している。

所見 時期は，出土遺物から縄文時代前期前葉と考えられる。



第27図 第179号土坑・出土遺物実測図

第179号土坑出土遺物観察表（第27図）

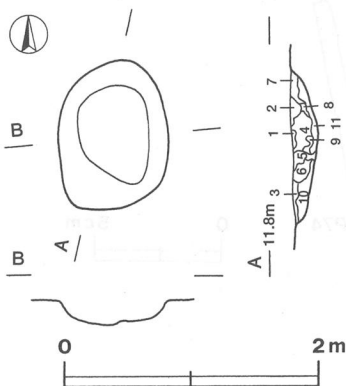
番号	器種	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP75	深鉢	LRの単節縄文による羽状縄文を施す。	覆土	前期前葉 PL12

第180号土坑（第28図）

位置 調査Ⅲ区の中央部，C3i8区。

規模と形状 平面形は長径1.13m，短径0.87mの楕円形で，深さは20cmである。壁は緩やかに立ち上がる。長径方向は，N-12°-Wである。底面は皿状である。

覆土 11層に分層される。ブロック状の堆積状況を示し，1・2・4・8・9層は投棄された焼土を含んで，赤変していることから人為堆積と考えられる。



土層解説

- | | |
|----------|-------------------------|
| 1 赤褐色 | 焼土粒子中量，ローム粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量，ローム粒子・焼土ブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 9 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，ローム粒子微量 |
| 10 褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 |
| 11 褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器深鉢片8点が出土している。

所見 時期は，出土遺物から縄文時代前期前葉と考えられる。

第28図 第180号土坑実測図

第200号土坑（第29図）

位置 調査Ⅱ区の南部，C2g6区。

規模と形状 平面形は長径0.8m，短径0.6mの楕円形で，深さは33cmである。壁は緩やかに立ち上がる。長径方向は，N-64°-Eである。底面は皿状で，中央部に深さ24cmのピット状の掘り込みを持っている。

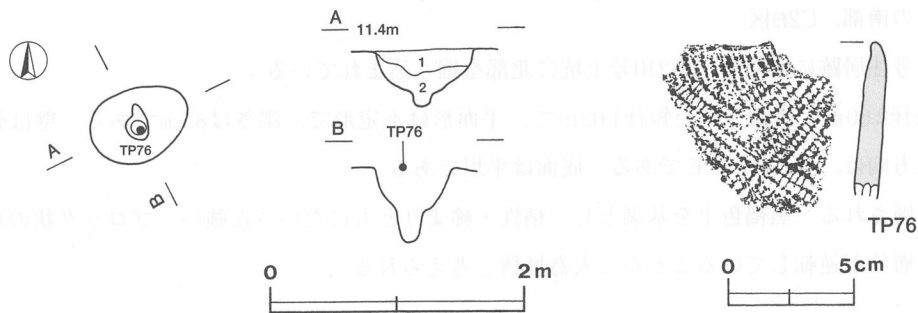
覆土 2層に分層される。ロームブロックと焼土粒子を含み，粘性・締まりともにたいへん強いことから，人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子中量，ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器深鉢片2点が出土している。TP76の深鉢は，覆土上層から出土している。

所見 時期は，出土遺物から縄文時代前期前葉（黒浜式期）と考えられる。



第29図 第200号土坑・出土遺物実測図

第200号土坑出土遺物観察表

番号	器種	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP76	深鉢	口縁部に刺突文を，胴部に単節縄文による羽状縄文を施す。	覆土	前期前葉 PL12

第207号土坑（第30・31図）

位置 調査Ⅱ区の南部，C2e8区。

規模と形状 平面形は長径2.32m，短径1.34mの楕円形で，深さは29cmである。壁は緩やかに立ち上がる。長径方向は，N-53°-Eである。底面は平坦で，北東部に深さ15cmのピット状の掘り込みを持っている。

覆土 4層に分層される。黒褐色土を基調とし，粘性・締まりともにたいへん強い。ブロック状の堆積状況を示すことから，人為堆積と考えられる。

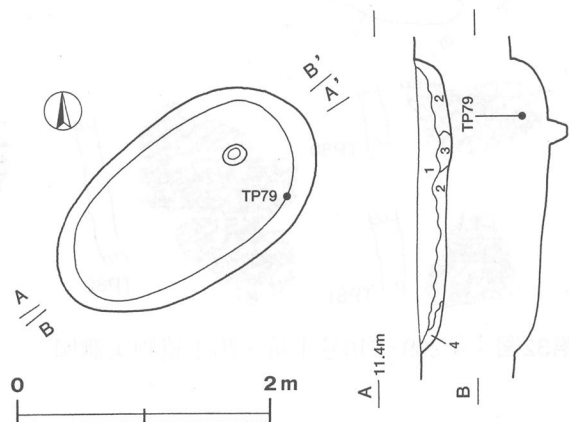
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量

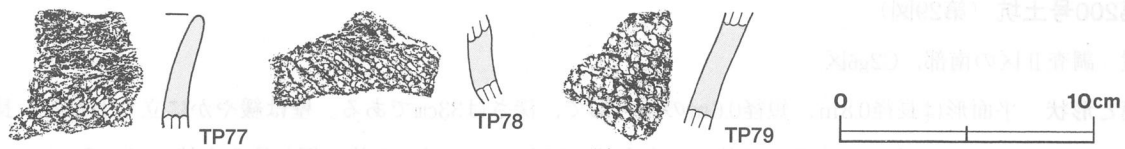
遺物出土状況 縄文土器深鉢片23点が出土している。

TP77の深鉢は覆土中層から，TP78・79の深鉢は覆土中から出土している。

所見 時期は，出土遺物から縄文時代前期前葉（黒浜式期）と考えられる。



第30図 第207号土坑実測図



第31図 第207号出土遺物実測図

第207号土坑出土遺物観察表 (第31図)

番号	器種	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP77~79	深鉢	77は口縁端部に半載竹管による刺突文を、胴部にRLの単節縄文を施す。78・79はRLの単節縄文を施す。	覆土	前期前葉 PL12

第209号土坑 (第32図)

位置 調査Ⅱ区の南部, C2E5区。

重複関係 第11号住居跡に南部を, 第210号土坑に北部を掘り込まれている。

規模と形状 長径2.60m, 確認された短径1.02mで, 平面形は不定形で, 深さは85cmである。壁は外傾して立ち上がる。長径方向は, N-76°-Eである。底面は平坦である。

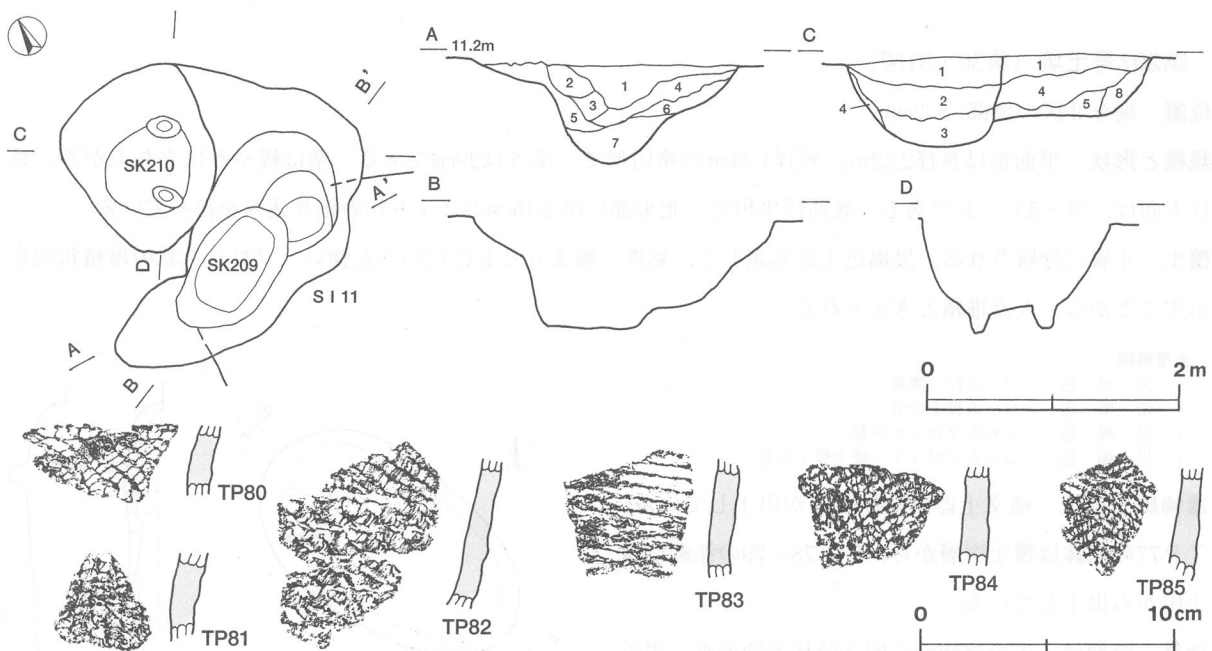
覆土 8層に分層される。黒褐色土を基調とし, 粘性・締まりともにたいへん強い。ブロック状の堆積状況を示し, 部分的に層位が逆転していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|----------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量, ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | 8 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器深鉢片19点が出土している。TP80・81の深鉢は, 覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土遺物から縄文時代前期前葉 (黒浜式期) と考えられる。



第32図 第209・210号土坑・出土遺物実測図

第209号土坑出土遺物観察表（第32図）

番号	器種	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP80・81	深鉢	RLの単節縄文による羽状縄文を施す。	覆土	前期前葉 PL12む

第210号土坑（第32図）

位置 調査Ⅱ区の南部，C2f5区。

重複関係 第209号土坑の北部を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.50m，確認された短径1.25mで，平面形は不整楕円形と推定され，深さは67cmである。壁は外傾して立ち上がる。長径方向は，N-37°-Eである。底面は平坦で，北東部と南西部に，深さ14~17cmのピット状の掘り込みを2か所持っている。

覆土 4層に分層される。粘性・締まりともにたいへん強く，ブロック状の堆積状況を示すことから，人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|----------|-----------|
| 1 褐色 | ローム粒子微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量，ロームブロック微量 | 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |

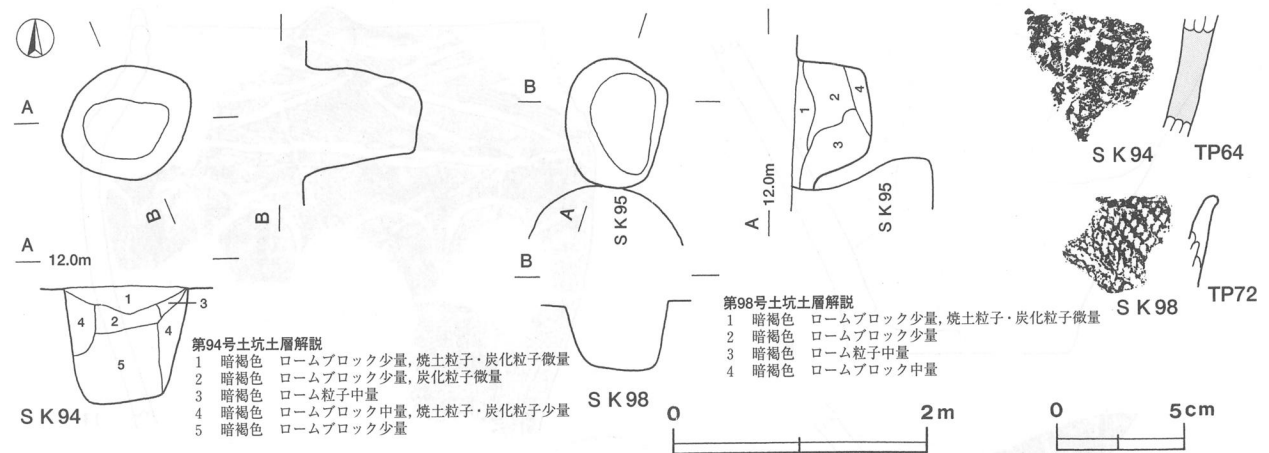
遺物出土状況 縄文土器深鉢片30点が出土している。TP82~85の深鉢は，覆土中から出土している。

所見 時期は，出土遺物から縄文時代前期前葉（黒浜式期）と考えられる。

第210号土坑出土遺物観察表（第32図）

番号	器種	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP82~85	深鉢	単節縄文・無節縄文による羽状縄文を施す。	覆土	前期前葉 PL12

その他の縄文時代の土坑（第33図）



第33図 第94・98号土坑・出土遺物実測図

第94・98号土坑出土遺物観察表

番号	器種	器形及び文様の特徴	出土位置	備考
TP64	深鉢	LRの単節縄文を施す。	SK94覆土	前期前葉 PL12
TP72	深鉢	RLの単節縄文を施す。	SK98覆土	後期 PL12

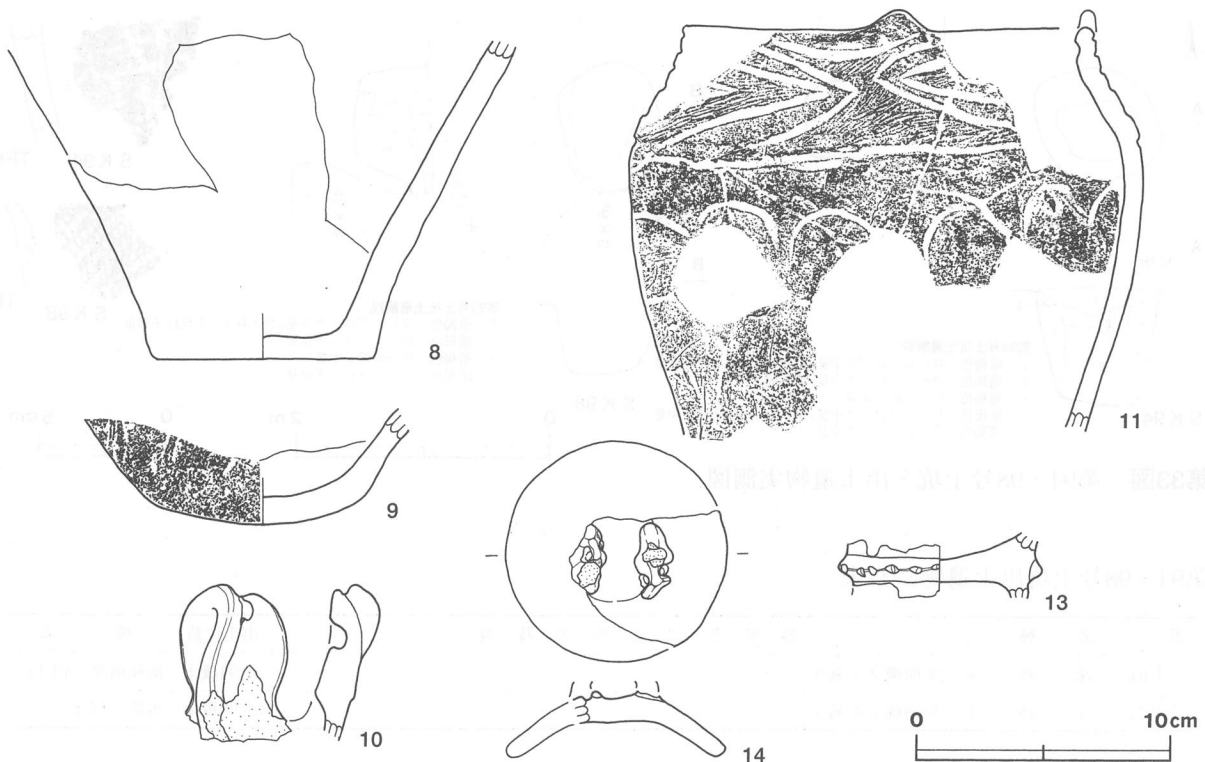
表3 縄文時代の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	時代	備考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸) (m)	深さ (cm)						
66	E 5 a9	N-3°-E	楕円形	2.22 × 1.14	42	外傾	平坦	人為	縄文土器4(深鉢), 剥片1	縄文前期前葉	
67	E 5 a9	N-9°-E	不整楕円形	2.77 × 1.68	85	外傾	平坦	人為	縄文土器5(深鉢)	縄文前期前葉	
84	D 4 e9	N-38°-W	楕円形	1.45 × 1.14	42	緩斜	皿状	人為	縄文土器36(深鉢)	縄文前期前葉	SI1との新旧不明
90	D 4 e6	N-65°-W	楕円形	1.33 × 0.96	113	直立	平坦	人為	縄文土器21(深鉢), 剥片1	縄文前期前葉	
93	D 4 d7	N-22°-E	[楕円形]	2.50 × (1.28)	82	外傾	平坦	人為	縄文土器22(深鉢)	縄文後期前葉	本跡→SK89, SD9
94	D 4 e5	N-34°-E	隅丸方形	0.95 × 0.88	91	外傾	平坦	人為	縄文土器12(深鉢)	縄文前期前葉	
95	D 4 e5	-	円形	1.42 × 1.42	115	外傾	平坦	人為	縄文土器64(深鉢), 炭化材3	縄文後期前葉	SK98→本跡
98	D 4 e5	N-35°-W	楕円形	1.05 × 0.83	62	外傾	平坦	人為	縄文土器4(深鉢)	縄文後期	本跡→SK95
106	D 4 a5	N-3°-W	[楕円形]	(1.35) × 0.93	28	外傾	平坦	人為	縄文土器1(深鉢)	縄文前期前葉	
111	C 4 j2	N-12°-W	不整楕円形	1.11 × 0.72	15	外傾	平坦	人為	縄文土器9(深鉢)	縄文晩期前葉	
178	C 3 j8	N-28°-E	楕円形	1.52 × 0.86	21	外傾・緩斜	平坦	人為	縄文土器2(深鉢)	縄文前期前葉	
179	C 3 i8	N-25°-E	楕円形	0.97 × 0.54	20	緩斜	平坦	自然	縄文土器5(深鉢)	縄文前期前葉	
180	C 3 i8	N-12°-W	楕円形	1.13 × 0.87	20	緩斜	皿状	人為	縄文土器8(深鉢)	縄文前期前葉	
200	C 2 g6	N-64°-E	楕円形	0.80 × 0.60	33	緩斜	皿状	人為	縄文土器2(深鉢)	縄文前期前葉	
207	C 2 e8	N-53°-E	楕円形	2.32 × 1.34	29	緩斜	平坦	人為	縄文土器23(深鉢)	縄文前期前葉	
209	C 2 f5	N-76°-E	不定形	2.60 × (1.02)	85	外傾	平坦	人為	縄文土器19(深鉢)	縄文前期前葉	本跡→SI11, SK210
210	C 2 f5	N-37°-E	[不整楕円形]	1.50 × (1.25)	67	外傾	平坦	人為	縄文土器30(深鉢)	縄文前期前葉	SK209→本跡

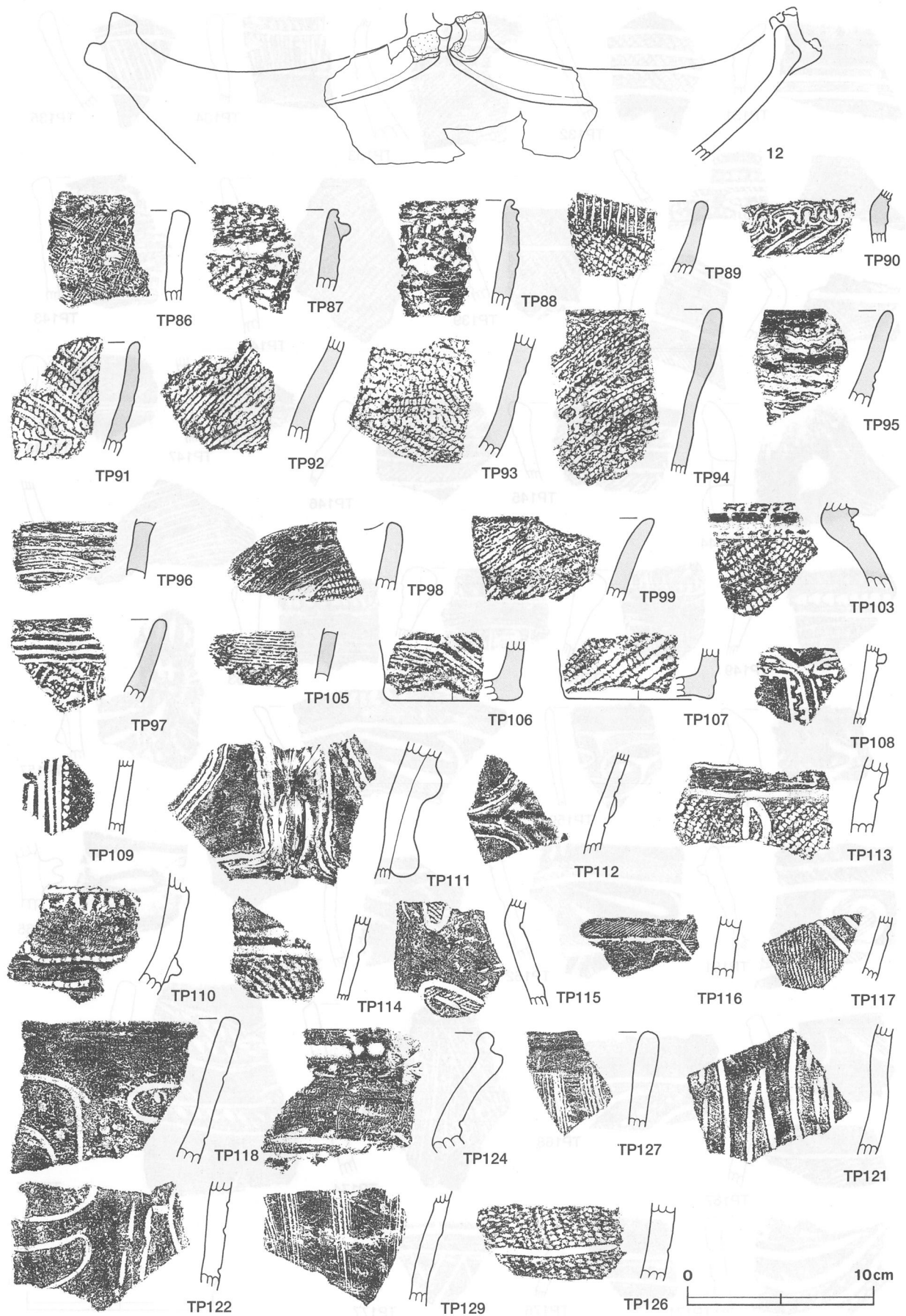
(3) 遺構外出土遺物

調査の結果、遺構に伴わない遺物が全調査区から出土した。特に調査Ⅱ区南部からⅣ区北部にかけて集中している。主な遺物は、縄文土器、土製品(土偶)、石器(石鏃、削器、剥片、打製石斧、磨製石斧、凹石、石皿、敲石)などである。

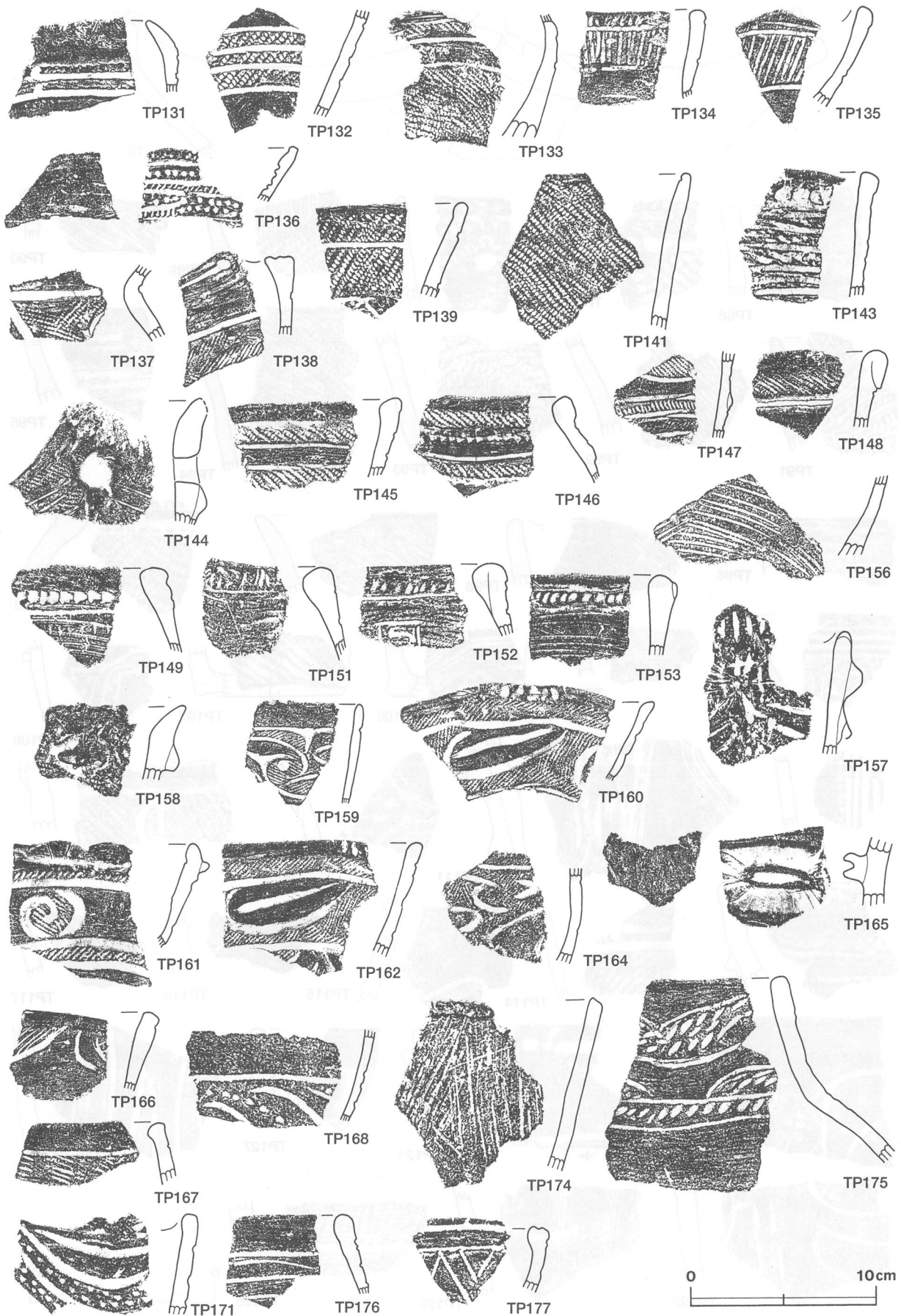
以下、主な出土遺物(第34~37図)について記載する。



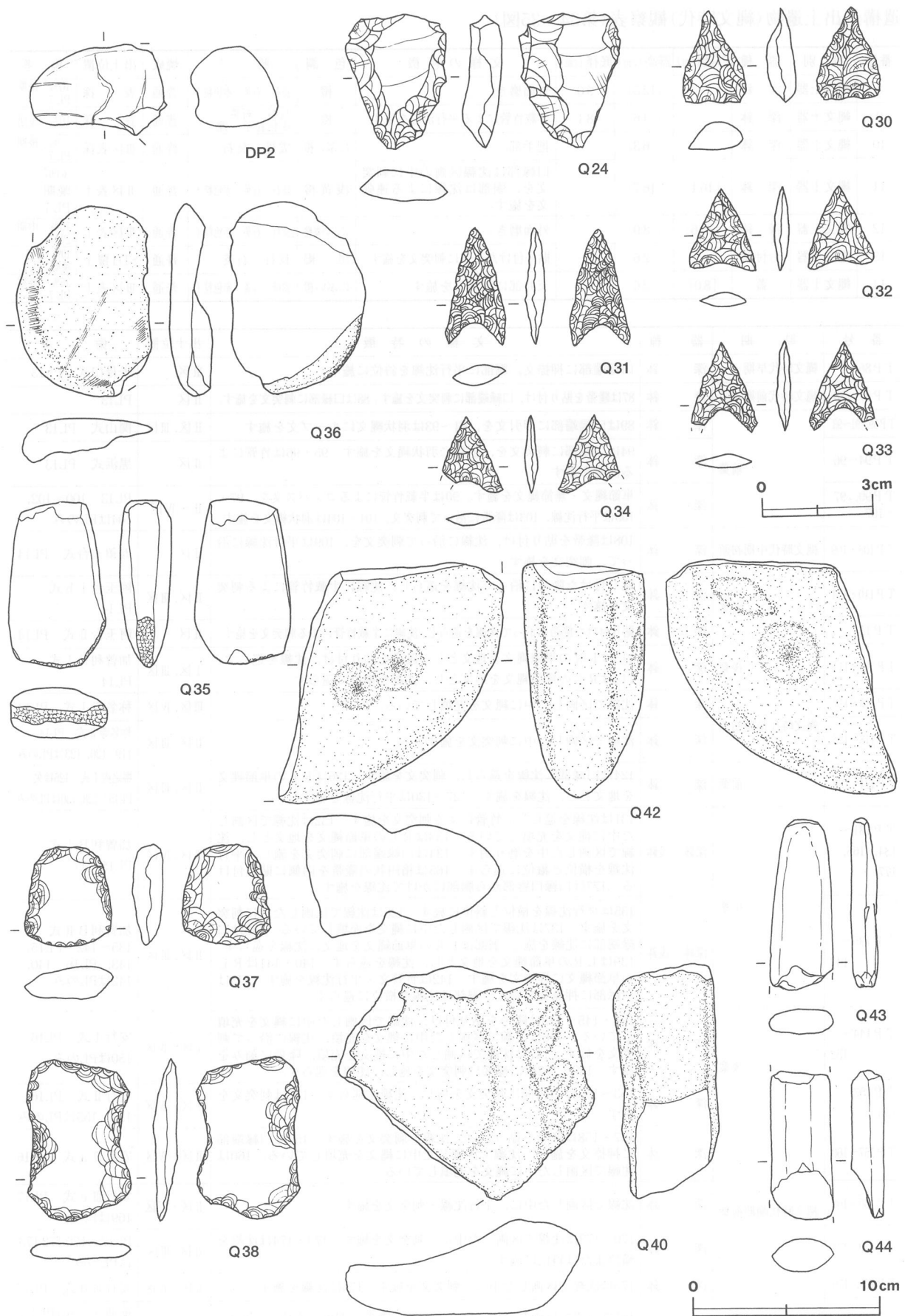
第34図 遺構外出土遺物(縄文時代)実測図(1)



第35図 遺構外出土遺物（縄文時代）実測図(2)



第36図 遺構外出土遺物（縄文時代）実測図(3)



第37図 遺構外出土遺物（縄文時代）実測図(4)

遺構外出土遺物(縄文時代)観察表(第34・35図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	色調	胎土	焼成	出土位置	備考
8	縄文土器	深鉢	—	(12.5)	9.0	外面磨き。	橙	長石 石英 赤色粒子	普通	表 採	10% 後期 PL7
9	縄文土器	深鉢	—	(4.6)	8.1	半載竹管による平行沈線を施す。	橙	長石 石英 赤色粒子 礫	普通	表 採	10% 後期 PL7
10	縄文土器	深鉢	—	(6.3)	—	把手部。	にぶい橙	雲母 長石	普通	Ⅲ区表採	5% 後期 PL7
11	縄文土器	深鉢	[16.1]	(16.7)	—	口縁部は沈線区画の中に刺突文を、胴部は沈線による連弧文を施す。	浅黄橙	長石 石英 赤色粒子	普通	Ⅱ区表土	30% 晩期 PL7
12	縄文土器	浅鉢	[35.6]	(8.0)	—	外面磨き。	にぶい黄橙	長石 石英 赤色粒子	普通	Ⅲ区表土	10% 中期 PL7
13	縄文土器	台付鉢	—	(2.6)	—	貼り付けた隆帯に刺突文を施す。	黒 褐	長石 石英	普通	SD1覆土	10% 後期～ 晩期 PL7
14	縄文土器	蓋	[8.0]	(2.6)	—	天井部に刺突文を施す。	にぶい橙	雲母 石英 赤色粒子	普通	Ⅲ区表土	25% 後期 PL7

番号	時期	器種	文様の特徴			出土位置	備考
TP86	縄文時代早期	深鉢	口縁端部に押捺文、胴部に平行沈線を斜位に施す。			Ⅲ区	子母口式 PL13
TP87・88	縄文時代前期初頭	深鉢	87は隆帯を貼り付け、口縁端部に刺突文を施す。88は口縁部に刺突文を施す。			Ⅱ区	PL13
TP89, 91~93	前葉	深鉢	89は口縁端部に押引文を、91~93は羽状縄文にループ文を施す。			Ⅱ区, Ⅲ区	関山式 PL13
TP94~96		深鉢	94は口縁部に刺突文を、胴部に羽状縄文を施す。95・96は竹管による沈線を施す。			Ⅱ区	黒浜式 PL13
TP90, 97~107		深鉢	単節縄文・無節縄文を施す。90は半載竹管によるコンパス文を、97・105は平行沈線、103は隆帯に沿って刺突文、101・104は羽状縄文を施す。			Ⅱ~Ⅳ区	PL13 100~102, 104はPLのみ
TP108・109		縄文時代中期初頭	深鉢	108は隆帯を貼り付け、沈線に沿って刺突文を、109は平行沈線に沿って、刺突文を施す。			Ⅱ区
TP110・111	前葉	深鉢	貼り付けた隆帯に沿って沈線を巡らし、沈線に半載竹管による刺突文を施す。			Ⅱ区, Ⅲ区	阿玉台Ⅰb式 PL14'
TP112		深鉢	貼り付けた隆帯に沿って沈線を巡らし、沈線に半載竹管による刺突文を施す。			Ⅱ区	阿玉台Ⅱ式 PL14
TP113・114	後葉	深鉢	113はLRの単節縄文を地文とし、隆帯を貼り付け、沈線を巡らす。114はRLの単節縄文を地文とし、沈線を横位に巡らす。			Ⅰ区, Ⅲ区	加曾利EⅠ式 PL14
TP115~117	縄文時代後期初頭	深鉢	沈線で区画した中に縄文を充填している。			Ⅲ区, Ⅳ区	称名寺Ⅰ式 PL14
TP118~123		深鉢	沈線で区画した中に刺突文を施す。			Ⅱ区, Ⅲ区	称名寺Ⅱ式 PL14 119, 120, 123はPLのみ
TP124~130		前葉	深鉢	124は口縁部に沈線を巡らし、刺突文を施す。126はRLの単節縄文を地文とし、沈線を施す。127~130は平行沈線を施す。			Ⅱ区, Ⅲ区
TP131~134, 165, 177	中葉	深鉢・浅鉢	131は沈線を巡らし、竹管による刺突文を施す。132は沈線で区画した中に縄文を充填している。133はRLの単節縄文を地文とし、沈線で区画した中を磨り消す。134は口縁端部に刺突文を施し、平行沈線を横位と縦位に巡らす。165は楕円状の隆帯を内側に貼り付ける。177は口縁口唇部から胴部にかけて沈線を施す。			Ⅲ区, Ⅳ区	加曾利BⅠ式 PL15・17
TP135~143		深鉢・浅鉢	135は平行沈線を横位と斜位に施す。136は沈線で区画した中に刺突文を施す。137は沈線で区画した中に縄文を充填している。138は口縁端部に沈線を施し、胴部はLRの単節縄文を地文に沈線を巡らす。139はLRの単節縄文を地文とし、沈線を巡らす。140・141はRLの単節縄文に押捺文を施す。142は竹管文・平行沈線を施す。143は口縁部に押捺文を施し、胴部は沈線を横位に巡らす。			Ⅱ区, Ⅲ区	加曾利BⅡ式 135~142 PL15, 143, PL16 140, 142はPLのみ
TP144~152	後葉	深鉢	144・145・148は隆帯を貼り付け、沈線で区画した中に縄文を充填している。146は沈線で区画した中に縄文を充填、沈線に沿って刺突文を施す。147は沈線で区画した中に縄文を充填、隆帯に刻みを施す。149~152は口縁部に刺突文を施し、沈線を巡らす。			Ⅰ区~Ⅳ区	安行Ⅰ式 PL16 150はPLのみ
TP153~156		深鉢	153~155は口縁部に刺突文を施し、沈線を巡らす。156は刺突文を施す。			Ⅰ区~Ⅳ区	安行Ⅱ式 PL16 154, 155はPLのみ
TP157~160	縄文時代晩期前葉	深鉢	157・158は隆帯を貼り付け、沈線と刺突文を施す。159は口縁端部に押捺文を施し、沈線で区画した中に縄文を充填している。160は沈線で区画した中に縄文を充填している。			Ⅱ区~Ⅳ区	安行Ⅲa式 PL16
TP166~169		深鉢	沈線で区画した中に、平行沈線・刺突文を施す。			Ⅱ区~Ⅳ区	安行Ⅲc式 PL17 169はPLのみ
TP170~174		深鉢	170~172は沈線で区画した中に、刺突文を施す。173・174は沈線を横位または斜位に施す。			Ⅱ区, Ⅲ区	PL17 170, 172, 173 はPLのみ
TP175, 176		深鉢	175は沈線で区画した中に、刺突文を施す。176は沈線を施す。			Ⅱ区・Ⅳ区	安行Ⅲd式 PL17
TP161~164	中葉	深鉢	161は沈線で区画した中に縄文を充填、隆帯に押捺文を施す。162~164は沈線で区画した中に縄文を充填している。			Ⅱ区, Ⅲ区	前浦式 161PL17, 162~164PL17 163はPLのみ

番号	器種	計測値				特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
DP2	土偶	(2.1)	(3.7)	2.4	(17.6)	腕部。断面は円形。	Ⅲ区表採	PL7

番号	器種	計測値				石質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q15	剥片	4.1	3.2	1.3	18.6	チャート	上部からの打撃による剥離。	Ⅳ区表土	PL18のみ
Q16	剥片	4.4	2.9	1.0	11.3	チャート	上部からの打撃による剥離。	Ⅱ区表土	PL18のみ
Q17	剥片	2.4	2.4	0.6	3.1	チャート	上部からの打撃による剥離。	表土	PL18のみ
Q18	剥片	1.9	2.6	0.7	3.4	チャート	上部からの打撃による剥離。	Ⅱ区表土	PL18のみ
Q19	剥片	3.9	2.1	0.6	4.8	流紋岩	上部からの打撃による剥離。	Ⅱ区表土	PL18のみ
Q20	剥片	2.2	2.1	0.6	1.5	黒曜石	上部からの打撃による剥離。	Ⅱ区表土	PL18のみ
Q21	剥片	2.6	2.1	0.7	2.6	黒曜石	上部からの打撃による剥離。	Ⅱ区表土	PL18のみ
Q22	剥片	1.9	1.6	0.4	1.1	チャート	上部からの打撃による剥離。	Ⅱ区表土	PL18のみ
Q23	剥片	3.2	3.3	1.2	11.4	チャート	上部からの打撃による剥離。	Ⅲ区表土	PL18のみ
Q24	削器	3.6	2.8	1.1	10.3	ガラス質黒色安山岩	両側縁を急角度で剥離。	Ⅲ区表土	PL18
Q25	剥片	3.4	2.2	0.7	4.2	黒曜石	上部からの打撃による剥離。	Ⅲ区表土	PL18のみ
Q26	剥片	6.2	3.4	1.8	35.0	チャート	上部からの打撃による剥離。	Ⅳ区表土	PL18のみ
Q27	剥片	2.2	1.6	0.6	1.7	黒曜石	上部からの打撃による剥離。	Ⅳ区表土	PL18のみ
Q28	剥片	2.3	2.5	0.4	2.3	瑪瑙	上部からの打撃による剥離。	Ⅲ区表土	PL18のみ
Q29	剥片	3.6	1.8	0.3	2.5	粘板岩	上部からの打撃による剥離。	Ⅳ区表土	PL18のみ
Q30	石鏃	2.5	1.7	0.7	2.6	チャート	両面押圧剥離。基部の抉りは浅い。側縁は直線。	Ⅱ区表土	PL18
Q31	石鏃	3.2	1.6	0.5	1.7	黒曜石	両面押圧剥離。基部の抉りは深い。側縁は直線。	Ⅱ区表土	PL18
Q32	石鏃	2.2	1.8	0.4	1.2	流紋岩	両面押圧剥離。基部の抉りは浅い。側縁は直線。	Ⅱ区表土	PL18
Q33	石鏃	2.4	(1.8)	0.4	(0.7)	チャート	両面押圧剥離。基部の抉りは深い。側縁は直線。	Ⅱ区表土	PL18
Q34	石鏃	2.1	(1.7)	0.3	(0.9)	流紋岩	両面押圧剥離。基部の抉りは深い。側縁は直線。	Ⅳ区表土	PL18
Q35	磨製石斧	(8.9)	5.1	2.7	(226.8)	凝灰岩	定角式。先端部敲打痕。	Ⅲ区表土	PL7
Q36	磨製石斧	(11.3)	(7.2)	2.4	(170.5)	緑泥片岩	両凸刃。側刃角付近に敲打痕。裏面破損。	Ⅲ区表土	PL7
Q37	打製石斧	5.4	4.7	1.6	53.5	ホルンフェルス	撥形。押圧による剥離。	Ⅱ区表土	PL7
Q38	打製石斧	8.7	5.6	1.3	71.6	黒雲母片岩	分銅形。押圧による剥離。抉入部は浅い。	Ⅲ区表土	PL7
Q40	石皿	(13.7)	(12.6)	5.6	(914.3)	安山岩	有縁。縁部調整痕4か所。	Ⅱ区表土	PL7
Q42	凹石	(12.7)	(12.4)	(6.7)	(843.0)	安山岩	凹部表面2か所、裏面1か所。	Ⅲ区表土	PL7
Q43	石剣	(9.2)	3.4	1.4	(76.2)	緑泥片岩	剣先部。裏面破損。	Ⅳ区表土	PL7
Q44	石剣	(7.9)	3.3	1.8	(74.5)	緑泥片岩	表面破損。	Ⅳ区表土	PL7

3 中・近世の遺構と遺物

(1) 方形竪穴遺構

調査の結果、調査Ⅳ区から方形竪穴遺構14基が検出された。方形竪穴遺構は、第5・6号溝（時期不明）の南北2か所に集中していることが確認できた。遺物は、土師質土器片（播鉢）、陶器片（片口鉢、甕）、硯片、礎石などが出土している。調査Ⅳ区においては、墓域の可能性が高い中世から近世にかけての土坑と重複しており、それらとの新旧関係から、墓域が成立する以前に方形竪穴遺構は形成されていたと思われる。

以下、それぞれの遺構と出土遺物について記述する。

第1号方形竪穴遺構（第38図）

位置 調査Ⅳ区の南東部、E6e6区。第1～4号溝の東側に位置している。

規模と形状 平面形は、長軸3.32m、短軸2.09mの北西コーナーが内側に張り出した不整長方形である。長軸方向はN-72°-Eである。壁は外傾して立ち上がり、壁高は40cmである。

床 ほぼ平坦である。北壁際を除き、強く踏み固められている。

ピット 4か所。P1~P3は深さ23~51cmで、その規模及び配置から支柱穴と考えられる。P4の性格は不明である。

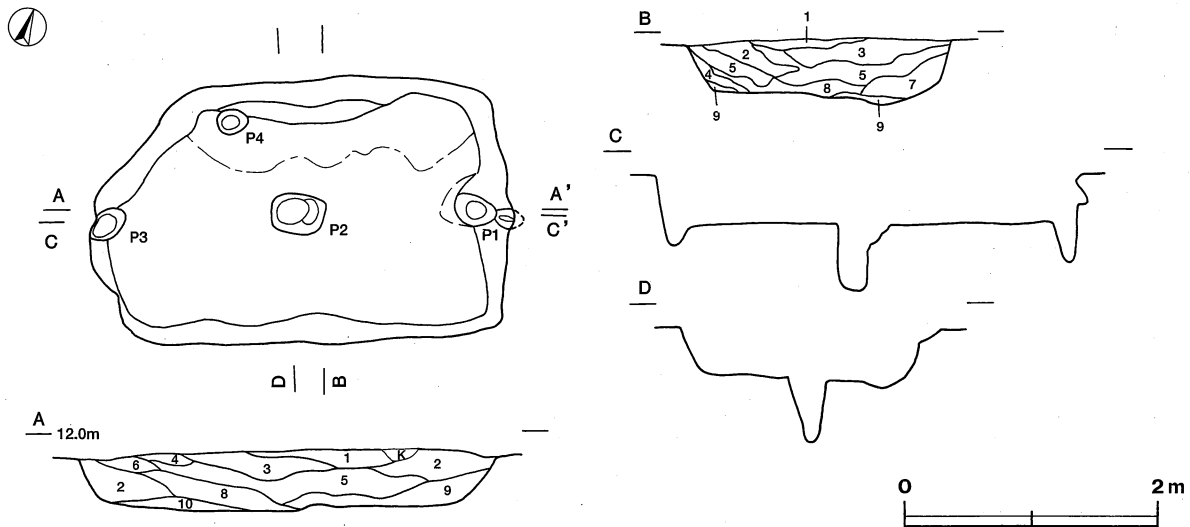
覆土 10層に分層される。全体的に黒褐色土を基調とし、締まりがない。ブロック状の堆積状況を示し、部分的に層位が逆転していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック中量
3 黒褐色	ロームブロック中量	8 黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック少量	9 黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	10 黒褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 時期は、遺構の形態から中世と考えられる。



第38図 第1号方形竪穴遺構実測図

第2号方形竪穴遺構 (第39図)

位置 調査IV区の中央部, E6e3区。方形竪穴遺構の南側集中区に位置している。

規模と形状 平面形は、長軸3.34m、短軸1.85mの北西コーナーが内側に張り出した不整長方形である。長軸方向はN-89°-Eである。壁はほぼ直立し、壁高は46cmである。

床 平坦である。西壁から南東コーナー部にかけての中央寄りが、強く踏み固められている。

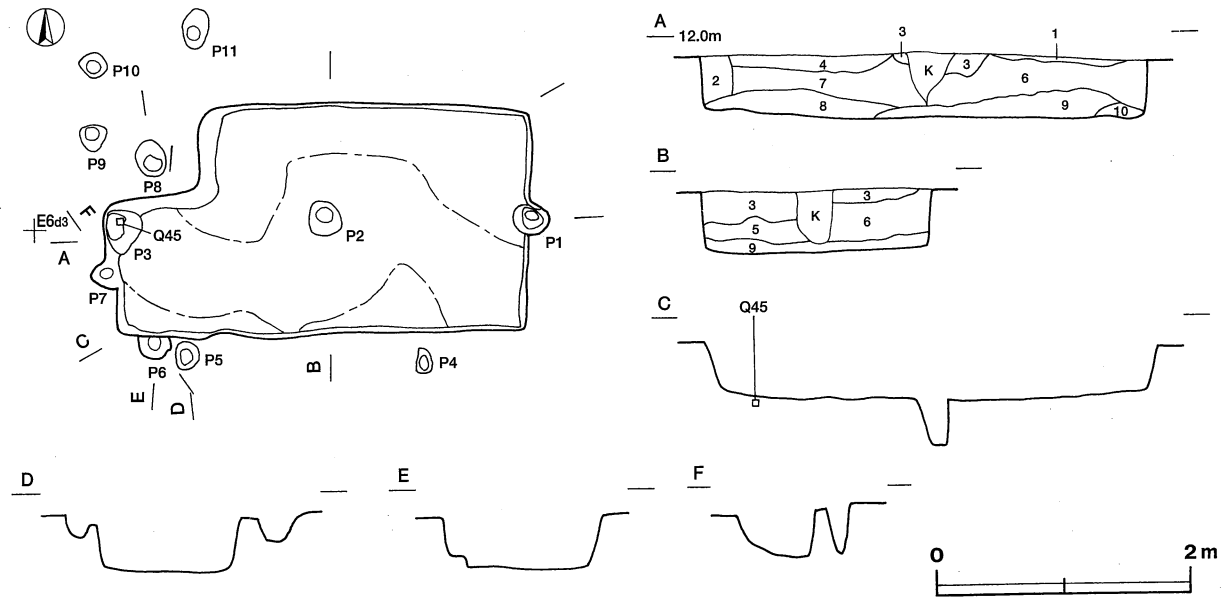
ピット 11か所。P1~P3は深さ27~36cmで、その規模及び配置から支柱穴と考えられる。P4~P8は深さ10~33cmで、その規模及び配置から補助柱穴と考えられる。P9~P11の性格は不明である。P3の覆土下層にQ45の礎石が埋め込まれている。石の上面が楕円形に切り取られていることから、柱を乗せた痕と考え、礎石と判断した。

覆土 10層に分層される。全体的に暗褐色土を基調とし、締まりがない。ロームブロックの割合が多く、ブロック状の堆積状況を示していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量	6 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量, 若干の締まり有り
3 暗褐色	ロームブロック中量	8 暗褐色	ロームブロック中量
4 黒褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック多量, 若干の締まり有り
5 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量	10 暗褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 礎石 1点，礫 2点が出土している。Q45の安山岩製礎石は，P3の覆土下層から出土している。
 所見 時期は，出土遺物及び遺構の形態から中世と考えられる。



第39図 第2号方形竪穴遺構実測図

第2号方形竪穴遺構出土遺物観察表

番号	器種	計測値				石質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q45	礎石	27.1	21.6	14.4	7.0	安山岩	上面・下面・2側面を切断加工。上面は楕円形。	P3覆土下層	PL20のみ

第3号方形竪穴遺構 (第40図)

位置 調査IV区の中央部，E5b0区。方形竪穴遺構の南側集中区に位置している。

重複関係 第31号土坑の西部を掘り込んでいる。また，北東コーナー部付近を第29号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 平面形は長軸3.38m，短軸2.19mの，南東コーナーが内側に張り出した不整長方形である。長軸方向はN-4°-Wである。壁はほぼ直立し，壁高は55cmである。

床 平坦である。特に強く踏み固められている部分は確認できなかった。

ピット 8か所。P1~P3は深さ21~34cmで，その規模及び配置から支柱穴と考えられる。P4~P8は深さ15~37cmで，その規模及び配置から補助柱穴と考えられる。P5の覆土下層にQ46の礎石が埋め込まれている。石の上面が楕円形に切り取られていることから，柱を乗せた痕と考え，礎石と判断した。

P3土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

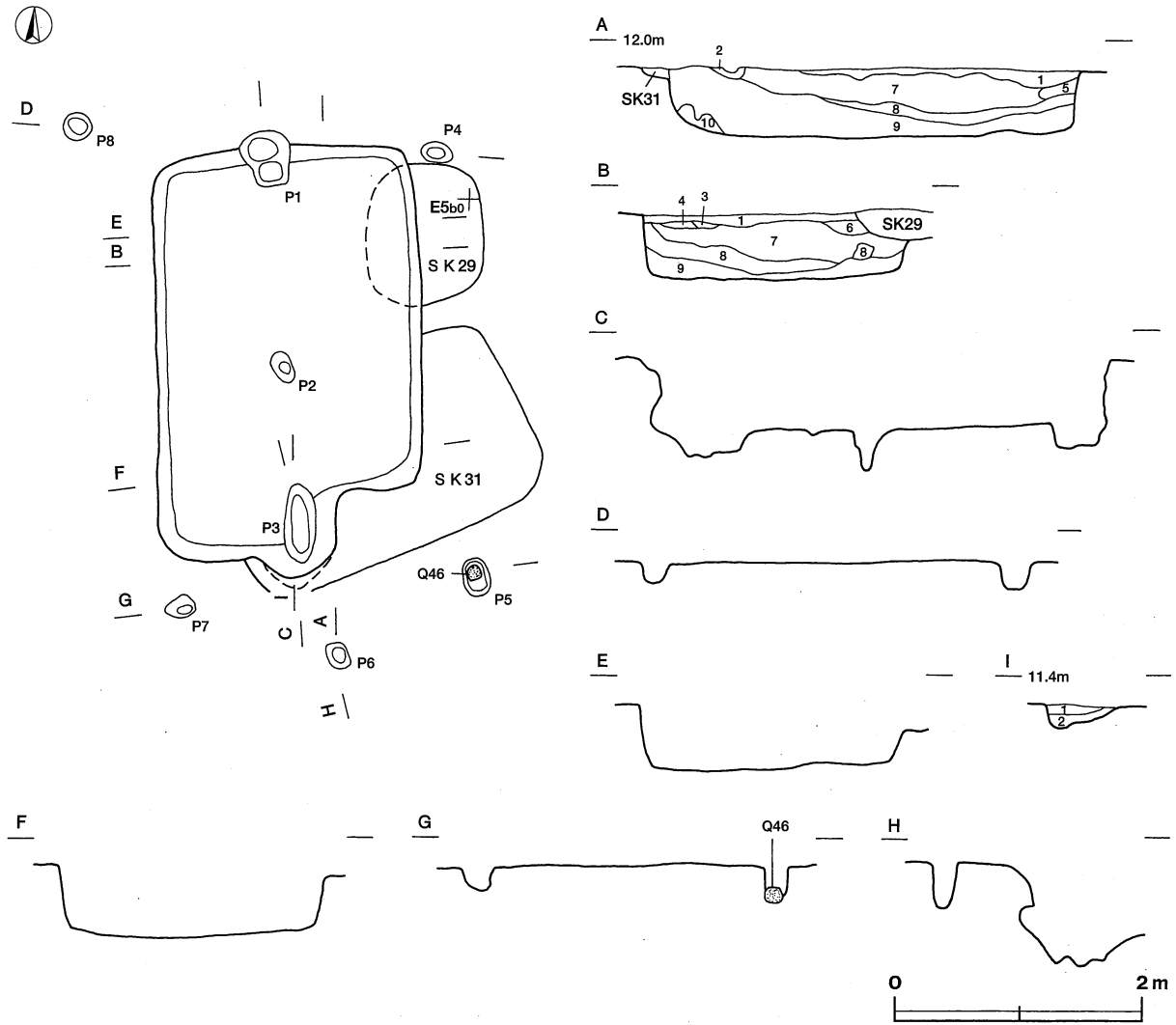
覆土 10層に分層される。全体的に黒褐色・暗褐色土を基調とし，締まりがない。ブロック状の堆積状況を示していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|--------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 灰褐色 | ローム粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量 | 10 灰褐色 | ローム粒子少量，若干の締まり有り |

遺物出土状況 礎石1点が出土している。Q46の安山岩製礎石は、P5の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土遺物及び遺構の形態から中世と考えられる。



第40図 第3号方形竪穴遺構実測図

第3号方形竪穴遺構出土遺物観察表

番号	器種	計測値				石質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q46	礎石	22.1	17.0	9.8	3521.9	安山岩	上面・下面・2側面を切断加工。	P5覆土下層	PL20のみ

第4号方形竪穴遺構 (第41図)

位置 調査Ⅳ区の中央部、E6c1区。方形竪穴遺構の南側集中区に位置している。

重複関係 第5号方形竪穴遺構の南西壁を掘り込んでいる。

規模と形状 覆土の切り合いから、長軸3.28m、短軸1.97mで、平面形は西コーナーが内側に張り出した不整長方形と推定される。北西壁は階段状になっている。長軸方向はN-31°-Wである。壁は直立し、壁高は64cmである。

床 平坦である。北コーナー部付近と中央部西側から南東壁にかけて、強く踏み固められている。北東壁沿いの床面に確認された焼土は、床面が火熱を受けて赤変硬化していないことから、遺構廃絶時に、意図的に投棄

されたと考えられる。

焼土土層解説

1 暗褐色	焼土ブロック・炭化材中量, ローム粒子少量	6 褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化物微量
2 暗褐色	焼土ブロック・炭化材少量, ローム粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物少量
3 褐色	焼土ブロック中量, 炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化物微量
4 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子中量	9 暗褐色	ロームブロック少量
5 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子中量, 焼土ブロック少量	10 褐色	ロームブロック中量

ピット 3か所。P1～P3は深さ15～53cmで、その規模及び配置から主柱穴と考えられる。

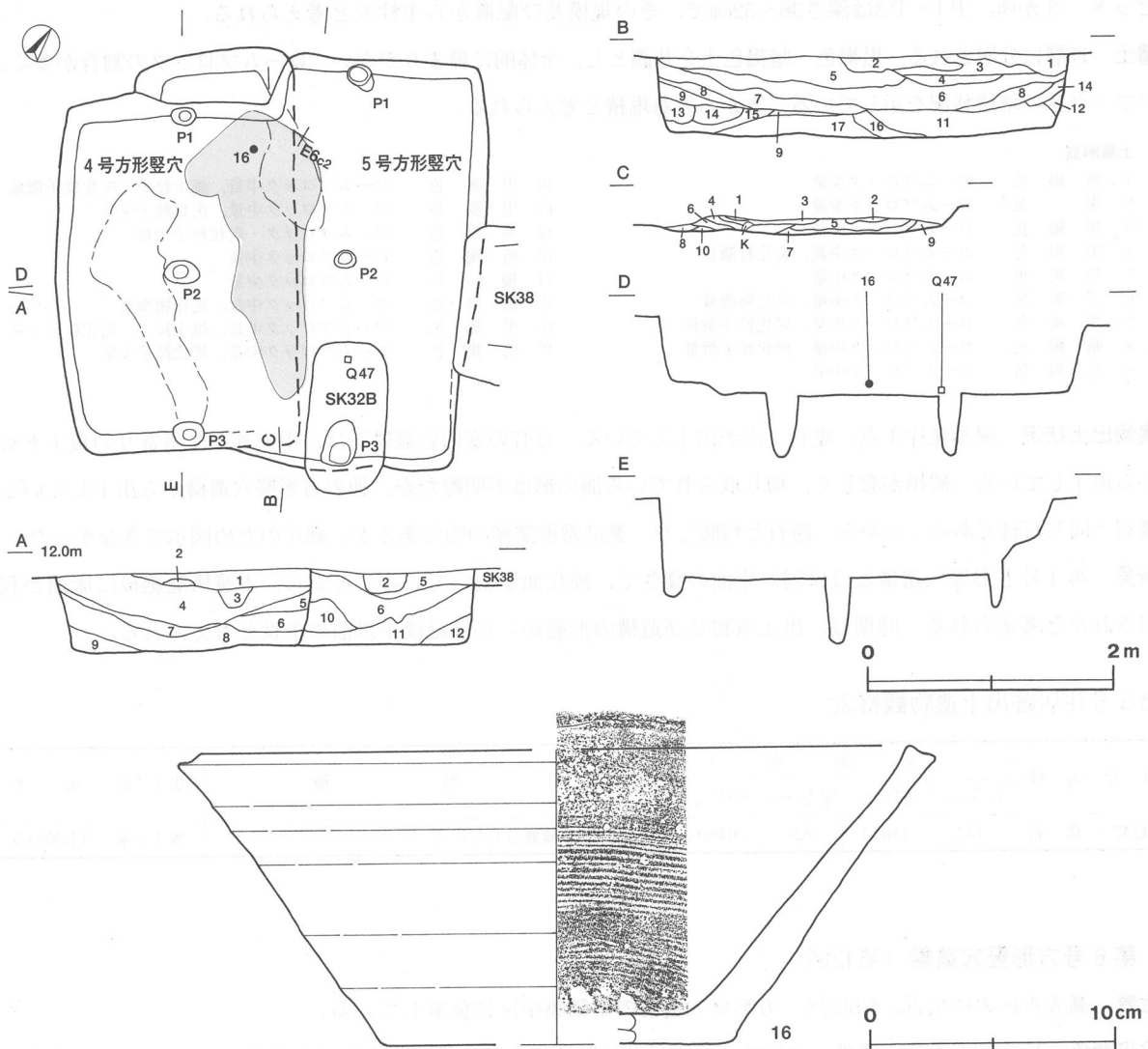
覆土 9層に分層される。暗褐色土を基調とし、全体的に締まりがない。ロームブロックの割合が多く、ブロック状の堆積状況を示していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化材微量
3 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ロームブロック中量	9 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量
5 暗褐色	ローム粒子少量		

遺物出土状況 土師質土器挿鉢片1点が出土している。16の挿鉢は、焼土中から出土している。

所見 第5号方形竪穴遺構とはほぼ同じ長軸方向で、本跡と第5号方形竪穴遺構の北西壁が一直線につながって



第41図 第4・5号方形竪穴遺構・第4号出土遺物実測図

いる。床面はほぼ同じ高さで、硬化面が続いている。覆土の切り合いと堆積状況から、第5号方形竪穴遺構を拡張して、継続的に使用したというより、第5号方形竪穴遺構の北西壁と床面を利用して、本跡が構築されたと考えられる。時期は、出土遺物及び遺構の形態から15世紀後半と考えられる。

第4号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第41図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	手法の特徴	胎土	色調	釉薬	出土位置	産地年代	備考
16	土師質土器	播鉢	(31.2)	12.2	[14.4]	内面中位から下位にかけ横位の摺り目。	長石・石英赤色粒子	におい橙	-	焼土内		40% 二次焼成 PL19

第5号方形竪穴遺構（第41図）

位置 調査IV区の中央部、E6c2区。方形竪穴遺構の南側集中区に位置している。

重複関係 第4号方形竪穴遺構に南西壁を、第32B号土坑に南東壁を、第38号土坑に北東壁を掘り込まれている。

規模と形状 覆土の切り合いから、長軸3.37m、短軸1.59mで、平面形は長方形と推定される。長軸方向はN-30°-Wである。壁は直立し、壁高は67cmである。

床 平坦である。西コーナー部付近の一部が強く踏み固められている。

ピット 3か所。P1~P3は深さ36~52cmで、その規模及び配置から支柱穴と考えられる。

覆土 17層に分層される。黒褐色・暗褐色土を基調とし、全体的に締まりがない。ロームブロックの割合が多く、ブロック状の堆積状況を示していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量	10	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐色	ロームブロック少量	11	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
3	黒褐色	ロームブロック中量	12	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
4	暗褐色	ロームブロック中量、炭化材微量	13	暗褐色	ロームブロック少量
5	黒褐色	ロームブロック中量	14	褐色	ロームブロック少量
6	黒褐色	ロームブロック中量、炭化物微量	15	黒褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
7	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	16	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
8	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	17	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
9	暗褐色	ロームブロック中量			

遺物出土状況 陶器甕片1点、礎石1点が出土している。Q47の安山岩製礎石は、中央部やや南寄りの覆土下層から出土している。破損が激しく、切り取られている面の形は不明瞭だが、他の方形竪穴遺構から出土している礎石と同じ石材であることから、礎石と判断した。甕は常滑窯産の物であるが、細片のため図示できなかった。

所見 第4号方形竪穴遺構とほぼ同じ床面の高さで、硬化面が続いていることから、本遺構廃絶後に床面が利用されたと考えられる。時期は、出土遺物及び遺構の形態から15世紀後半以前の中世と考えられる。

第5号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	計測値				石質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q47	礎石	(13.1)	(10.5)	8.0	(648.0)	安山岩	破断されている。	覆土下層	PL20のみ

第6号方形竪穴遺構（第42図）

位置 調査IV区の中央部、E6b3区。方形竪穴遺構の南側集中区に位置している。

重複関係 第7号方形竪穴遺構に南東壁、第1号井戸跡に中央部、第38号土坑に南西壁、第41A・41B号土坑に北東壁を掘り込まれている。

規模と形状 第1号井戸跡以外は、床面より上部で切り合っていることから、長軸3.85m、短軸2.98mで、平面形は西コーナーが内側に張り出した不整形長方形である。長軸方向はN-61°-Eである。壁は直立し、壁高は48cmである。

床 平坦である。全体が強く踏み固められている。北コーナー沿いの床面に確認された焼土は、床面が火熱を受けて赤変硬化していないことから、遺構廃絶時に、意図的に投棄されたと考えられる。

ピット 8か所。P1とP2は深さ8~12cmで、その規模及び配置から支柱穴と考えられる。P2の覆土上層にQ49の礎石が埋め込まれている。石の上面が楕円形に切り取られていることから、柱を乗せた痕と考え、礎石と判断した。P3~P8の性格は不明である。

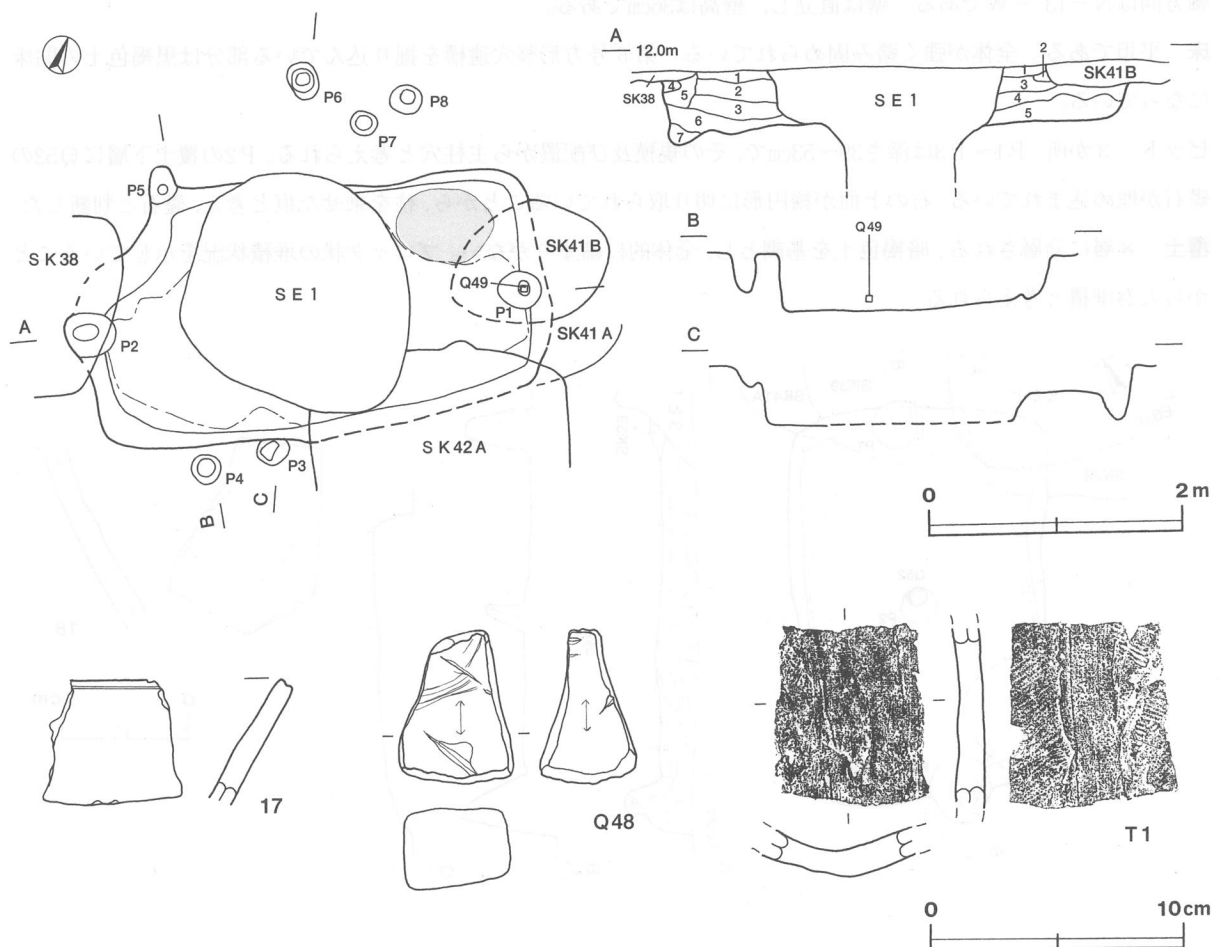
覆土 7層に分層される。暗褐色土を基調とし、全体的に締まりがない。ブロック状の堆積状況を示し、部分的に層位が逆転していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ローム粒子少量		

遺物出土状況 陶器片口鉢片1点, 平瓦片1点, 砥石1点, 礎石1点, 礫4点が出土している。17の常滑窯産片口鉢, Q48の砥石, T1の平瓦は覆土中から, Q49の礎石はP1の覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土遺物及び遺構の形態から, 14世紀後半から15世紀前半と考えられる。



第42図 第6号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第6号方形竪穴遺構出土遺物観察表(第42図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	手法の特徴	胎土	色調	釉薬	出土位置	産地年代	備考
17	陶器	片口鉢	-	(4.9)	-	口縁端部に沈線を施す。内面一部自然釉。	褐灰	にぶい赤褐	-	覆土	常滑窯14C後 ~15C前	5% PL19

番号	器種	計測値				石質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q48	砥石	(6.0)	4.4	3.1	(104.8)	凝灰岩		覆土	PL20
Q49	礎石	23.4	17.4	15.2	5755.8	安山岩	上面・下面・1側面を切断加工。上面は楕円形。	P1覆土上層	PL20のみ

番号	器種	計測値				色調	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
T1	平瓦	(6.0)	(7.0)	1.1	(86.2)	黄灰色	凸面平行叩き。凹面ヘラナデ。	覆土	PL19

第7号方形竪穴遺構 (第43図)

位置 調査IV区の中央部、E6c3区。方形竪穴遺構の南側集中区に位置している。

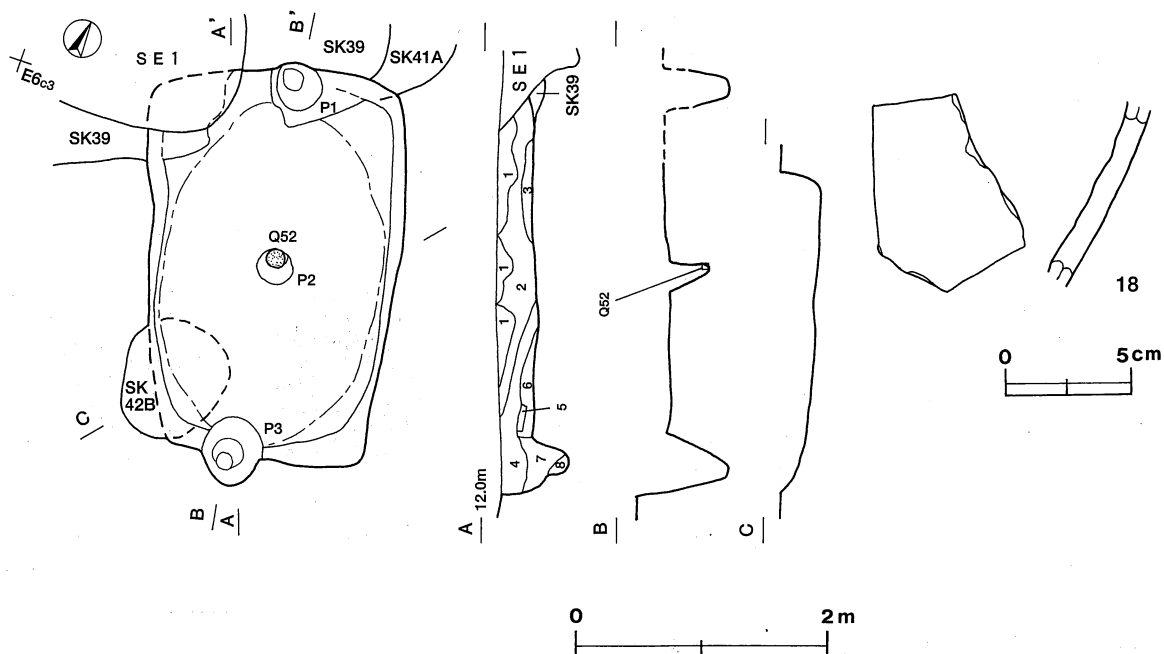
重複関係 第6号方形竪穴遺構の南東壁を掘り込んでいる。また、第1号井戸跡に北西コーナー部を掘り込まれている。第41A・42B号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 南東壁を掘り込まれていることから、長軸3.41m、短軸2.04mで、平面形は長方形と推定される。長軸方向はN-13°-Wである。壁は直立し、壁高は36cmである。

床 平坦である。全体が強く踏み固められている。第6号方形竪穴遺構を掘り込んでいる部分は黒褐色土の貼床になっている。

ピット 3か所。P1~P3は深さ39~53cmで、その規模及び配置から支柱穴と考えられる。P2の覆土下層にQ52の礎石が埋め込まれている。石の上面が楕円形に切り取られていることから、柱を乗せた痕と考え、礎石と判断した。

覆土 8層に分層される。暗褐色土を基調とし、全体的に締まりがない。ブロック状の堆積状況を示していることから人為堆積と考えられる。



第43図 第7号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量	5	褐色	ロームブロック中量
2	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量
3	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	7	黒褐色	ロームブロック少量
4	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	8	黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 陶器甕片1点, 礎石1点が出土している。18の常滑窯産甕は覆土中から, Q52の安山岩製礎石はP2の覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土遺物及び遺構の形態から中世と考えられる。

第7号方形竪穴遺構出土遺物観察表(第43図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	手法の特徴	胎土	色調	釉薬	出土位置	産地年代	備考
18	陶器	甕	-	(7.0)	-	外面ナデ。	灰褐	にぶい赤褐	-	覆土	常滑窯	5%

番号	器種	計測値				石質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q52	礎石	(24.9)	(19.7)	14.6	(5919.9)	安山岩	上面・下面を切断加工。上面は楕円形。側面破断。	P2覆土下層	PL20のみ

第8号方形竪穴遺構(第44図)

位置 調査IV区の中央部, E6a1区。方形竪穴遺構の南側集中区に位置している。

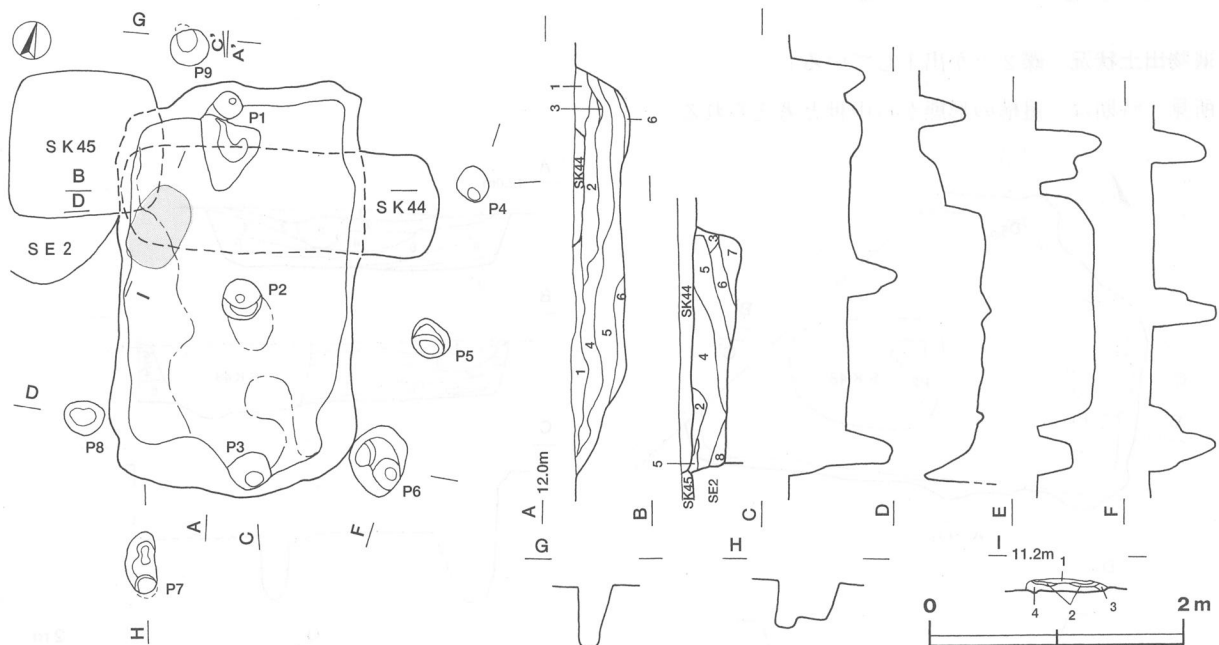
重複関係 第2号井戸跡を掘り込んでいる。また, 第44号土坑に東壁を, 第45号土坑に西壁を掘り込まれている。

規模と形状 平面形は, 長軸3.24m, 短軸1.88mの長方形である。長軸方向はN-15°-Wである。壁はほぼ直立し, 壁高は47cmである。

床 平坦である。全体が強く踏み固められている。西壁際沿いの床面に確認された焼土は, 床面が火熱を受けて赤変硬化していないことから, 遺構廃絶時に, 意図的に投棄されたと考えられる。

焼土土層解説

1	暗褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック少量	3	暗褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック少量
2	暗褐色	焼土ブロック中量, 炭化物少量, ローム粒子微量	4	褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化物少量



第44図 第8号方形竪穴遺構実測図

ピット 9か所。P1～P3は深さ16～47cmで、その規模及び配置から支柱穴と考えられる。P4～P9は深さ28～55cmで、その規模及び配置から補助柱穴と考えられる。

覆土 8層に分層される。暗褐色土を基調とし、全体的に締まりがない。ブロック状の堆積状況を示し、部分的に層位が逆転していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量	5 暗褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	8 黒褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 時期は、遺構の形態から中世と考えられる。

第9号方形竪穴遺構 (第45図)

位置 調査IV区の北部, D5i9区。方形竪穴遺構の北側集中区に位置している。

重複関係 第48号土坑に中央部を掘り込まれている。

規模と形状 北壁から東壁にかけて調査区域外であることから、長軸3.42m、短軸2.35mで、平面形は北西コーナーが内側に張り出した不整形長方形と推定される。長軸方向はN-71°-Eである。壁は外傾して立ち上がり、壁高は47cmである。

床 平坦である。特に強く踏み固められている部分は確認できなかった。

ピット 2か所。P1・P2は深さ52～57cmで、その規模及び配置から支柱穴と考えられる。

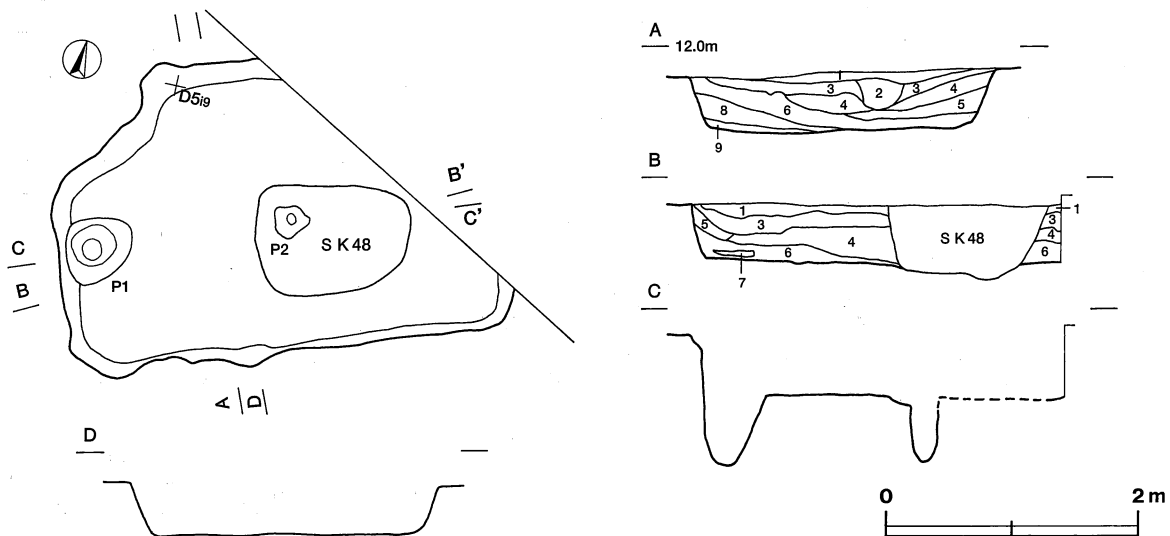
覆土 9層に分層される。暗褐色土を基調とし、全体的に締まりがない。ブロック状の堆積状況を示し、部分的に層位が逆転していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化材微量	6 褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック多量	7 黒褐色	ローム粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 礫2点が出土している。

所見 時期は、遺構の形態から中世と考えられる。



第45図 第9号方形竪穴遺構実測図

第10号方形竪穴遺構 (第46図)

位置 調査Ⅳ区の北部, D5i7区。方形竪穴遺構の北側集中区に位置している。

規模と形状 平面形は, 長軸3.73m, 短軸2.07mの西コーナーが内側に張り出した不整長方形である。長軸方向はN-40°-Wである。壁はほぼ直立し, 壁高は55cmである。

床 平坦である。北西壁から中央部にかけての一部を除き, 全体が強く踏み固められている。

ピット 7か所。P1~P3は深さ17~62cmで, その規模及び配置から主柱穴と考えられる。P4は深さ36cmで, その規模及び配置から補助柱穴と考えられる。P5~P7の性格は不明である。

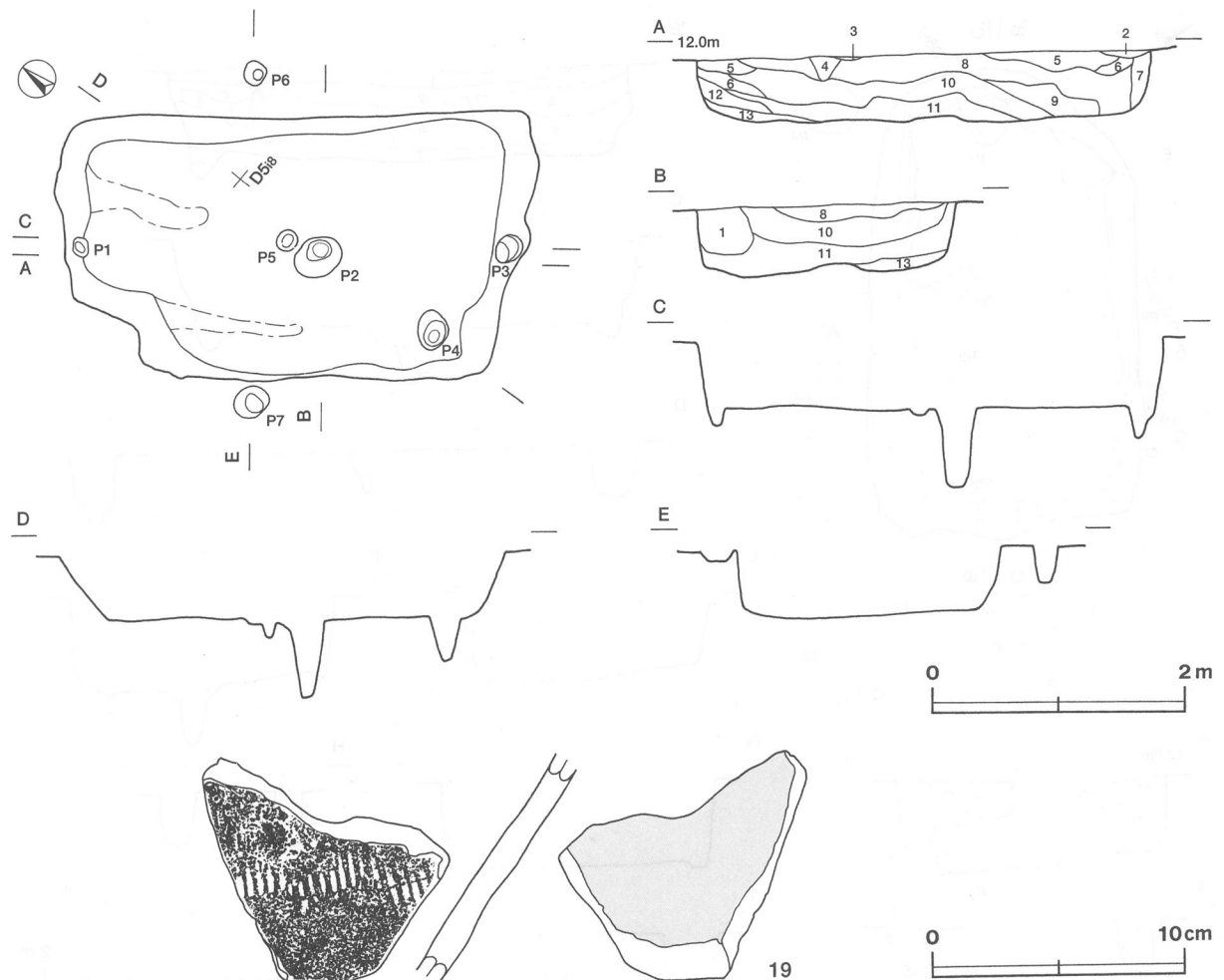
覆土 13層に分層される。暗褐色土を基調とし, 全体的に黄褐色ローム粒子(鹿沼パミス)が含まれている。ブロック状の堆積状況を示し, 部分的に層位が逆転していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子・鹿沼パミス微量	8 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量	9 暗褐色	ロームブロック中量, 鹿沼パミス微量
3 褐灰色	ローム粒子少量, 炭化物微量	10 暗褐色	ロームブロック多量, 炭化粒子微量
4 褐灰色	ロームブロック・炭化物少量	11 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子・鹿沼パミス微量
5 黒褐色	ロームブロック中量, 鹿沼パミス微量	12 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物・鹿沼パミス微量
6 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物・鹿沼パミス微量	13 暗褐色	ロームブロック多量, 炭化粒子少量
7 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物・鹿沼パミス微量		

遺物出土状況 陶器甕片1点が出土している。19の常滑窯産甕は, 覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土遺物及び遺構の形態から14世紀後半と考えられる。



第46図 第10号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第10号方形竪穴遺構出土遺物観察表(第46図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	手法の特徴	胎土	色調	釉薬	出土位置	産地年代	備考
19	陶器	甕	-	(9.0)	-	外面押印文を施す。内面自然釉。	灰褐	にぶい赤褐	-	覆土	常滑窯14C後	5% PL19

第11号方形竪穴遺構 (第47図)

位置 調査IV区の北部, D5h6区。方形竪穴遺構の北側集中区に位置している。

規模と形状 平面形は, 長軸3.73m, 短軸2.23mの北東コーナーが内側に張り出した不整長方形である。長軸方向はN-65°-Eである。壁は直立し, 壁高は72cmである。

床 平坦であるが, 北壁から南壁にかけて少し傾斜している。全体が強く踏み固められている。北東コーナー部を除き, 溝が全周している。溝は, 床面から6cmほどの深さで, 断面形はU字状である。

ピット 10か所。P1~P3は深さ10~46cmで, その規模及び配置から主柱穴と考えられる。P4~P9は深さ41~56cmで, その規模及び配置から補助柱穴と考えられる。P10の性格は不明である。

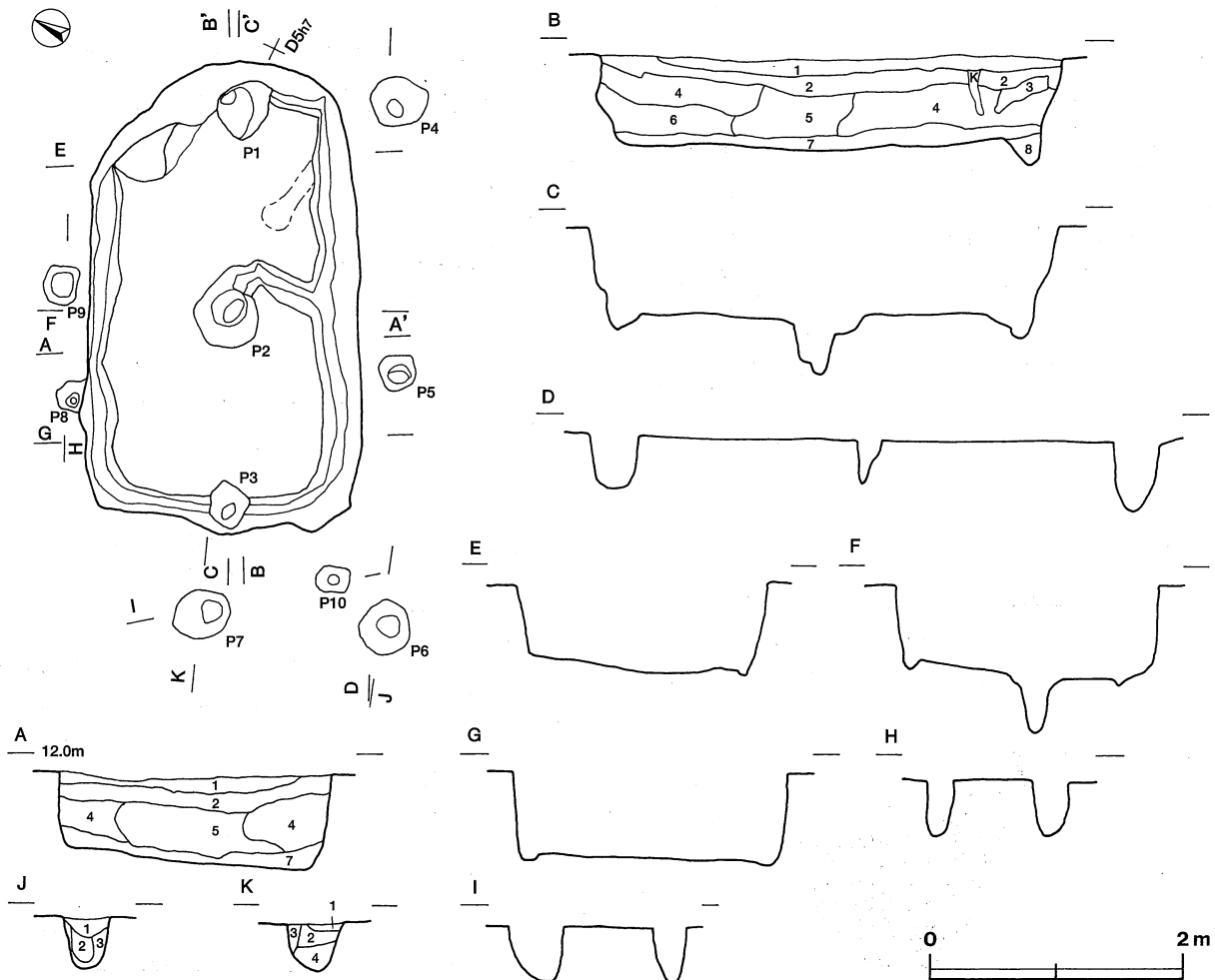
P6土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

P7土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量

覆土 8層に分層される。暗褐色土を基調としている。ブロック状の堆積状況を示し, 部分的に層位が逆転していることから人為堆積と考えられる。



第47図 第11号方形竪穴遺構

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量	5 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物少量	6 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化材少量
4 暗褐色	ロームブロック多量, 炭化物少量	8 黒褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 時期は、遺構の形態から中世と考えられる。

第12号方形竪穴遺構 (第48図)

位置 調査IV区の北部, D5h8区。方形竪穴遺構の北側集中区に位置している。

規模と形状 西壁から東壁にかけて調査区域外であることから、平面形は長軸3.18m, 短軸1.60mの長方形と推定される。長軸方向はN-36°-Wである。壁はほぼ直立し、壁高は70cmである。

床 平坦である。中央部が強く踏み固められている。

ピット 1か所。P1は深さ25cmで、その規模及び配置から主柱穴と考えられる。

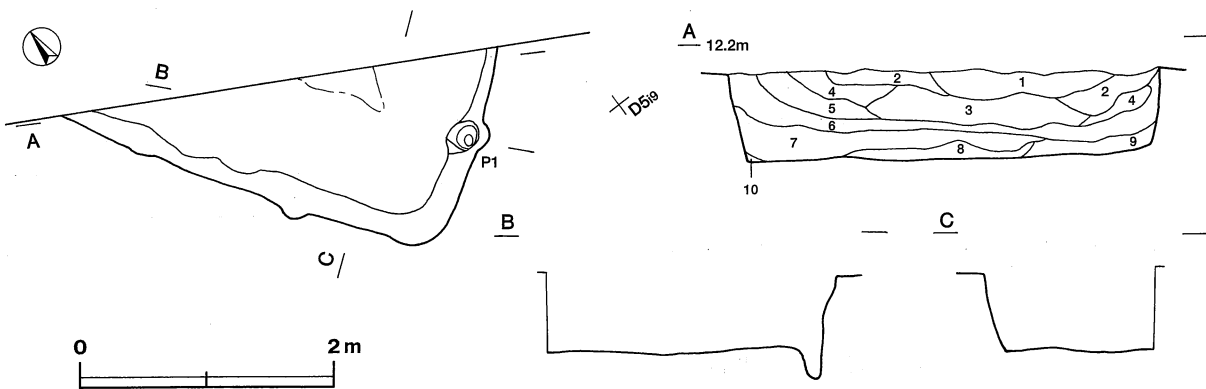
覆土 10層に分層される。暗褐色土を基調とし、全体的に締まりがなく、黄褐色ローム粒子(鹿沼パミス)が含まれている。ブロック状の堆積状況を示し、部分的に層位が逆転していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子・鹿沼パミス微量	6 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物・鹿沼パミス微量	7 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子・鹿沼パミス微量
3 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子・鹿沼パミス微量	8 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子・鹿沼パミス微量
4 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	9 黒褐色	ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量
5 暗褐色	ロームブロック中量	10 黒褐色	ロームブロック・鹿沼パミス微量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 時期は、遺構の形態から中世と考えられる。



第48図 第12号方形竪穴遺構実測図

第13号方形竪穴遺構 (第49図)

位置 調査IV区の北部, D5h5区。方形竪穴遺構の北側集中区に位置している。

規模と形状 平面形は、長軸3.16m, 短軸2.00mの北東コーナーが内側に、階段状に張り出した不整形長方形である。長軸方向はN-90°である。壁は直立し、壁高は69cmである。

床 平坦である。P1からP3にかけて中央部が強く踏み固められている。P2とP3の北側の床面に確認された焼土と多量の炭化材は、床面が火熱を受けて赤変硬化していないことから、遺構廃絶時に、意図的に投棄されたと考えられる。

ピット 3か所。P1~P3は深さ24~48cmで、その規模及び配置から主柱穴と考えられる。

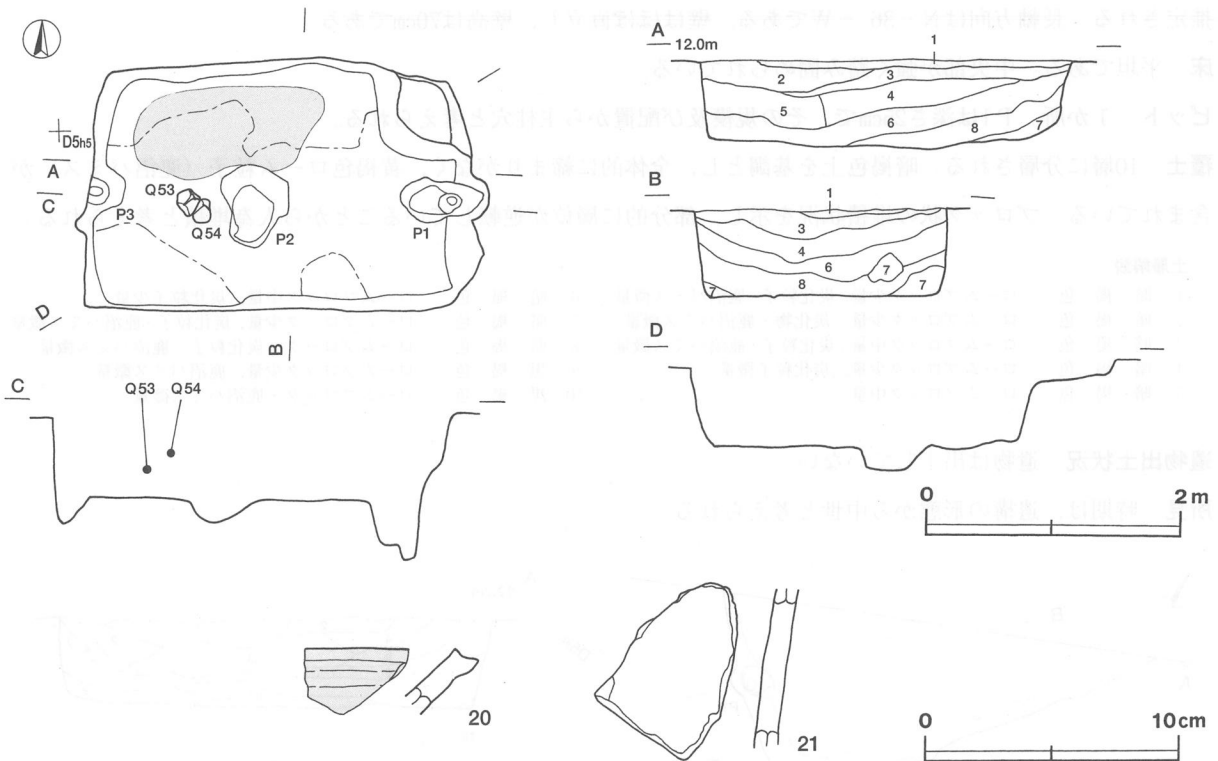
覆土 8層に分層される。暗褐色土を基調としている。ブロック状の堆積状況を示し、部分的に層位が逆転していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |

遺物出土状況 陶器片口鉢1点、陶器甕片1点、礎石2点、礫1点が出土している。20の常滑窯産片口鉢、21の常滑窯産甕は覆土中から、Q53の安山岩製礎石とQ54の砂岩製礎石は西壁寄りの覆土中層から出土している。この礎石は、円形に切り取られている面があることから、柱を乗せた痕と考え、礎石と判断した。

所見 時期は、出土遺物及び遺構の形態から、15世紀後半から16世紀前半と考えられる。



第49図 第13号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第13号方形竪穴遺構出土遺物観察表(第49図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	手法の特徴	胎土	色調	釉薬	出土位置	産地年代	備考
20	陶器	片口鉢	-	(2.6)	-	内・外面ナデ。口縁部内・外面一部自然釉。	灰褐	にぶい褐	-	覆土	常滑窯15C後~16C初	5% PL19
21	陶器	甕	-	(6.2)	-	外面ナデ。	にぶい橙	にぶい褐	-	覆土	常滑窯	5%

番号	器種	計測値				石質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q53	礎石	21.6	15.4	11.1	2840.8	安山岩	上面・下面・2側面を切断加工。上面は円形。	覆土中層	PL20のみ
Q54	礎石	16.4	16.5	12.6	4289.6	砂岩	上面・3側面を切断加工。上面は円形。	覆土中層	PL20のみ

第14号方形竪穴遺構 (第50図)

位置 調査IV区の中央部、E6b3区。方形竪穴遺構の南側集中区に位置している。

重複関係 第41A号土坑がP7と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は、長軸3.46m、短軸2.06mの東コーナーが内側に、階段状に張り出した長方形である。長軸方向はN-20°-Wである。壁は直立し、壁高は73cmである。

床 平坦である。北西壁と南西壁沿いの一部を除き、強く踏み固められている。床面から深さ14cmで、断面形がU字状の溝が、北東壁に沿って巡っている。

溝土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 | | |

ピット 11か所である。P1~P3は深さ24~41cmで、その規模及び配置から支柱穴と考えられる。P2の覆土下層にQ57とQ58の礎石が埋め込まれている。石の上面が楕円形に切り取られていることから、柱を乗せた痕と考え、礎石と判断した。P4~P11は深さ7~36cmで、その規模及び配置から補助柱穴と考えられる。

P1土層解説

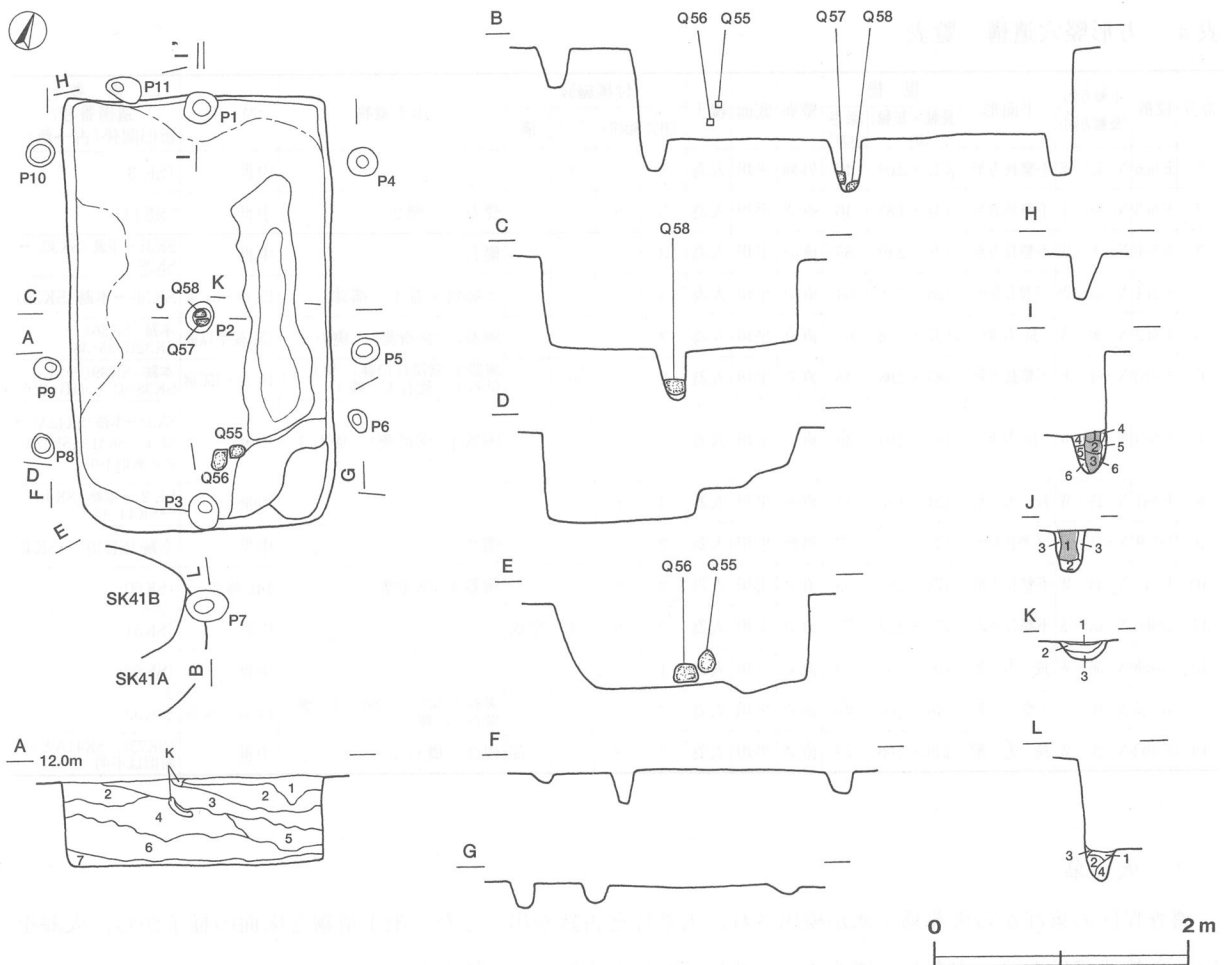
- | | | | |
|-------|---------------------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量, 柱の拔取り痕と考えられる | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量, 柱の拔取り痕と考えられる | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量, 柱の拔取り痕と考えられる | 6 暗褐色 | ローム粒子少量 |

P2土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量, 柱の拔取り痕と考えられる | 3 褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 | | |

P3土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |



第50図 第14号方形竪穴遺構実測図

覆土 7層に分層される。暗褐色土・黒褐色土を基調としている。ブロック状の堆積状況を示し、部分的に層位が逆転していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量	5 黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック中量	6 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物微量
3 黒褐色	ロームブロック中量	7 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量		

遺物出土状況 硯片3点, 礎石4点が出土している。Q55とQ56の礎石はP3北側の覆土下層から, Q57とQ58の礎石はP2の覆土下層から出土している。Q55とQ56は他の礎石と同じ安山岩製で, 石の上面が楕円形に切り取られていることから, 礎石と考えられる。硯は覆土中から出土したが, いずれも細片で図示できなかった。

所見 時期は, 出土遺物及び遺構の形態から中世と考えられる。

第14号方形竪穴遺構出土遺物観察表

番号	器種	計測値				石質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q55	礎石	19.1	16.3	14.7	3007.3	安山岩	上面・下面を切断加工。	覆土下層	PL20のみ
Q56	礎石	22.8	15.3	16.0	3600.4	安山岩	上面・下面・2側面を切断加工。上面は楕円形。	覆土下層	PL20のみ
Q57	礎石	12.0	9.9	15.4	1103.4	安山岩	全面を切断加工。上面・下面は楕円形。	P2覆土下層	PL20のみ
Q58	礎石	13.7	8.8	16.1	1216.4	安山岩	上面・下面を切断加工。上面は楕円形。	P2覆土下層	PL20のみ

表4 方形竪穴遺構一覧表

番号	位置	主軸方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	付属施設				出土遺物	時代	備考 (遺構番号) 新旧関係(古→新)
				(長軸×短軸) (m)	深さ (cm)				主柱穴	補助柱穴	ピット	溝			
1	E6e6	N-72°-E	不整長方形	3.32×2.09	40	外傾	平坦	人為	3	-	1	-		中世	(SK3)
2	E6e3	N-89°-E	不整長方形	3.34×1.85	46	直立	平坦	人為	3	5	3	-	礎石1, 礎石2	中世	(SK11)
3	E5b0	N-4°-W	不整長方形	3.38×2.19	55	直立	平坦	人為	3	5	-	-	礎石1	中世	SK31→本跡(SK30)→SK29
4	E6e1	N-31°-W	[不整長方形]	3.28×[1.97]	64	直立	平坦	人為	3	-	-	-	土師質土器1(播鉢)	15C後~16C前	SK36→本跡(SK35)
5	E6e2	N-30°-W	[長方形]	3.37×(1.59)	67	直立	平坦	人為	3	-	-	-	陶器1(常滑甕), 礎石1	15C後半以前	本跡(SK36)→SK32B・35・38
6	E6b3	N-61°-E	不整長方形	3.85×2.98	48	直立	平坦	人為	2	-	6	-	陶器1(常滑片口鉢), 平瓦1, 砥石1, 礎石1, 礎石4	14C後~15C前	本跡(SK39)→SE1・SK38・41A・41B・42A
7	E6e3	N-13°-W	[長方形]	(3.41)×2.04	36	直立	平坦	人為	3	-	-	-	陶器1(常滑甕), 礎石1	中世	SK39→本跡(SK42A)→SE1 SK41A・SK42Bとの新旧不明
8	E6a1	N-15°-W	長方形	3.24×1.88	47	直立	平坦	人為	3	6	-	-		中世	SE2→本跡(SK46)→SK44・45
9	D5i9	N-71°-E	[不整長方形]	3.42×2.35	47	外傾	平坦	人為	2	-	-	-	礎石2	中世	本跡(SK49)→SK48
10	D5i9	N-40°-W	不整長方形	3.73×2.07	55	直立	平坦	人為	3	1	3	-	陶器1(常滑甕)	14C後半	(SK50)
11	D5h6	N-65°-E	不整長方形	3.73×2.23	72	直立	平坦	人為	3	6	1	全周		中世	(SK51)
12	D5h8	N-36°-W	長方形	(3.18)×(1.60)	70	直立	平坦	人為	1	-	-	-		中世	(SK52)
13	D5h5	N-90°	不整長方形	3.16×2.00	69	直立	平坦	人為	3	-	-	-	陶器2(常滑片口鉢・常滑甕), 礎石2, 礎石1	15C後~16C前	(SK53)
14	E6b3	N-20°-W	長方形	3.46×2.06	73	直立	平坦	人為	3	8	-	一部	硯3, 礎石4	中世	(SK75), SK41Aとの新旧は不明

(2) 火葬墓

調査IV区の東部から火葬墓1基が検出され, 人骨片と古銭が出土した。出土遺物と床面の様子から, 火葬を行った施設ではなく, 火葬後, 埋葬するために使われた土壇墓と判断した。

以下, 遺構と出土遺物について記述する。

第1号火葬墓 (第51図)

位置 調査IV区の東部, E6c4区。溝で囲まれた墓域の東側に位置している。

規模と形状 平面形は, 長軸1.06m, 短軸0.68mの長方形である。深さは12cmである。壁は外傾して立ち上がる。長軸方向は, N-18°-Wである。底面は平坦で, 火熱を受けた痕跡は見られず, 特に赤変硬化した部分は確認されなかった。

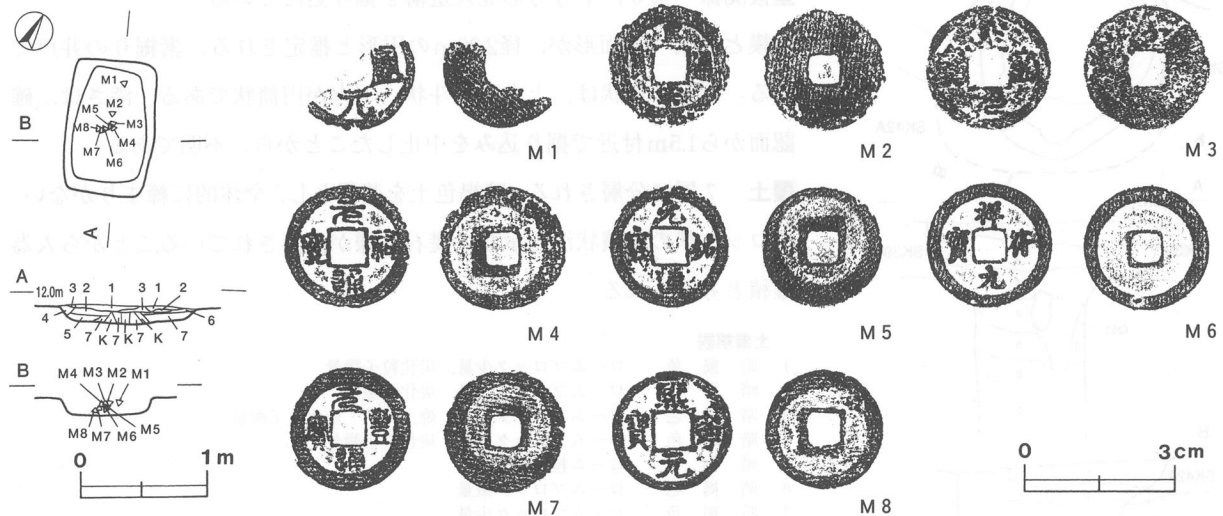
覆土 7層に分層される。極暗褐色土を基調としている。ブロック状の堆積状況を示し, 灰・炭化粒子を含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|--------|---------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 極暗褐色 | ロームブロック・炭化材・灰少量, 焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 灰中量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, 灰微量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・灰微量 | 7 褐灰色 | 灰中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック少量, 灰微量 | | |

遺物出土状況 古銭10点, 人骨片が覆土中から出土している。M1~M8の古銭は中央部の覆土上層から中層にかけて出土している。M2~M8は北宋銭である。

所見 出土遺物及び遺構の配置から, 火葬された後に, 埋葬が行われた墓塚と考えられる。時期は, 出土遺物から中世と考えられる。



第51図 第1号火葬墓・出土遺物実測図

第1号火葬墓出土遺物観察表 (第51図)

番号	鋳名	計測値				鋳造年代(初鋳年・西暦), 鋳造地	出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
M1	〇元通〇	[2.4]	0.1	—	(0.8)	不明	覆土中層	PL18 宋元通寶?(960,北宋)
M2	皇宋通寶	2.5	0.1	0.6	2.8	1038年, 北宋	覆土中層	PL18
M3	熙寧元寶	2.6	0.1	0.6	3.5	1068年, 北宋	覆土中層	PL18
M4	元祐通寶	2.5	0.1	0.6	3.6	1086年, 北宋	覆土中層	PL18
M5	元祐通寶	2.5	0.1	0.6	3.3	1086年, 北宋	覆土中層	PL18
M6	祥符元寶	2.5	0.1	0.6	3.8	1009年, 北宋	覆土中層	PL18
M7	元豐通寶	2.5	0.1	0.6	3.1	1078年, 北宋	覆土中層	PL18
M8	熙寧元寶	2.4	0.1	0.6	4.9	1068年, 北宋	覆土中層	PL18

表5 火葬墓一覧表

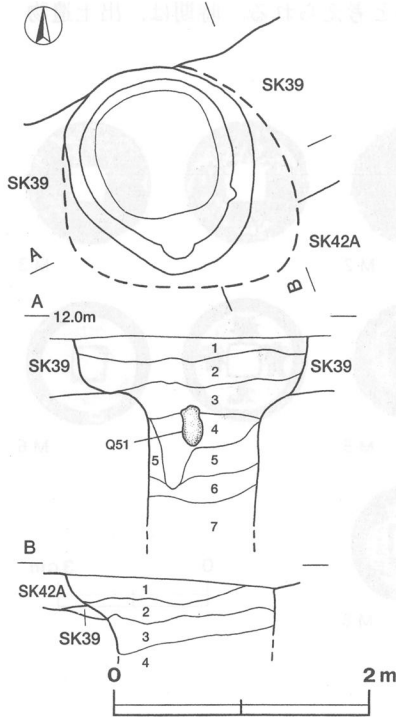
番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	時代	備考 (遺構番号) 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸) (m)	深さ (cm)						
1	E6c4	N-18°-W	長方形	1.06 × 0.68	12	外傾	平坦	人為	古銭10(北宋銭), 人骨片	中世	(SK10)

(3) 井戸跡

調査Ⅲ区から3基, Ⅳ区から4基の井戸跡が検出された。遺物は, 瓦質土器片(甕), 陶器片(甕), 古銭などが出土した。全体的に遺物は少なく, 遺物を出土していない井戸跡もあるが, 遺構の形態や配置, 重複関係などから, 中世から近世にかけてのものだと判断した。

以下, 主な遺構と出土遺物について記述し, その他のものは第55図と一覧表に記載する。

第1号井戸跡(第52図)



位置 調査Ⅳ区の中央部, E6b3区。方形竪穴遺構の南側集中区に位置している。

重複関係 第6, 7号方形竪穴遺構を掘り込んでいる。

規模と形状 平面形が, 径2.00mの円形と推定される, 素掘りの井戸である。断面の形状は, 上方が漏斗状, 下方が円筒状である。深さは, 確認面から1.5m付近で掘り込みを中止したことから, 不明である。

覆土 7層に分層される。暗褐色土を基調とし, 全体的に締まりがない。ブロック状の堆積状況を示し, 礎石や礫が投棄されていることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化材微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック微量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量

第52図 第1号井戸跡実測図

遺物出土状況 礎石2点, 礫7点が覆土中から出土している。Q50の安山岩製礎石は覆土中から, Q51の安山岩製礎石は中央部確認面の88cm下から出土している。ともに本跡に伴う遺物ではなく, 隣接する第6号または第7号方形竪穴遺構に関連するものと考えられ, 遺構廃絶時に礫と一緒に投棄され, 混入した可能性が高い。

所見 方形竪穴遺構を掘り込み, 円形の土坑群に隣接して構築されていることから, 墓域に伴う井戸の可能性が高い。時期は, 遺構の形態及び重複関係から, 15世紀後半以降の中世または近世と考えられる。

第1号井戸跡出土遺物観察表

番号	器種	計測値				石質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q50	礎石	(12.6)	(9.3)	8.3	(596.6)	安山岩	破断している。	覆土	PL20のみ
Q51	礎石	(18.4)	(10.8)	10.4	(1344.6)	安山岩	破断している。	確認面88cm下	PL20のみ

第5号井戸跡 (第53図)

位置 調査Ⅲ区の南東部, D4d7区。

重複関係 第93号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 平面形が、径1.13mの円形を呈する、素掘りの井戸である。断面の形状は、上方が漏斗状、下方が円筒状である。深さは、確認面から1.3m付近で掘り込みを中止したことから、不明である。

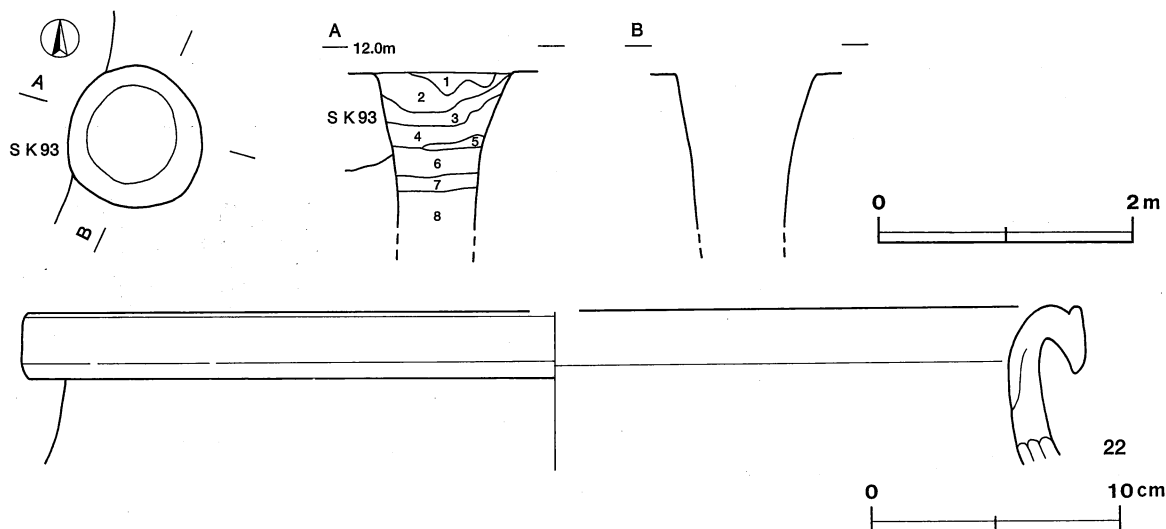
覆土 8層に分層される。暗褐色土を基調とし、全体的に強く締まっている。ブロック状の堆積状況を示していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化材微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 陶器瓦片1点が出土している。22の常滑窯産甕は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土遺物及び遺構の形態から、13世紀後半と考えられる。



第53図 第5号井戸跡出土遺物実測図

第5号井戸跡出土遺物観察表 (第53図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	手法の特徴	胎土	色調	釉薬	出土位置	産地年代	備考
22	陶器	甕	[41.6]	(6.3)	-	内・外面ナデ。	にぶい橙	明赤褐	-	覆土	常滑窯13C後	5% PL19

第6号井戸跡 (第54図)

位置 調査Ⅲ区の南東部, D4c6区。

規模と形状 平面形が長径2.28m, 短径2.07mの楕円形を呈する、素掘りの井戸である。断面の形状は、上方が漏斗状、下方が円筒状である。深さは、確認面から1.4m付近で掘り込みを中止したことから、不明である。長径方向は、N-62°-Wである。

覆土 13層に分層される。暗褐色土・黒褐色土を基調とし、全体的に締まりがない。ブロック状の堆積状況を示し、馬骨や礫が投棄されていることから人為堆積と考えられる。

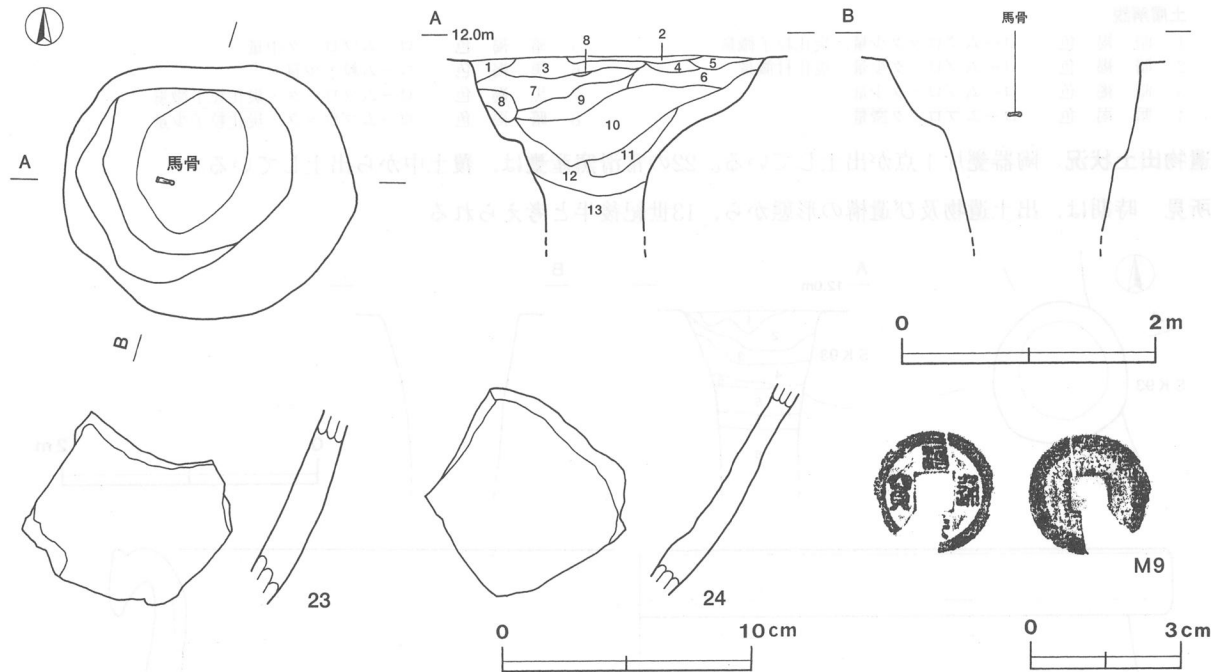
土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 3 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|------------------------|
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量, 粘土粒子微量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック中量 | 13 暗褐色 | ロームブロック中量, 粘土粒子少量 |
| 9 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量 | | |

遺物出土状況 瓦質土器甕片1点, 陶器甕片3点, 古銭1点, 礫1点, 馬骨が出土している。23の甕, 24の常滑窯産甕, M9の古銭は覆土中から出土している。古銭は北宋銭である。馬骨は確認面から64cm下の中央部から出土した。これらの遺物は, 遺構廃絶時に投棄された可能性が高い。

所見 時期は, 出土遺物及び遺構の形態から中世と考えられる。



第54図 第6号井戸跡・出土遺物実測図

第6号井戸跡遺物出土観察表(第54図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	手法の特徴	胎土	色調	釉薬	出土位置	産地年代	備考
23	瓦質土器	甕	-	(7.7)	-	内・外面ナデ。	長石	灰黄褐・褐灰	-	覆土		5%
24	陶器	甕	-	(8.3)	-	外面ナデ。	灰褐	赤褐・黒褐	-	覆土	常滑窯	5%

番号	鑄名	計測値				鑄造年代(初鑄年・西暦), 鑄造地	出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
M9	治平通寶	2.5	0.1	0.7	2.0	1064年, 北宋	覆土	PL18

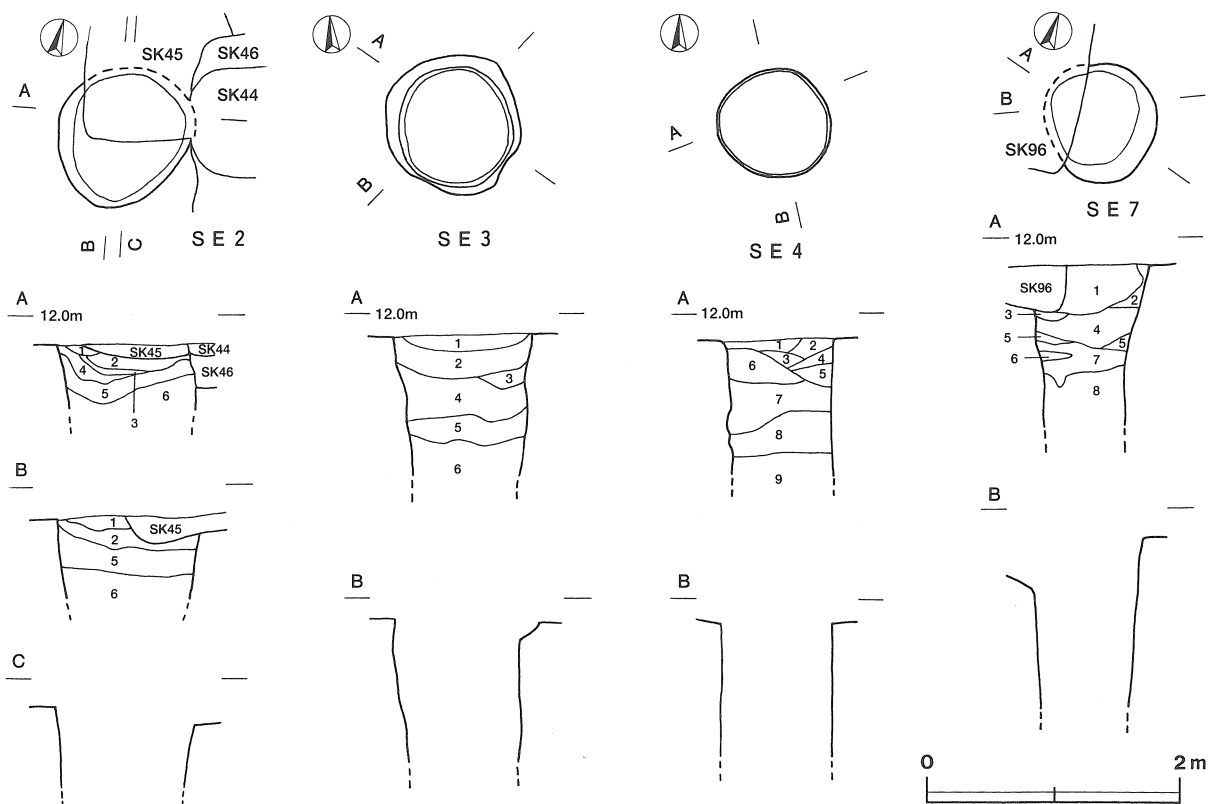
その他の井戸跡(第55図)

第2号井戸跡土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 粘土粒子少量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 |

第3号井戸跡土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子微量 |



第55図 第2・3・4・7号井戸実測図

第4号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量

- 6 暗褐色 ロームブロック中量
- 7 黒褐色 ロームブロック多量
- 8 黒褐色 ローム粒子多量
- 9 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第7号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量

- 5 黒褐色 ローム粒子少量
- 6 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 7 黒褐色 ロームブロック中量, 粘土粒子少量
- 8 黒褐色 ローム粒子多量

表6 井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	時代	備考 (遺構番号) 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸) (m)	深さ (cm)						
1	E 6 b3	-	[円形]	[2.00] × [2.00]	(150)	直立・外傾	不明	人為	礎石2, 磔7	15C後~近世	K39・42A→ 本跡(SE1)
2	E 6 a1	-	円形	1.06 × 1.06	(75)	直立	不明	人為		中世	本跡(SE2)→ SK44・45・46
3	D 5 i7	N-26°-W	楕円形	1.16 × 1.05	(120)	直立	不明	人為		中・近世	(SE3)
4	D 5 i7	-	円形	0.88 × 0.88	(120)	直立	不明	人為		中・近世	(SE4)
5	D 4 d7	-	円形	1.13 × 1.13	(130)	外傾	不明	人為	陶器1(常滑甕)	13C後半	SK93→ 本跡(SE5)
6	D 4 c6	N-62°-W	楕円形	2.28 × 2.07	(140)	外傾	不明	人為	瓦質土器1(甕), 陶器3(常滑甕), 古銭1, 磔1, 馬骨	中世	(SE6)
7	D 4 e5	-	[円形]	[0.94] × [0.94]	(130)	直立	不明	人為		中世	本跡(SE7)→ SK96

(4) 土坑

検出した土坑のうち、遺構の形態や重複関係、配置、土層の堆積状況などから、中・近世と判断したものは64基を数える。遺物はほとんど出土していないが、中世から近世にかけての墓塚の可能性が高い土坑が多い。

特に、調査Ⅳ区の中央部から南東部にかけて、第1号火葬墓付近を中心に墓壙と考えられる土坑が集中し、方形竪穴遺構の南側集中区と重複している。また、調査Ⅲ区の中央部から北西部にかけて、不整楕円形の土坑が集中している。詳しい性格は不明であるが、意図的に配置されていることが考えられる。

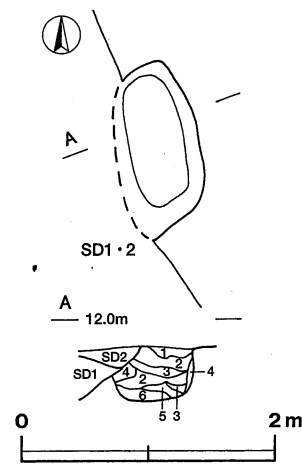
以下、それぞれの主な遺構と出土遺物について記述し、その他のものは第66～69図と一覧表に記載する。

第14号土坑 (第56図)

位置 調査Ⅳ区の東部、E6e5区。

重複関係 西壁部を第1, 2号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.28m, 確認できた短径0.67mで、平面形は楕円形と推定される。深さは43cmである。壁は外傾して立ち上がる。長径方向は、N-13°-Wである。底面は平坦である。



覆土 6層に分層される。粘土粒子を含み、全体的に締まりがない。ブロック状の堆積状況を示し、部分的に層位が逆転していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

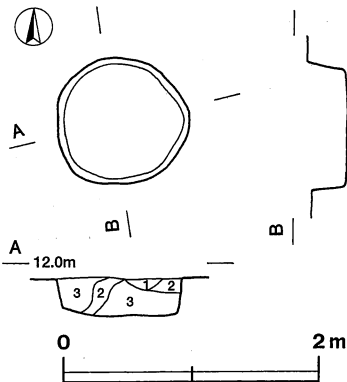
- | | | |
|---|-----|---------------------------|
| 1 | 暗褐色 | 粘土粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量 |
| 3 | 褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 | 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量 |
| 5 | 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子微量 |
| 6 | 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 時期は、重複関係から中世と考えられる。

第56図 第14号土坑実測図

第18号土坑 (第57図)



位置 調査Ⅳ区の南東部、E6d2区。墓壙の集中区に位置する。

規模と形状 平面形は径1.02mの円形で、深さは30cmである。壁は直立する。底面は平坦である。

覆土 3層に分層される。ロームブロックを多く含み、ブロック状の堆積状況を示していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | |
|---|-----|-----------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 | 黒褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 付近に同じ形態の土坑が集中していること、円形で人為堆積であることから、墓壙の可能性が高い。時期は、同形態の土坑が方形竪穴遺構を掘り込んでいること、及び墓壙集中区に位置していることから、中世から近世と考えられる。

第24号土坑 (第58図)

位置 調査Ⅳ区の中央部、E5b9区。

規模と形状 平面形は長軸3.00m, 短軸1.74mの長方形で、深さは15cmである。壁は外傾して立ち上がる。長

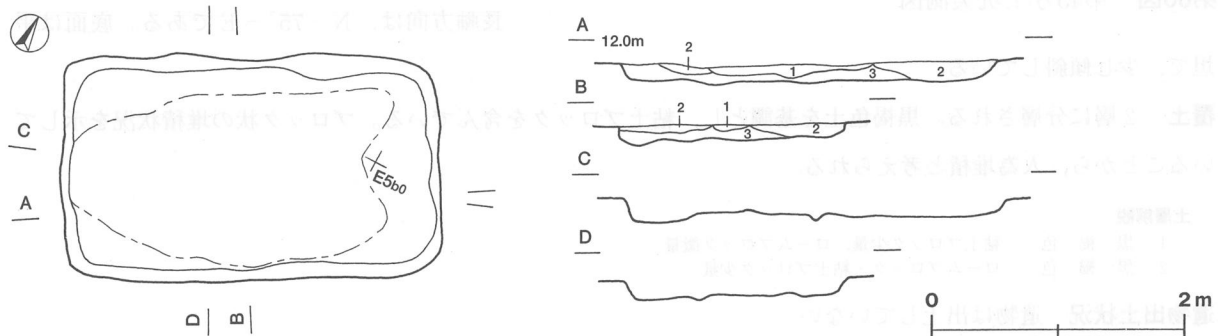
軸方向は、N-63°-Eである。底面は凹凸で、北東壁・北西壁沿いを除いて、強く踏み固められている。覆土 3層に分層される。ロームブロックを多く含み、ブロック状の堆積状況を示していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 礫1点が東部の覆土下層から出土している。礫は方形堅穴遺構の礎石と同じ安山岩であるが、破損しており、柱の接地面は確認できない。

所見 長方形で、礎石と同じ石材の礫が出土していることなど、方形堅穴遺構との共通点があることから、時期は中世の可能性はある。



第58図 第24号土坑実測図

第26号土坑 (第59図)

位置 調査IV区の中央部, E5b8区。

規模と形状 平面形は長軸1.57m, 短軸0.97mの長方形で、深さは30cmである。壁は外傾して立ち上がる。長軸方向は、N-73°-Eである。底面は平坦である。

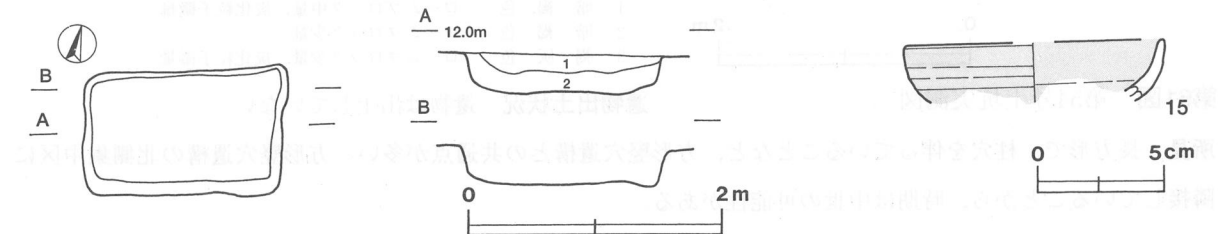
覆土 2層に分層される。暗褐色土を基調とし、ロームブロックを多く含み、ブロック状の堆積状況を示していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 陶器小皿片1点が出土している。15の瀬戸・美濃系小皿は、覆土中から出土している。

所見 墓域に隣接し、長方形で人為堆積であることから、屈葬された墓壙の可能性が高い。時期は、出土遺物及び遺構の形態から中世と考えられる。

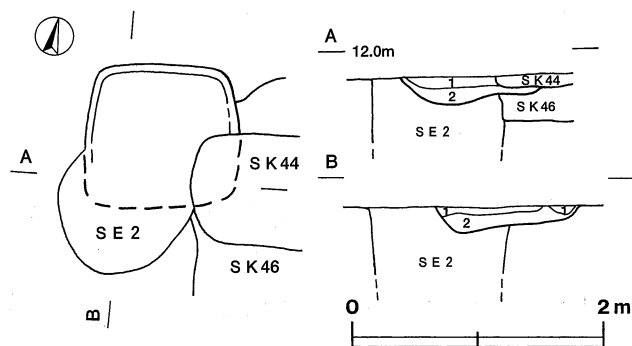


第59図 第26号土坑実測図

第26号土坑出土遺物観察表 (第59図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	手法の特徴	胎土	色調	釉薬	出土位置	産地年代	備考
15	陶器	小皿	[10.1]	(2.5)	-	中位に弱い稜を持つ。釉漬け掛け。	淡黄	灰黄	灰釉	覆土	瀬戸・美濃系	10% PL19

第45号土坑 (第60図)



第60図 第45号土坑実測図

位置 調査IV区の中央部, E6a1区。

重複関係 第8号方形竪穴遺構の西壁, 第2号井戸跡の北部を掘り込んでいる。また, 第44号土坑に南東コーナー部を掘り込まれている。

規模と形状 確認できた長軸1.23m, 短軸1.14mで, 平面形は長方形と推定される。深さは18cmである。壁は緩やかに立ち上がる。長軸方向は, N-75°-Eである。底面は平坦で, 少し傾斜している。

覆土 2層に分層される。黒褐色土を基調とし, 粘土ブロックを含んでいる。ブロック状の堆積状況を示していることから, 人為堆積と考えられる。

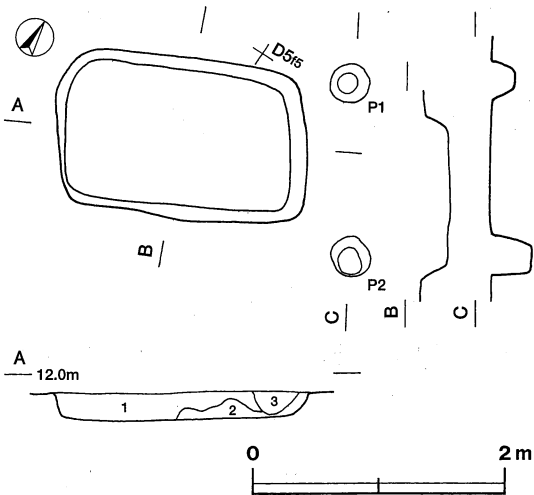
土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量, ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 墓域に隣接し, 同じ形態の土坑が集中していることから, 墓塚の可能性が高い。時期は, 遺構の形態及び中世の井戸跡を掘り込んでいることから, 中世から近世と考えられる。

第54号土坑 (第61図)



第61図 第54号土坑実測図

位置 調査IV区の北部, D5g4区。

規模と形状 平面形は長軸1.98m, 短軸1.32mの長方形で, 深さは22cmである。壁は外傾して立ち上がる。長軸方向は, N-60°-Eである。底面は平坦である。北東壁の外部周辺に2か所のピットを伴っている。P1・P2は深さ18~32cmで, その規模及び配置から柱穴と考えられる。

覆土 3層に分層される。ブロック状の堆積状況を示していることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐灰色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 長方形で, 柱穴を伴っていることなど, 方形竪穴遺構との共通点が多い。方形竪穴遺構の北側集中区に隣接していることから, 時期は中世の可能性がある。

第96号土坑 (第62図)

位置 調査III区の中央部, D4e5区。

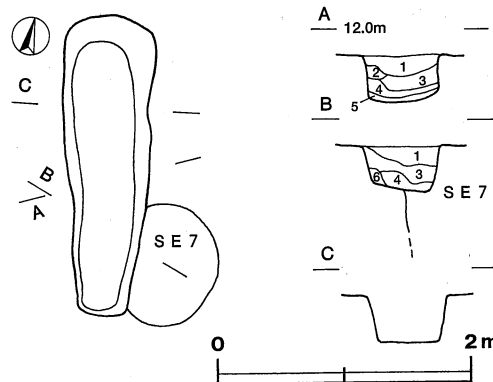
重複関係 第7号井戸跡の西壁を掘り込んでいる。

規模と形状 平面形は長軸2.39m、短軸0.68mの不整楕円形で、深さは37cmである。壁は外傾して立ち上がる。長軸方向は、N-11°-Wである。底面は平坦で、少し傾斜している。

覆土 6層に分層される。全体的にロームブロックを多く含み、ブロック状の堆積状況を示していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | |
|---|-----|----------------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 | 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 | 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 | 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 5 | 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 | 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |



第62図 第96号土坑実測図

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 調査Ⅲ区北部に同じ形態の土坑が集中していること、これらの土坑はほぼ同じ主軸方向を示していること、すべて人為堆積であることから、意図的に配置されたと考えられる。時期は、重複関係及び位置から、中世から近世と考えられる。

第145号土坑 (第63図)

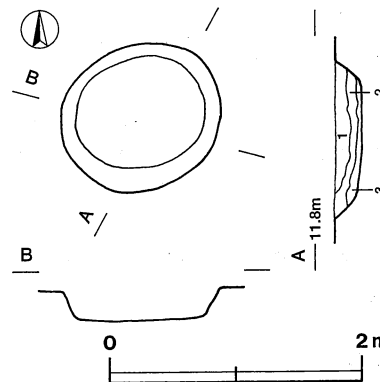
位置 調査Ⅲ区の中央部, D3a8区。

規模と形状 平面形は長径1.29m、短径1.15mの楕円形で、深さは35cmである。壁は外傾して立ち上がる。長径方向は、N-57°-Eである。底面は平坦である。

覆土 3層に分層される。ブロック状の堆積状況を示していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | |
|---|-----|---------------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 | 褐色 | ロームブロック微量 |



第63図 第145号土坑実測図

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 付近に円形や楕円形の土坑が集中していること、人為堆積であることから、墓壇の可能性が高い。時期は、遺構の形態及び位置から、中世から近世と考えられる。

第164号土坑 (第64図)

位置 調査Ⅲ区の北部, C3g5区。

重複関係 第2号住居跡の北壁を掘り込んでいる。

規模と形状 平面形は長軸1.82m、短軸0.49mの不整楕円形で、深さは21cmである。壁は外傾して立ち上がる。長軸方向は、N-15°-Wである。底面は平坦である。

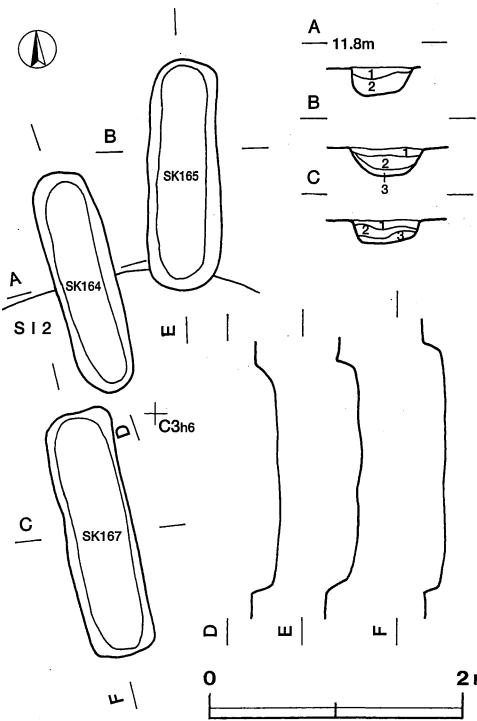
覆土 2層に分層される。黒褐色土を基調とし、ブロック状の堆積状況を示していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | |
|---|-----|---------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 隣接して同じ形態・主軸方向を示す土坑が集中していること、すべて人為堆積であることから、意図的に配置されたと考えられる。時期は、重複関係及び位置から、中世から近世と考えられる。



第165号土坑 (第64図)

位置 調査Ⅲ区の北部, C3g6区。

重複関係 第2号住居跡の北壁を掘り込んでいる。

規模と形状 平面形は長軸1.82m, 短軸0.56mの不整楕円形で、深さは21cmである。壁は外傾して立ち上がる。長軸方向は、 $N-1^{\circ}-E$ である。底面は平坦である。

覆土 3層に分層される。粘土粒子を含み、ブロック状の堆積状況を示していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 隣接して同じ形態・主軸方向を示す土坑が集中していること、すべて人為堆積であることから、意図的に配置されたと考えられる。時期は、重複関係及び位置から、中世から近世と考えられる。

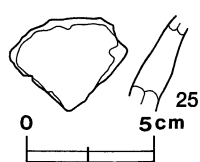
第64図 第164・165・167号土坑実測図

第167号土坑 (第64・65図)

位置 調査Ⅲ区の北部, C3h5区。

重複関係 第2号住居跡の中央部を掘り込んでいる。

規模と形状 平面形は長軸1.98m, 短軸0.54mの不整楕円形で、深さは18cmである。壁は外傾して立ち上がる。長軸方向は、 $N-12^{\circ}-W$ である。底面は平坦である。



覆土 3層に分層される。全体的に粘土粒子を含み、締まりがない。ブロック状の堆積状況を示していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量

第65図

第167号土坑実測図

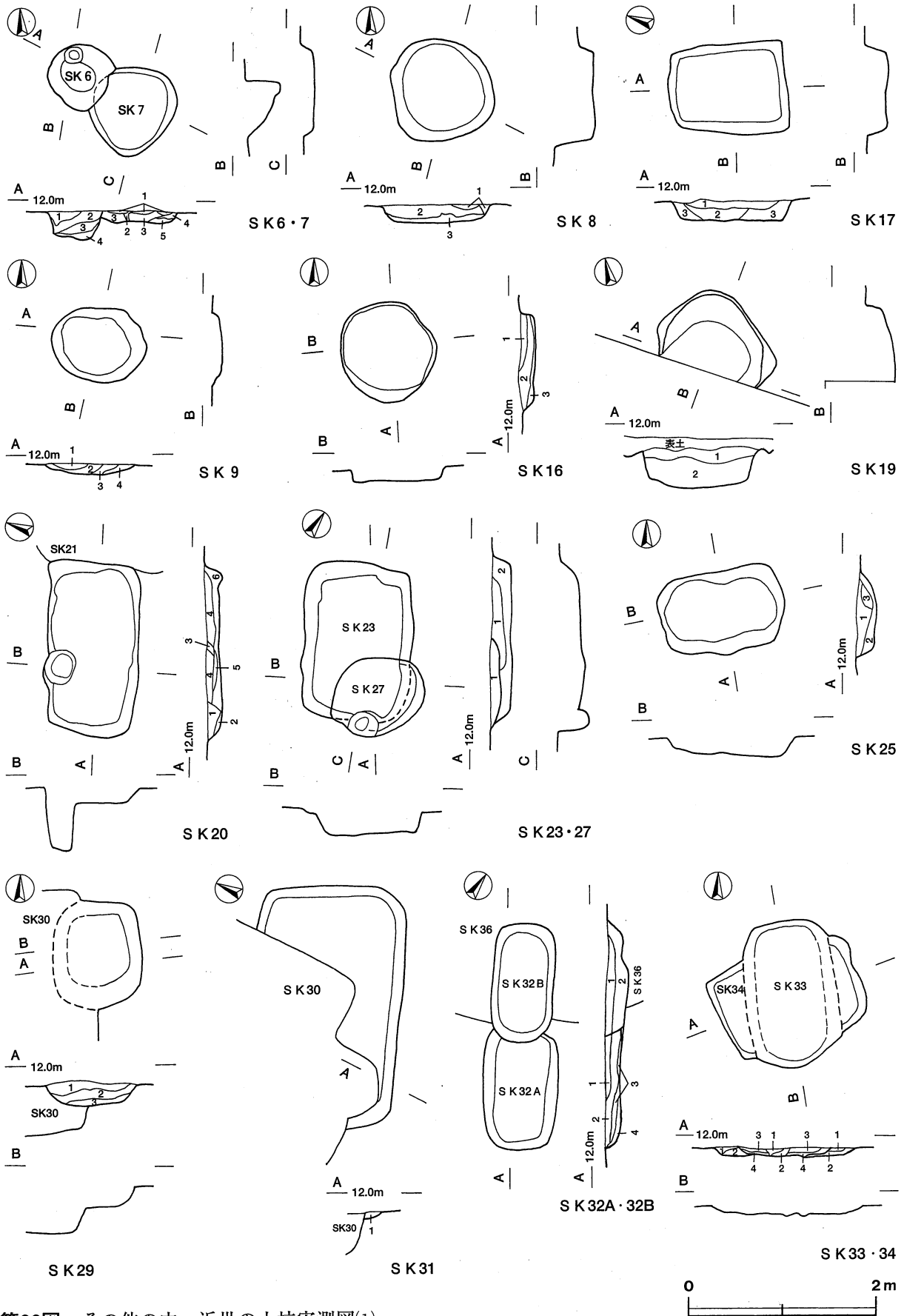
遺物出土状況 陶器甕片1点が出土している。25の常滑窯産甕は、覆土中から出土している。

所見 隣接して同じ形態・主軸方向を示す土坑が集中していること、すべて人為堆積であることから、意図的に配置されたと考えられる。時期は、重複関係及び出土遺物から、中世から近世と考えられる。

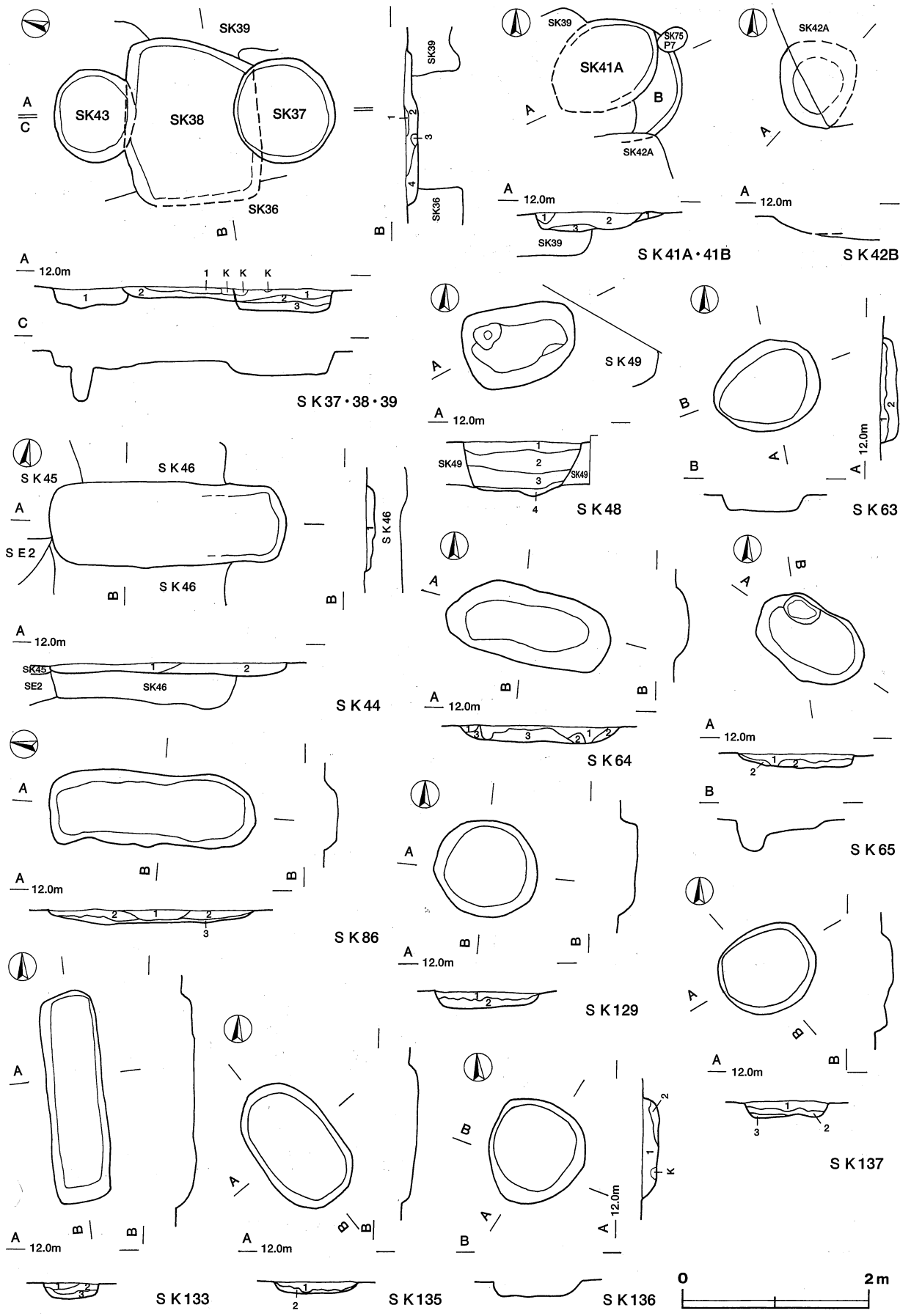
第167号土坑出土遺物観察表 (第65図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	手法の特徴	胎土	色調	釉薬	出土位置	産地年代	備考
25	陶器	甕	-	(3.6)	-	外面ナデ, 内面自然釉。	灰褐	明褐	-	覆土	常滑窯	5%

その中・近世の土坑 (第66~69図)



第66図 その中・近世の土坑実測図(1)



第67図 その他の中・近世の土坑実測図(2)

第6号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 褐灰色 ローム粒子少量

第7号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 砂微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量

第8号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第9号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第16号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第17号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 粘土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

第19号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 粘土粒子微量

第20号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量
- 6 黒褐色 ロームブロック微量

第23号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第25号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量

第27号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第29号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック多量

第31号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第32A号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

第32B号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第33号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量

第34号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第37号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量

第38号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第41A号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第41B号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量

第43号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量

第44号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第48号土坑土層解説

- 1 褐灰色 ローム粒子中量
- 2 褐灰色 ロームブロック少量, 粘土粒子微量
- 3 褐灰色 ロームブロック少量, 炭化粒子・粘土粒子微量
- 4 褐灰色 ロームブロック中量, 炭化粒子・粘土粒子微量

第63号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第64号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第65号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第86号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第129号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第133号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 粘土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・粘土粒子微量

第135号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子少量

第136号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第137号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第138号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第140号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第142号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第146号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第149号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第150号土坑土層解説

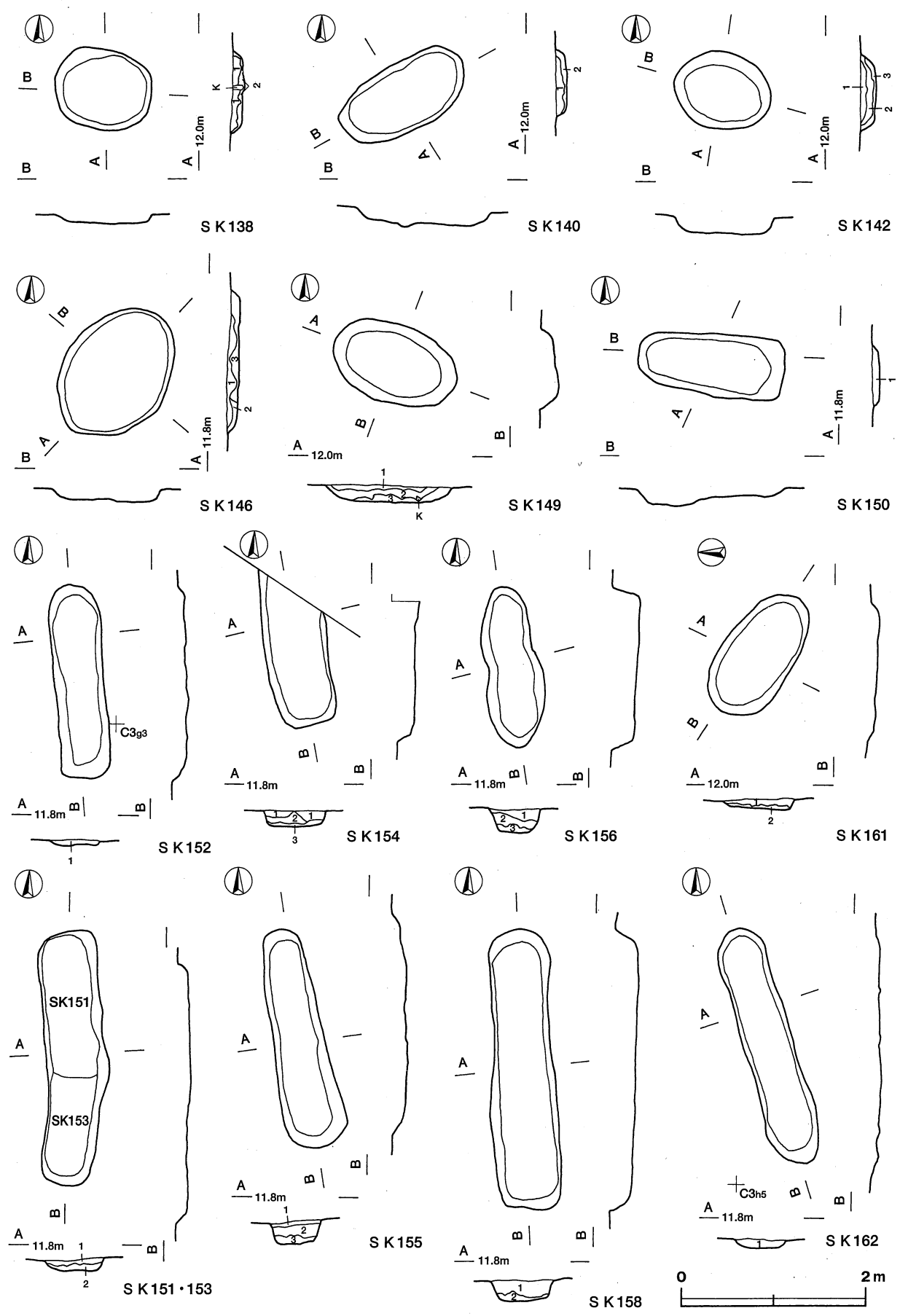
- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量

第151号土坑土層解説

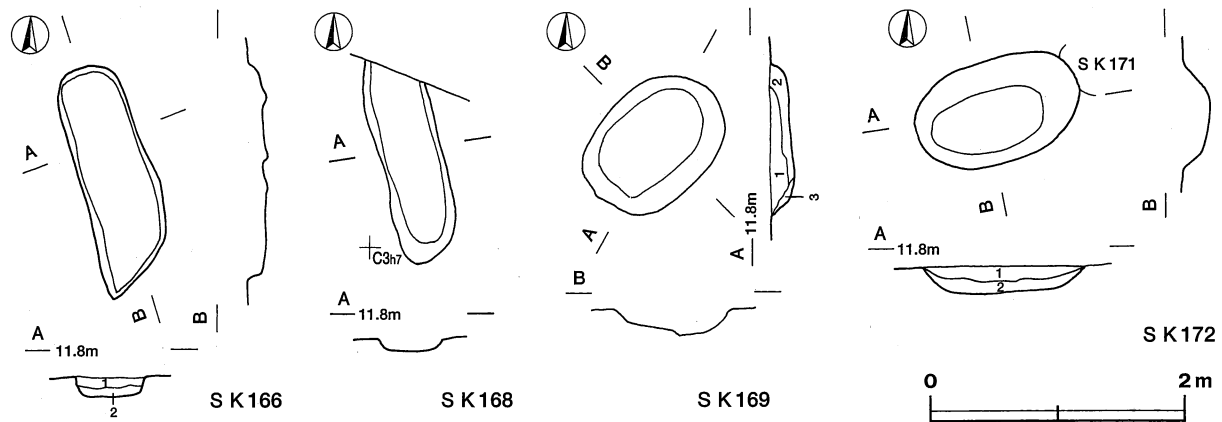
- 1 黒褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 粘土粒子少量, ローム粒子微量

第152号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量



第68図 その他の中・近世の土坑実測図(3)



第69図 その他の中・近世の土坑実測図(4)

第154号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子・粘土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

第155号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

第156号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第158号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土粒子中量, ロームブロック・炭化物少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

第161号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量

第162号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量

第166号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量

第169号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第172号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

表7 中・近世の土坑一覧表

番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	時代	備考 (遺構番号) 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸) (m)	深さ (cm)						
6	E 6 c4	-	円形	0.66 × 0.66	28	緩斜	平坦	人為		中・近世	SK 7→本跡
7	E 6 c4	-	円形	0.93 × 0.93	11	緩斜	平坦	人為		中・近世	本跡→SK 6
8	E 6 e3	-	円形	1.13 × 1.13	28	外傾	平坦	人為		中・近世	
9	E 6 c3	N-80°-W	楕円形	1.04 × 0.80	10	緩斜	皿状	人為		中・近世	
14	E 6 e5	N-13°-W	[楕円形]	1.28 × (0.67)	43	外傾	平坦	人為		中世	本跡→SD 1・2
16	E 6 c3	-	円形	1.03 × 1.03	15	直立	平坦	人為		中・近世	
17	E 6 d3	N-19°-W	長方形	2.26 × 1.94	21	外傾	平坦	人為		中・近世	
18	E 6 d2	-	円形	1.02 × 1.02	30	直立	平坦	人為		中・近世	
19	E 6 d2	N-31°-W	[長方形]	1.21 × (0.83)	37	直立	平坦	人為		中・近世	
20	E 6 d2	N-69°-E	不整長方形	1.89 × 0.98	16	緩斜	平坦	人為		中・近世	
23	E 6 d1	N-23°-W	長方形	1.87 × 1.13	25	外傾	平坦	人為		中・近世	ビット1を伴う 本跡→SK27
24	E 5 b9	N-63°-E	長方形	3.00 × 1.74	15	外傾	凹凸	人為	碟1	中・近世	
25	E 5 b9	N-77°-E	楕円形	1.35 × 0.90	24	緩斜	平坦	人為		中・近世	
26	E 5 b8	N-73°-E	長方形	1.57 × 0.97	30	外傾	平坦	人為	陶器1(瀬戸・美濃系小皿)	中世	
27	E 6 d1	N-26°-E	[楕円形]	0.97 × [0.72]	14	外傾	平坦	人為		中・近世	SK23→本跡
29	E 5 b0	[N-6°-W]	[楕円形]	1.15 × (0.54)	27	緩斜	皿状	人為		中・近世	SK30→本跡
31	E 5 b0	[N-65°-E]	[長方形]	2.60 × 1.60	10	緩斜	平坦	不明		中世以前	本跡→SK30
32A	E 6 c2	N-28°-W	[隅丸長方形]	[1.42] × 0.80	18	緩斜	平坦	人為		中・近世	本跡→SK32B
32B	E 6 c2	N-28°-W	[長方形]	[1.28] × [0.68]	24	緩斜	皿状	人為		中・近世	SK32A・36→本跡
33	E 6 c3	[N-5°-W]	[長方形]	1.58 × [1.01]	7	緩斜	平坦	人為		中・近世	SK34→本跡

番号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平 面 形	規 模			壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	時 代	備 考 (遺構番号) 新旧関係(古→新)
				長径(軸) (m)	短径(軸) (m)	深さ (cm)						
34	E 6c3	N-71°-E	[長方形]	1.55 × [1.08]		7	緩斜	平坦	人為		中・近世	本跡→SK33
37	E 6c2	-	円 形	1.11 × 1.11		24	外傾	平坦	人為		中・近世	SK38→本跡
38	E 6c2	[N-70°-E]	[長方形]	[1.80] × [1.43]		13	直立	平坦	人為		中・近世	SK36・43→本跡→SK37
41A	E 6b3	-	[楕円形]	[1.30] × (0.97)		21	外傾	平坦	人為		中・近世	SK39, 41B→本跡
41B	E 6b3	-	[円形]	(0.53) × (0.53)		8	緩斜	平坦	不明		中・近世	SK39→本跡→SK41A SK42Aとの新旧不明
42B	E 6c3	-	[円形]	[0.85] × [0.85]		15	緩斜	平坦	不明		中・近世	SK42A→本跡
43	E 6b2	N-52°-E	楕 円 形	1.03 × 0.09		17	外傾	平坦	人為		中・近世	本跡→SK38
44	E 6a2	N-75°-E	[長方形]	[2.55] × 0.82		14	外傾	平坦	人為		中・近世	SE 2, SK45・46→ 本跡
45	E 6a1	N-75°-E	[長方形]	[1.23] × [1.14]		18	緩斜	平坦	人為		中・近世	SE 2, SK46→ 本跡→SK44
48	D 5i9	N-60°-E	隅丸長方形	1.25 × 0.88		60	外傾	平坦	人為		中・近世	SK49→本跡
54	D 5g4	N-60°-E	長 方 形	1.98 × 1.32		22	外傾	平坦	人為		中・近世	ピット2を伴う
63	E 6a1	N-53°-E	不整楕円形	1.12 × 0.94		18	外傾	平坦	人為		中・近世	
64	E 5a8	N-79°-W	隅丸長方形	1.80 × 0.82		16	緩斜	平坦	人為		中・近世	
65	E 5a8	N-56°-W	楕 円 形	1.24 × 0.81		15	緩斜	平坦	人為		中・近世	
86	D 4e7	N-9°-W	不整楕円形	2.21 × 0.80		15	緩斜	平坦	人為		中・近世	
96	D 4e5	N-11°-W	不整楕円形	2.39 × 0.68		37	外傾	平坦	人為		中・近世	SE 7→本跡
129	D 3a9	-	円 形	1.10 × 1.10		22	緩斜	平坦	人為		中・近世	
133	C 3j5	N-6°-W	長 方 形	2.30 × 0.60		23	緩斜	平坦	人為		中・近世	
135	D 3a6	N-40°-W	楕 円 形	1.46 × 0.89		7	緩斜	平坦	人為		中・近世	
136	D 3a6	-	円 形	1.10 × 1.10		16	緩斜	平坦	人為		中・近世	
137	C 3j6	N-58°-E	楕 円 形	1.08 × 0.95		18	外傾	凹凸	人為		中・近世	
138	C 3j6	N-75°-W	楕 円 形	1.07 × 0.88		11	緩斜	平坦	人為		中・近世	
140	D 3a6	N-58°-E	楕 円 形	1.48 × 0.74		17	緩斜	平坦	人為		中・近世	
142	C 3a7	N-72°-W	楕 円 形	1.08 × 0.86		18	緩斜	平坦	人為		中・近世	
145	D 3a8	N-57°-E	楕 円 形	1.29 × 1.15		35	外傾	平坦	人為		中・近世	
146	C 3h4	N-38°-E	楕 円 形	1.54 × 1.17		13	外傾	平坦	人為		中・近世	
149	C 3i9	N-65°-W	楕 円 形	1.37 × 0.86		17	緩斜	平坦	人為		中・近世	
150	C 3e1	N-85°-W	長 方 形	1.58 × 0.68		16	緩斜	平坦	人為		中・近世	
151	C 3e2	N-5°-W	不整楕円形	1.60 × 0.64		13	外傾	平坦	人為		中・近世	SK153との新旧不明
152	C 3f2	N-6°-W	不整楕円形	2.01 × 0.54		12	緩斜	平坦	人為		中・近世	
153	C 3e2	N-7°-E	[不整楕円形]	(1.18) × 0.56		9	緩斜	平坦	人為		中・近世	SK151との新旧不明
154	C 3f3	N-10°-W	[不整楕円形]	(1.47) × 0.68		17	外傾	平坦	人為		中・近世	
155	C 3g2	N-10°-W	不整楕円形	2.41 × 0.57		21	緩斜	平坦	人為		中・近世	
156	C 3g3	N-6°-W	不整楕円形	1.76 × 0.56		34	外傾	平坦	人為		中・近世	
158	C 3h3	N-4°-W	不整楕円形	3.04 × 0.70		23	緩斜	平坦	人為		中・近世	
161	C 3j5	N-56°-W	楕 円 形	1.48 × 0.77		7	緩斜	平坦	人為		中・近世	
162	C 3g5	N-17°-W	不整楕円形	2.67 × 0.53		6	緩斜	平坦	人為		中・近世	
164	C 3g5	N-15°-W	不整楕円形	1.82 × 0.49		21	外傾	平坦	人為		中・近世	SI 2→本跡
165	C 3g6	N-1°-E	不整楕円形	1.82 × 0.56		21	外傾	平坦	人為		中・近世	SI 2→本跡
166	C 3g6	N-14°-W	不整楕円形	1.72 × 0.57		13	外傾	平坦	人為		中・近世	
167	C 3h5	N-12°-W	不整楕円形	1.98 × 0.54		18	外傾	平坦	人為	陶器1(常滑甕)	中 世	SI 2→本跡
168	C 3g7	N-12°-W	[不整楕円形]	(1.51) × 0.48		7	外傾	平坦	不明		中・近世	
169	C 3i9	N-18°-E	楕 円 形	1.23 × 0.91		20	緩斜	皿状	人為		中・近世	
172	C 3i9	N-70°-E	楕 円 形	1.32 × 0.83		21	緩斜	皿状	人為		中・近世	SK171との新旧不明

(5) 溝

当遺跡から検出された溝のうち、中・近世と考えられる溝は5条である。遺物は、土師質土器片（播鉢）、陶磁器片（碗、香炉、瓶子、甕）などが出土した。方形竪穴遺構や墓壇の可能性ある土坑を囲むように巡っていることから、中世から近世にかけて、集落または墓域を区画するために構築されたものと考えられる。

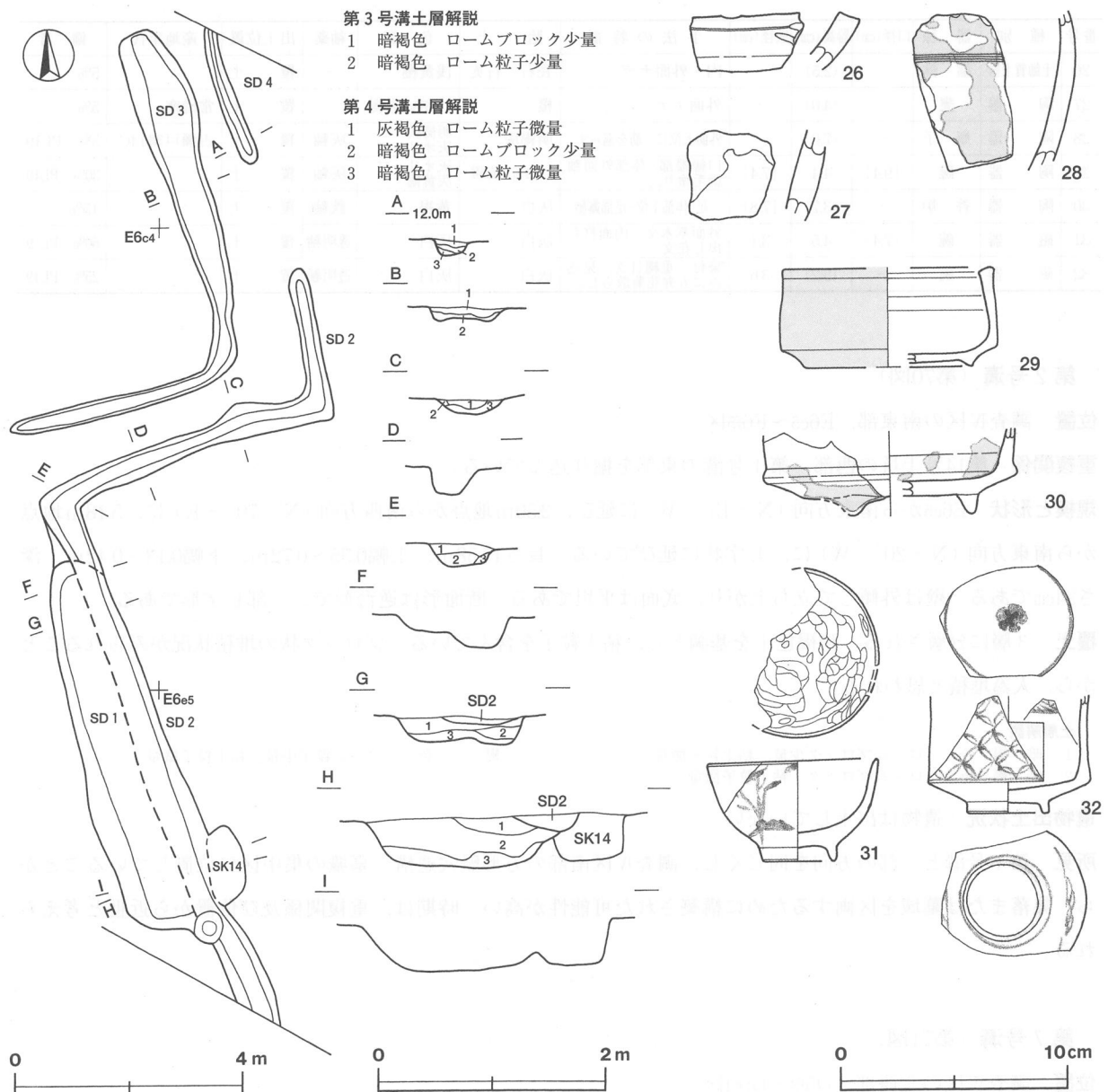
以下、主な遺構と出土遺物について記述し、その他のものは第70図と一覧表に記載する。

第1号溝（第70図）

位置 調査IV区の南東部，E6d4～E6f5区。

重複関係 第14号土坑の西部を掘り込んでいる。また，第2号溝に掘り込まれている。

規模と形状 E6d4区から南東方向（N-19°-W）に，直線的に延びている。平面形は，長さ6.62m，上幅1.24～1.73m，下幅0.78～1.12m，深さは45cmである。壁は外傾して立ち上がり，底面はほぼ平坦で，断面形は逆台形である。



第70図 第1～4号溝・第1号溝出土遺物実測図

覆土 3層に分層される。暗褐色土を基調とし、締まりがない。粘土粒子を含み、ブロック状の堆積状況がみられることから人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子少量
2 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子少量、焼土粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師質土器播鉢片3点、陶器碗片4点、同香炉片1点、同甕片1点、同瓶子片1点、磁器碗片2点が、覆土中から出土している。27の古瀬戸窯産瓶子、28の常滑窯産甕は中世、29の碗、30の香炉、31・32の碗は近世と考えられる。

所見 調査IV区南部の方形竪穴遺構・墓壇の集中区に位置していることから、集落または墓域を区画するために構築された可能性が高い。第7号溝と方向は異なるが、同規模で、調査IV区の北部と南部に対照的に位置している。時期は、出土遺物及び重複関係から、14世紀後半から18世紀までと考えられる。

第1号溝出土遺物観察表(第70図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	手法の特徴	胎土	色調	釉薬	出土位置	産地年代	備考
26	土師質土器	播鉢	-	(2.5)	-	内・外面ナデ。	長石 石英	浅黄橙	-	覆土		5%
27	陶器	甕	-	(4.0)	-	外面ナデ。	橙	にぶい赤褐	-	覆土	常滑窯	5%
28	陶器	瓶子	-	(7.0)	-	外面上位に三筋を巡らす。	明褐灰	明褐灰 灰オリーブ	灰釉	覆土	古瀬戸窯14C	5% PL19
29	陶器	碗	[9.4]	4.4	[7.4]	口縁端部・体部外面釉 刷毛塗り。	にぶい黄橙	灰オリーブ 灰黄褐	灰釉	覆土		30% PL19
30	陶器	香炉	-	(3.7)	[7.8]	三足。体部下位・足部露胎。	灰白	黄褐	鉄釉	覆土		15%
31	磁器	碗	[7.4]	4.5	3.1	外面草木文、内面打ち 出し花文。	灰白	灰白	透明釉	覆土		60% PL19
32	磁器	碗	-	(5.2)	3.6	染付二重縄目文、見込 みに五弁花菊散らし。	灰白	灰白	透明釉	覆土		25% PL19

第2号溝(第70図)

位置 調査IV区の南東部、E6c5~E6f5区。

重複関係 第14号土坑の西部、第1号溝の東部を掘り込んでいる。

規模と形状 E6c5から南東方向(N-13°-W)に延び、2.50m地点から南西方向(N-70°-E)に、5.18m地点から南東方向(N-20°-W)に、L字状に延びている。長さ17.58m、上幅0.35~0.72m、下幅0.13~0.42m、深さ24cmである。壁は外傾して立ち上がり、底面は平坦である。断面形は逆台形で、一部U字形である。

覆土 3層に分層される。暗褐色土を基調とし、粘土粒子を含んでいる。ブロック状の堆積状況がみられることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、粘土粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子微量
3 褐色 ローム粒子中量、粘土粒子微量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 第1号溝と一部の方向を同じくし、調査IV区南部の方形竪穴遺構・墓壇の集中区に位置していることから、集落または墓域を区画するために構築された可能性が高い。時期は、重複関係及び位置から近世と考えられる。

第7号溝(第71図)

位置 調査IV区の北西部、D5f3~D5f4区。

規模と形状 D5f3区から北東方向(N-70°-E)に、直線的に延びている。北東部は調査区域外に延びている

ため、全体の規模は不明である。確認できた長さ3.60m、上幅0.85~1.10m、下幅0.24~0.36m、深さ76cmである。壁は外傾して立ち上がり、底面はほぼ平坦で、断面形は上部が広がったU字形である。

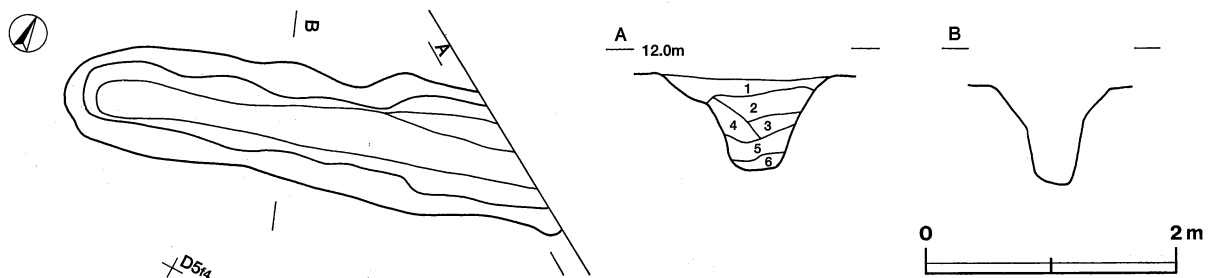
覆土 6層に分層される。暗褐色土を基調とし、締まりがない。ブロック状の堆積状況がみられることから、人為堆積と思われる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化材微量	5 暗褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 第1号溝と方向は異なるが、同規模で、調査IV区の北部と南部に対照的に位置していることから、墓域を区画するために構築された可能性が高い。時期は、遺構の形態及び配置から、中世から近世と考えられる。



第71図 第7号溝実測図

表8 溝(中・近世)一覧表

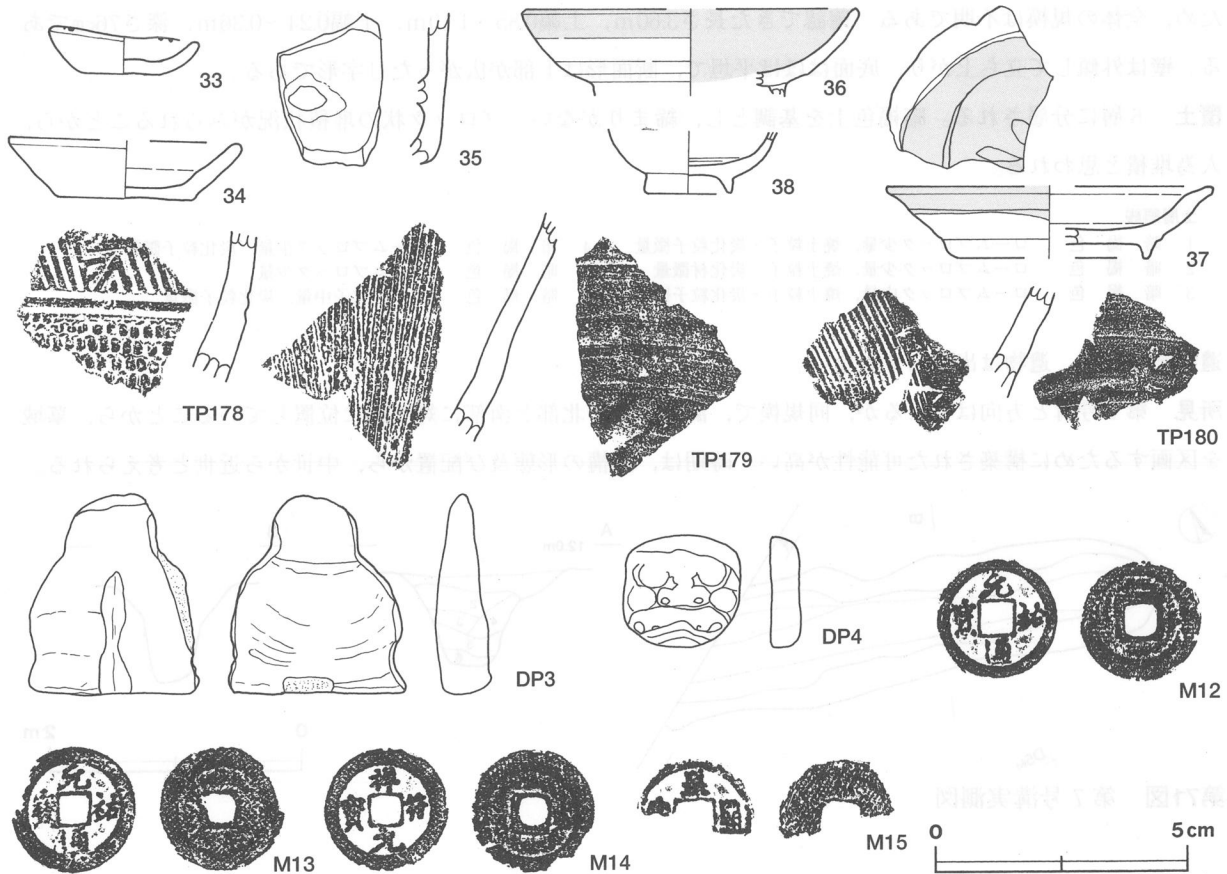
番号	位置	方向	形状	規模				断面形	壁面	覆土	出土遺物	時代	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)						
1	E 6 d4~E 6 f5	N-19°-W	直線	6.78	1.24~1.73	0.78~1.12	24~45	逆台形	外傾	人為	土師質土器3(播鉢), 陶器7(古瀬戸瓶子・常滑甕・碗・香炉), 磁器2(碗)	中世~近世	SK14→本跡→SD2
2	E 6 c5~E 6 f5	N-13°-W N-70°-E N-20°-W	L字状	(17.58)	0.35~0.72	0.13~0.42	14~24	逆台形・U字状	外傾	人為		近世	SD1・SK14→本跡
3	E 6 b4~E 6 c4	N-15°-W N-76°-E	L字状	13.95	0.28~1.04	0.12~0.74	10~14	逆台形	外傾	人為		中・近世	
4	E 6 b5	N-20°-W	直線	(2.45)	0.26~0.32	0.06~0.12	14~16	逆台形	外傾	人為		中・近世	
7	D 5 f4~D 5 f3	N-70°-E	直線	(3.60)	0.85~1.10	0.24~0.36	72~76	U字状	外傾	人為		中・近世	

(6) 遺構外出土遺物

他の時代の遺構に混入していたり、表土中から採集された中・近世の遺物としては、土師質土器片や陶磁器片、土製品、金属製品などがある。ここでは、特徴的な遺物のみ実測図(第72図)と観察表で記載する。

遺構外出土遺物(中・近世)観察表(第72図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	手法の特徴	胎土	色調	釉薬	出土位置	産地年代	備考
33	土師質土器	小皿	6.0	1.8	3.0	底部回転糸切り。	長石 石英 赤色粒子	にぶい黄橙	-	Ⅲ区表土	17C	98% 油埋付着 PL19
34	土師質土器	小皿	[9.2]	2.3	(5.4)	底部回転糸切り。	長石 石英	にぶい橙	-	Ⅲ区表土		20%
35	土師質土器	焙烙	-	(6.0)	-	内耳欠損。	長石 雲母 赤色粒子	にぶい褐	-	I区表土		5%
36	陶器	碗	[13.0]	(3.6)	-	口縁部外面から内部に かけ釉刷毛塗り。	にぶい黄橙	灰白	長石釉	表探	瀬戸・美濃系	20% PL19
37	陶器	碗	[13.0]	2.9	(8.2)	釉刷毛塗り。見込みに 花文。	灰白	にぶい黄橙	灰釉	Ⅲ区表土		20% PL19
38	磁器	碗	-	(2.5)	3.5	染め付け。	灰白	灰白	長石釉	Ⅳ区表土		30% PL19



第72図 遺構外出土遺物（中・近世）実測図

番号	種別	器種	手法の特徴	出土位置	備考
TP178	瓦質土器	火鉢	2本の沈線で区画された上位に平行叩キ, 下位に宝珠状のスタンプ文。	IV区表土	PL18
TP179・180	陶器	播鉢	縦方向の摺り目。	II区, III区	PL18

番号	器種	計測値				特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
DP3	土人形	3.9	3.6	(1.1)	(11.5)	背面部。中央に溝状の串刺し痕。	I区表土	PL20
DP4	泥面子	2.2	2.3	0.6	3.5	鬼面。	IV区表土	PL20

番号	鋳名	計測値				鋳造年代(初鋳年・西暦), 鋳造地	出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
M12	元祐通寶	2.5	0.1	0.6	2.8	1086年, 北宋	IV区表採	PL18
M13	元祐通寶	2.6	0.1	0.5	3.5	1086年, 北宋	IV区表採	PL18
M14	祥符元寶	2.5	0.1	0.5	3.4	1009年, 北宋	IV区表採	PL18
M15	豊〇通寶	[2.4]	0.1	0.6	(1.3)	不明	IV区表採	PL18 皇宋通寶?

4 時期不明の遺構と遺物

土坑91基, 溝8条が検出されたが, 遺物が出土しておらず, 時期を判断することが難しかった。また, 土師器や須恵器などが少数出土しているが, 遺構に伴うものではなく, 時期判断ができなかった。よって, 遺構については第73図・全体図と一覧表で, 遺物については実測図(第74図)と観察表で記載する。

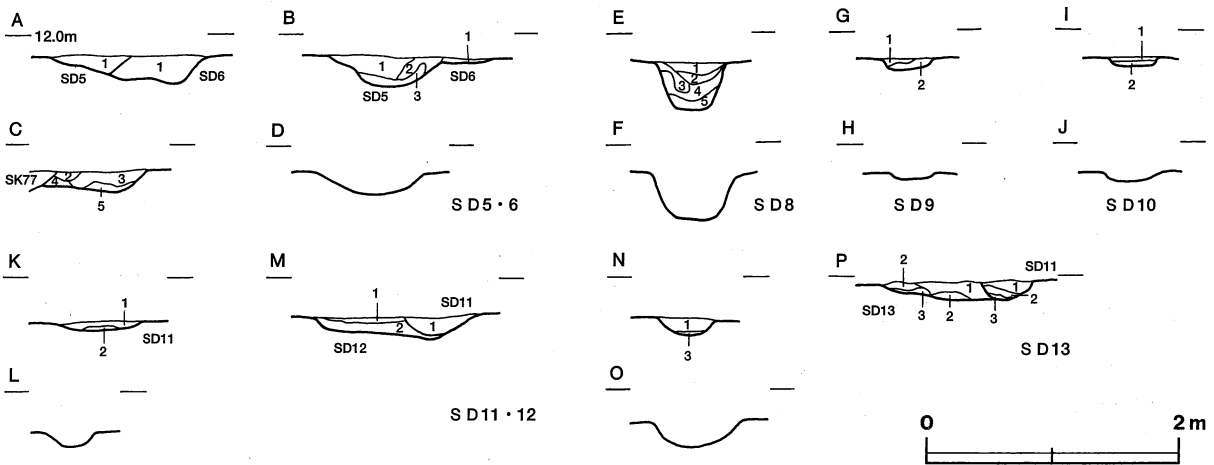
(1) 土坑

表9 時期不明の土坑一覧表

番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	時代	備考 新旧関係(古→新)
				長径(軸) ×短径(軸) (m)	深さ (cm)						
1	E 6 c6	N-14°-W	隅丸長方形	1.54 × 1.10	25	直立	平坦	人為		不明	
2	E 6 d7	N-67°-E	楕円形	0.82 × 0.70	27	緩斜	平坦	自然		不明	
4	E 6 e7	N-38°-W	[不整楕円形]	[1.28] × 0.95	6	緩斜	皿状	自然		不明	
5	E 6 c4	N-30°-W	長方形	1.59 × 0.92	5	緩斜	平坦	自然		不明	
21	E 6 d2	N-15°-W	不整長方形	2.21 × 0.76	12	緩斜	平坦	人為		不明	
22	E 6 d2	N-16°-W	[楕円形]	1.17 × (0.78)	12	緩斜	平坦	自然		不明	
28	E 6 d4	N-22°-E	楕円形	1.15 × 0.85	43	外傾	皿状	人為		不明	
55	E 5 a7	N-30°-W	[楕円形]	1.16 × [1.00]	36	緩斜	凹凸	人為		不明	本跡→SD6 SD5との新旧不明
56	E 5 a7	N-45°-W	[長方形]	0.84 × [0.74]	18	緩斜	皿状	人為		不明	本跡→SD6
57	E 5 a8	N-18°-W	[隅丸長方形]	[0.90] × 0.76	18	緩斜	皿状	人為	碟2	不明	SD6→本跡
58	E 5 a8	N-39°-W	[不整楕円形]	[1.06] × 0.72	20	緩斜	皿状	人為		不明	SD6→本跡
59	D 5 j8	N-37°-W	[隅丸長方形]	[0.96] × [0.88]	34	緩斜	皿状	人為		不明	本跡→SD6
60	D 5 j9	N-29°-W	[長方形]	[0.72] × [0.58]	54	外傾	凹凸	人為		不明	本跡→SD6
62	E 6 a2	N-10°-W	楕円形	1.50 × 0.77	32	外傾	凹凸	人為		不明	
68	D 5 i6	N-0°	楕円形	0.98 × 0.78	18	緩斜	平坦	人為		不明	
69	D 5 j6	N-9°-E	楕円形	2.38 × 1.40	54	緩斜	平坦	人為		不明	
70	E 5 a6	N-6°-E	楕円形	1.02 × 0.83	65	外傾	平坦	人為		不明	
71	D 5 i8	N-49°-W	不整楕円形	0.77 × 0.66	30	緩斜	平坦	人為		不明	
72	D 5 j6	N-40°-E	楕円形	2.66 × 1.57	27	外傾	平坦	人為		不明	
73	D 5 g6	N-75°-W	楕円形	0.87 × 0.62	62	外傾	平坦	人為		不明	
74	E 6 d3	N-56°-E	楕円形	1.30 × 0.81	19	緩斜	平坦	不明		不明	
76	D 5 i5	N-22°-E	楕円形	1.00 × 0.44	23	緩斜	皿状	人為		不明	
77	D 5 j9	N-37°-E	[長方形]	0.96 × 0.90	38	外傾	皿状	人為		不明	SD6→本跡
78	D 5 j9	-	[隅丸方形]	0.76 × 0.72	22	緩斜	凹凸	人為		不明	SD6との新旧不明
80	D 5 j0	N-73°-W	楕円形	1.71 × 1.01	28	外傾	平坦	人為		不明	
81	E 5 a0	N-87°-E	楕円形	0.90 × 0.63	23	外傾	凹凸	人為		不明	
82	E 5 a0	N-80°-E	楕円形	0.70 × 0.37	12	外傾	平坦	人為		不明	
83	D 4 e9	N-15°-W	楕円形	1.56 × 0.45	13	緩斜	平坦	自然		不明	SI1との新旧不明
85	D 4 g9	N-32°-E	楕円形	0.90 × 0.67	43	緩斜	平坦	人為		不明	
87	D 4 f6	N-75°-E	楕円形	1.57 × 0.98	23	緩斜	皿状	人為		不明	
88	D 4 e6	N-36°-E	楕円形	1.78 × 1.04	8	緩斜	平坦	自然		不明	
92	D 4 f7	-	円形	0.72 × 0.72	16	緩斜	凹凸	自然		不明	
99	D 4 d4	N-25°-E	楕円形	1.39 × 0.78	27	緩斜	平坦	自然		不明	
100	D 4 d4	N-23°-W	不整楕円形	0.73 × 0.66	40	外傾	凹凸	人為		不明	
101	D 4 d4	N-61°-E	楕円形	0.84 × 0.62	18	緩斜	平坦	不明		不明	
102	D 4 c4	N-44°-W	楕円形	1.02 × 0.54	22	緩斜	平坦	人為		不明	
103	D 4 c4	N-22°-E	楕円形	1.19 × 0.89	17	緩斜	皿状	自然		不明	本跡→SK104
104	D 4 b4	N-24°-E	楕円形	1.09 × 0.81	22	緩斜	皿状	自然		不明	SK103→本跡
105	D 4 a4	N-69°-W	[楕円形]	1.58 × (0.63)	31	緩斜	平坦	人為		不明	
107	B 4 b2	-	円形	1.09 × 1.09	20	外傾	凹凸	自然		不明	
108	D 4 c1	N-48°-W	楕円形	1.46 × 0.83	19	外傾	凹凸	自然		不明	
109	D 4 c2	N-40°-W	楕円形	0.80 × 0.67	15	外傾	凹凸	自然		不明	
110	D 4 b2	N-1°-W	楕円形	0.84 × 0.61	14	外傾	平坦	自然		不明	
112	D 4 c1	N-67°-W	楕円形	1.73 × 1.16	14	緩斜	平坦	自然		不明	
113	D 3 c0	N-30°-W	楕円形	0.96 × 0.69	11	緩斜	平坦	人為		不明	
114A	D 3 b0	-	方形	0.54 × 0.54	25	外傾	平坦	人為		不明	SK114B→本跡
114B	D 3 b0	N-17°-W	不整楕円形	(0.72) × 0.66	19	緩斜	平坦	人為		不明	本跡→SK114A
115	D 4 b1	N-42°-W	長方形	1.70 × 1.13	14	緩斜	平坦	自然		不明	
116	D 4 a2	N-78°-E	楕円形	1.18 × 0.94	16	緩斜	平坦	人為		不明	
117	D 4 a2	N-8°-E	不整楕円形	1.05 × 0.76	14	緩斜	平坦	人為		不明	
118	D 4 a2	N-16°-W	楕円形	1.37 × 0.93	23	緩斜	皿状	人為		不明	
119	D 4 a2	N-49°-E	楕円形	1.00 × 0.67	21	緩斜	平坦	人為		不明	
120	D 4 a2	N-14°-W	長方形	1.29 × 0.91	61	外傾	皿状	人為		不明	
121A	D 4 a1	-	方形	1.15 × 1.15	42	外傾	皿状	人為		不明	SK121B→本跡
121B	D 4 a1	N-68°-W	[長方形]	1.43 × (1.30)	23	外傾	平坦	自然		不明	本跡→SK121A
122	D 3 b0	N-45°-W	楕円形	0.88 × 0.61	22	緩斜	平坦	自然		不明	SK123→本跡
123	D 3 c0	N-22°-W	楕円形	1.10 × 0.94	18	緩斜	平坦	自然		不明	本跡→SK122

番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物		備考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸) (m)	深さ (cm)						
124	D 3 c9	N-21°-W	楕円形	1.06 × 0.72	22	緩斜	皿状	人為		不明	
125	D 3 b9	N-23°-W	長方形	0.50 × 0.44	30	外傾	平坦	人為		不明	
126	D 3 b9	N-71°-W	楕円形	0.88 × 0.73	19	緩斜	平坦	人為		不明	
127	D 4 a2	N-2°-W	楕円形	1.05 × 0.75	28	外傾	平坦	人為		不明	
128	D 3 b0	-	方形	0.59 × 0.59	25	外傾	平坦	人為		不明	
130	D 3 a9	N-2°-W	楕円形	2.36 × 0.55	22	外傾	平坦	人為		不明	
131	D 3 a9	-	隅丸方形	0.79 × 0.75	21	緩斜	皿状	人為		不明	
132	D 4 c5	N-45°-W	楕円形	0.83 × 0.71	8	緩斜	平坦	不明		不明	
134	D 3 a5	N-69°-W	楕円形	1.08 × 0.71	15	緩斜	平坦	自然	磔 1	不明	
139	C 3 j6	N-60°-W	楕円形	0.80 × 0.65	18	外傾	平坦	人為		不明	
141	D 3 a7	N-85°-E	楕円形	1.69 × 1.12	22	緩斜	平坦	人為	磔 1	不明	
143	D 3 a7	N-64°-W	楕円形	1.30 × 0.76	25	外傾	平坦	人為		不明	
144	D 3 a8	N-51°-W	楕円形	1.25 × 1.02	36	外傾	平坦	人為		不明	
148	C 3 i9	-	円形	0.63 × 0.63	23	緩斜	平坦	人為		不明	
157	C 3 i3	N-31°-E	楕円形	1.00 × 0.66	26	緩斜	皿状	人為		不明	
159	C 3 g4	N-6°-W	楕円形	1.17 × 0.51	6	緩斜	平坦	不明		不明	
160	C 3 j4	N-60°-E	楕円形	0.81 × 0.72	6	外傾	平坦	自然		不明	
163	C 3 g5	N-5°-W	楕円形	1.04 × 0.53	24	緩斜	皿状	人為		不明	
170	D 3 a0	N-45°-W	楕円形	1.20 × 1.02	54	外傾	平坦	人為		不明	SI 4 → 本跡
171	C 3 i0	-	円形	0.85 × 0.85	13	緩斜	平坦	自然		不明	SK172との新旧不明
173	C 3 i6	-	円形	0.72 × 0.72	25	外傾	平坦	人為		不明	
174	C 3 j7	N-11°-W	楕円形	0.61 × 0.55	36	外傾	皿状	人為		不明	
175	C 3 j8	N-28°-E	楕円形	1.24 × 0.63	73	緩斜	凹凸	人為		不明	
176	C 3 i7	N-66°-E	楕円形	1.28 × 0.75	21	緩斜	皿状	自然		不明	
177	C 3 j8	-	円形	0.71 × 0.71	37	緩斜	皿状	人為		不明	
181	C 3 h8	N-17°-E	長方形	1.37 × 1.10	38	外傾	平坦	人為		不明	SI 6 → 本跡
182	C 3 h7	N-14°-E	楕円形	1.53 × 0.81	35	不明	不明	不明		不明	SI 5 → 本跡
201	C 2 f7	N-63°-W	楕円形	1.20 × 0.65	59	緩斜	凹凸	人為		不明	
202	C 2 f7	N-63°-W	楕円形	1.20 × 0.65	59	緩斜	凹凸	人為		不明	
203	C 2 g7	N-55°-W	楕円形	1.40 × 1.03	37	直立	凹凸	人為		不明	
204	C 2 g9	N-90°	楕円形	0.92 × 0.74	24	緩斜	皿状	人為		不明	
205	C 2 f6	N-76°-E	楕円形	1.05 × 0.63	27	緩斜	皿状	人為		不明	
206	C 2 f7	N-77°-E	楕円形	1.02 × 0.80	20	緩斜	皿状	自然		不明	
208	C 2 g9	N-53°-E	楕円形	0.87 × 0.70	13	緩斜	平坦	人為		不明	SI12との新旧不明

(2) 溝



第73図 第5・6・8・9・10・11・12・13号溝実測図

第5号溝土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第6号溝土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量

第8号溝土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第9号溝土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第10号溝土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第11号溝土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第12号溝土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

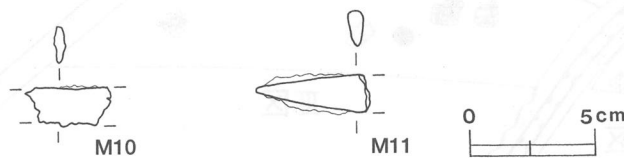
第13号溝土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量

表10 溝(時期不明)一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				断面形	壁面	覆土	出土遺物	時代	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)						
5	D 6j1・E 5a6	N-64°-E	直線	(5.60)	0.60~0.83	0.07~0.12	16~24	皿状	緩斜	人為		不明	SD6→本跡 SK55との新旧不明
6	D 6j1~E 5a6	N-64°-E	直線	(19.0)	0.75~1.32	0.46~0.74	4~23	皿状	緩斜	人為		不明	SK36・59・60→本跡→SD5, SK37・58・77 SK78との新旧不明
8	D 4a3~D 4b4	N-12°-W	直線	5.68	0.34~0.60	0.17~0.37	39	逆台形	外傾	人為		不明	
9	D 4d6~D 4d8	N-86°-E	直線	9.56	0.28~0.64	0.06~0.38	5~10	逆台形	外傾	自然		不明	SK93→本跡
10	D 4b6~D 4c5	N-76°-E	直線	4.63	0.36~0.45	0.22~0.27	8	逆台形	外傾	自然		不明	
11	C 3i3~C 4j1	N-85°-W	直線	(21.2)	0.54~0.75	0.20~0.40	5~15	皿状	緩斜	人為		不明	SD12・13→本跡
12	C 3j0~C 4i1	N-84°-E	直線	(4.00)	0.26	0.24	14	皿状	緩斜	自然		不明	本跡→SD11
13	C 3f5~C 3j3	N-21°-E	直線	(17.5)	0.65~0.70	0.35~0.50	12~20	皿状	緩斜	人為		不明	本跡→SD11

(3) 遺構外出土遺物



第74図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物(時期不明)観察表(第74図)

番号	器種	計測値				特徴	出土地点	備考
		全長(cm)	背幅(cm)	刃幅(cm)	重量(g)			
M10	刀子	(3.3)	0.4	(1.6)	(3.0)	刀身部。	Ⅱ区表土	
M11	刀子	(4.5)	0.5	(1.5)	(7.1)	刀先部。	Ⅲ区表土	

第4節 ま と め

今回の調査で、石畑遺跡は縄文時代の集落跡であること、中世から近世にかけての集落跡・墓域であることが確認できた。ここでは縄文時代の集落変遷と中世の方形竪穴遺構について、概要を述べ、まとめとしたい。

1 縄文時代の集落変遷 (第75・76図)

① 石畑遺跡の集落の移り変わり

石畑遺跡の発掘調査では、昭和51・52年の前回調査と合わせ、縄文時代前期から晩期まで、長い年月にわたって集落が営まれていたことが判明した。出土遺物の時代幅は、ほぼ前回調査と同じく、縄文時代早期末から晩期に至っているが、検出した住居跡の時代については若干異なる傾向がみられる。また今回の調査で北側に黒色土の谷頭部を確認した。遺構は検出されなかったが、前期の土器を中心に、後期・晩期の土器が出土している。前回調査で確認された谷頭部と合わせると、半島状のような旧地形が想定できる。

今回の調査では、前期前葉の住居跡が多く検出され、78%が前期前葉、22%が中期後葉から後期前葉に属する。出土した縄文土器片のほとんどが前期前葉と考えられ、中期の土器は少数であった。前回調査では、住居跡の42%が前期前葉、33%が後期前葉、17%が後期後葉、8%が晩期前葉であり、出土遺物は全体的に後期から晩期の土器の割合が多く、中期の土器はほとんど確認されていない。

前期の住居跡は、7軒が前葉で、形状不明な2軒を除いて、平面形は長方形・方形である。調査区は水田として利用されていたため、全体的に覆土が薄く、遺物も住居跡によって出土量に差がある。柱穴は、第10・11号住居跡を除いて多数確認している。特に、第5・6号住居跡においては、床面が同じ高さであること、



第75図 石畑遺跡の集落変遷

時期差があまりないことから、住居が再利用されている可能性が考えられる¹⁾。また、第1号住居跡は壁が残存していないが、主軸方向は北にあり、中央から炉付近にかけてピットが集中していることから、小規模の住居との重複・拡張が考えられる。前回調査でも、前期の住居は同時期における重複が多い傾向がみられることに注目したい。さらに奥東京湾内の縄文前期集落（埼玉県の県東地区）について、下総台地に形成された縄文前期の集落・貝塚は、大宮台地に比べると時期的に遅い傾向があり、同じ下総台地に位置する五霞町の前期遺跡も黒浜期にその数が最盛期を迎えることから、当遺跡もその流れの中で形成されたと考えられる。調査区全体でみると、前期の住居跡は谷頭部を北に臨んで、半島状地形の北側と南側に構築されている。

中期後葉から後期に属する住居跡2軒の形状は、径3～4mの円形である。前回の調査では、後期初頭の住居跡4軒のうち1軒を除いて、平面形は方形である。柱穴は壁沿いに位置し、第3号住居跡には出入り口施設と思われるピットが確認された。後期末から晩期にかけての住居跡は確認されておらず、前回確認された住居跡との関連については不明である。集落の中心は、半島状地形の中央部に移行する傾向がみられる。

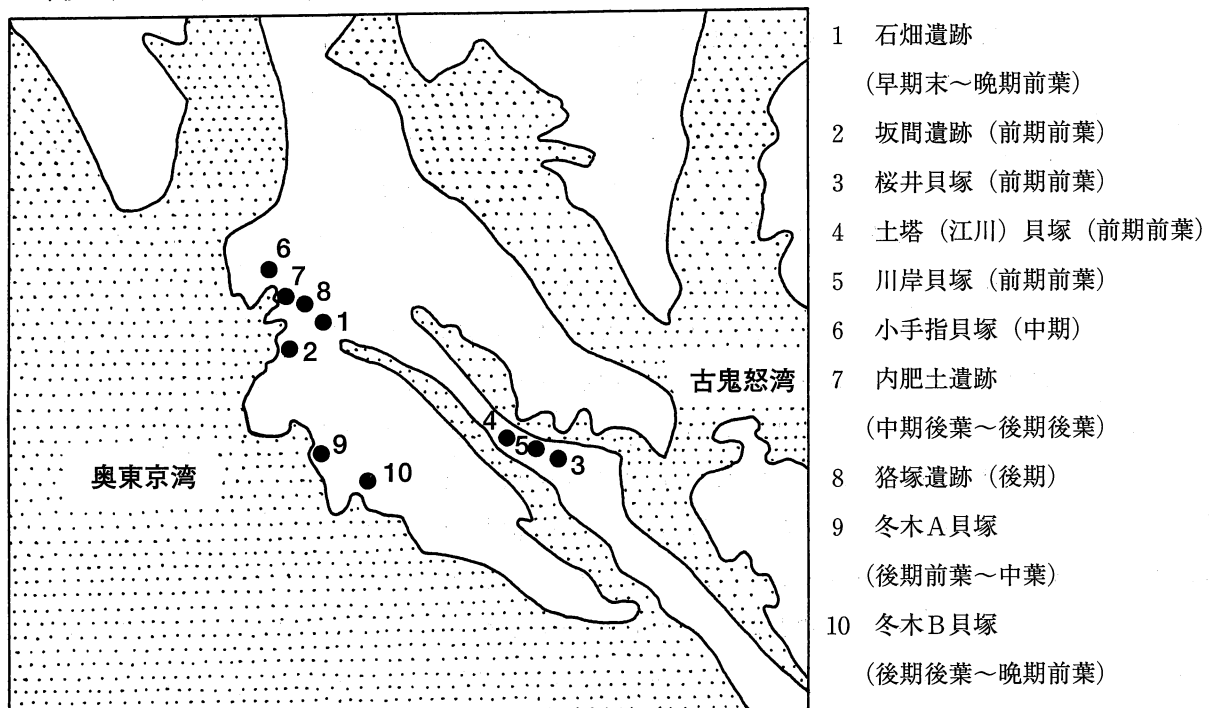
② 石畑遺跡と町内の縄文遺跡について

五霞町内には縄文時代の遺跡が多く存在し、本格的な発掘調査はあまり行われていないものの、古くから貝塚の存在は注目されてきた。これは、縄文海進（奥東京湾の海岸線）についての研究に伴って、貝塚の分布調査が行われたことに起因している²⁾。

主な遺跡の位置と縄文前期の海進時の海岸線をみると、奥東京湾に向かって北に前期から中期の貝塚が集中し、後期になると南に位置していることが分かる。これは、前期黒浜期に最も内陸まで及んだ海進が、中期になって海退に転じたことで、集落が海を追いかけて移行していったため、中期の小手指貝塚が衰退し、後期前葉に冬木A貝塚が栄え、後に冬木B貝塚へと集落の移動が行われていったと推測されている。なお、縄文中期の海面変化について、ボーリング調査から、江川貝塚付近の海が汽水湖へ変化したと指摘されている³⁾。

このような環境の変化に伴って、当遺跡の集落が中期にいったん衰退し、小手指貝塚など周辺の集落に移動したのち、後期から晩期にかけて再度集落が営まれたと考えられよう。

今後の調査・研究により、当遺跡の変遷と周辺遺跡の関わりについて、より解明されることを期待したい。



第76図 五霞町内の主な縄文遺跡 (金井忠夫氏の地図を修正)

2 方形堅穴遺構について (表11, 第77図)

中世の集落については、平安時代から竈を持つ堅穴住居跡が次第に減少し、居住形態は掘立柱建物に移行していったと認識されることが多かった。しかし、近年、中世集落の居住形態として方形堅穴遺構や壁支建物が注目されている。飯村均は主体となる建物の形態から、中世集落を「掘立柱建物を主体とする集落」「方形堅穴を主体とする集落」「壁支建物を主体とする集落」の3類型に分類している⁴⁾。特に、「方形堅穴を主体とする集落」については、東国特有の集落であり、溝や土塁で区画された中に、少数の掘立柱建物と方形堅穴遺構と井戸などで構成され、交通の結節点や宗教的な空間に隣接しているとする。

方形堅穴遺構⁵⁾は、広義的には「方形を基調とした堅穴の遺構」であるが、出土遺物が少なく、人為的に埋め戻されているなど、その特徴に共通点が多い反面、地域や時期によって形態の違いなどが若干認められることから、性格についても「住居」とする説や「倉」とする説、「工房」とする説などがある。ここでは、代表的な3遺跡(神奈川県由比ヶ浜中世集団墓地、茨城県の柴崎遺跡、栃木県の下古館遺跡)の方形堅穴遺構と当遺跡の方形堅穴遺構を比較検討することにする。

由比ヶ浜中世集団墓地は、道路による一定の区画の中に、方形堅穴遺構・墓壇・井戸・土坑などで構成され、600基以上(1995年当時)の方形堅穴遺構が確認されている。方形堅穴遺構は、13世紀第4四半期から14世紀後半にかけて、木組みから石組みへ変化する様相をみせている。斉木秀雄によると、5群に大別され、さらに10類型に分けられている。基本的に鎌倉幕府の倉と考えられているが、形態の違いから住居と考えられる方形堅穴遺構も存在する⁶⁾。

柴崎遺跡は、12世紀から13世紀の集落に方形堅穴遺構約90基が確認されている。これらの方形堅穴遺構は、4群に大別され、さらに6類型に分けられている⁷⁾。3時期程度の変遷の跡がみられ、2か所の柱穴・出入口・ひ処(囲い炉)を有するものが中心で、住居と考えられている。

下古館遺跡は、125基の方形堅穴遺構が確認され、集落の中に街道を取り込み、御堂や墳墓などの宗教的な空間を伴っている。時期は14世紀後半と考えられ、出入口の位置と柱穴により、11群に大別され、さらに23類型に分けられている⁸⁾。土間と床面の空間利用の違い、形態の違いなどから性格・用途には多様性があると考えられ、相関関係が想定されるような遺構配置を示す群が認められている。当遺跡とは位置的に一番近い。

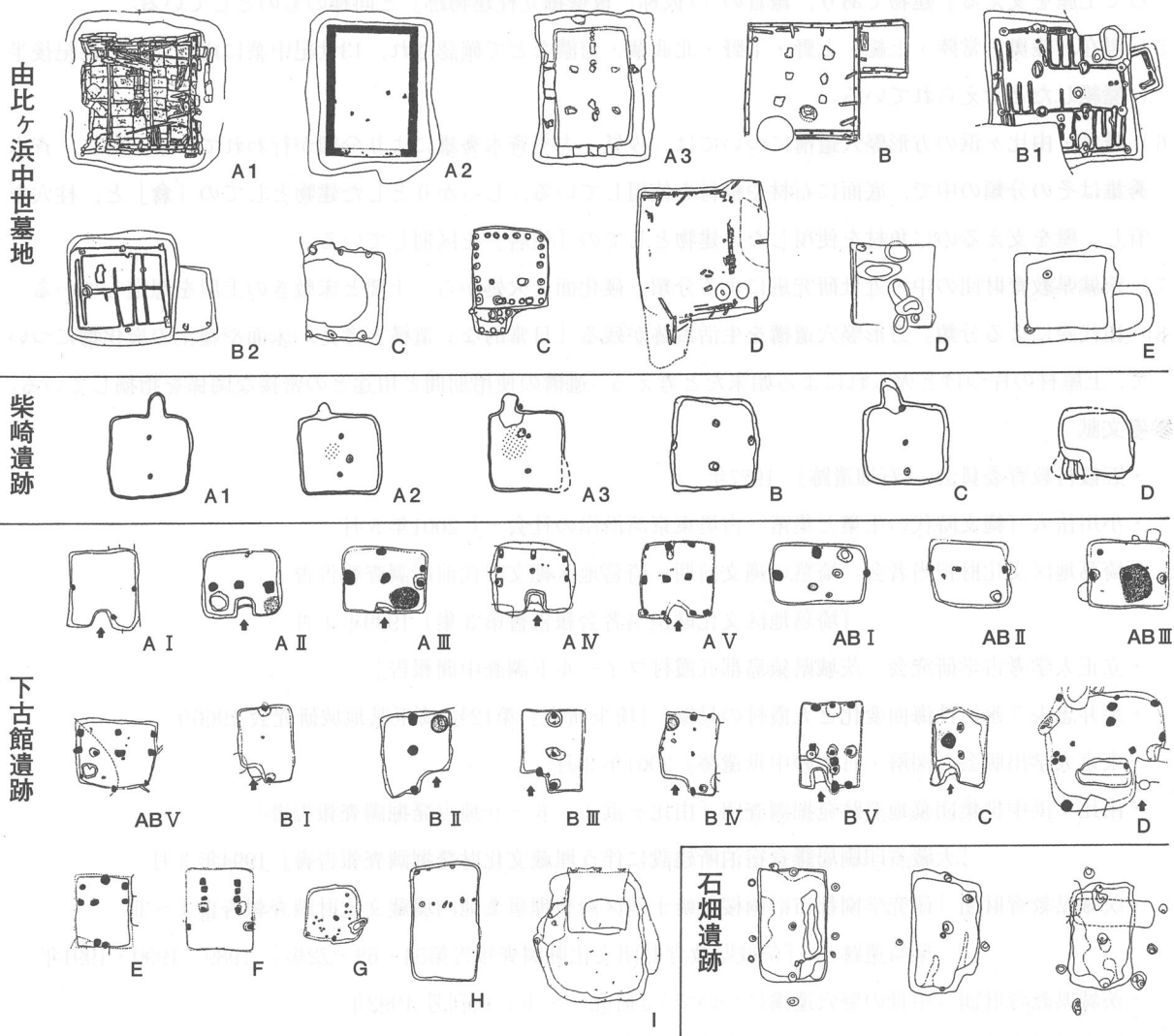
当遺跡では、平面形はすべて長方形(不整・隅丸を含む)で、出入口は71%で確認されている。柱穴はほとんど3か所で、遺構の周りにピットを伴うものが多い。炉状施設は確認されていないが、約30%に焼土が確認されている。硬化面は86%で確認され、その半分以上が全面硬化している。遺構の主軸は大きく2方向(南北と東西)に分かれている。出土遺物は、土師質土器、陶器常滑、硯、平瓦など、14世紀後半から15世紀後半にかけてのもので、いくつかの時期に分かれて構築されていたと考えられる。

これを3遺跡の分類に当てはめて考えると、由比ヶ浜中世集団墓地のC類、柴崎遺跡のC類、下古館遺跡のB類・AB類と類似していることが分かる。特に、下古館遺跡のBⅡ・BⅢ・ABⅡ類とほぼ同類である。ちなみに14基中、BⅡ類8基、BⅢ類2基、ABⅡ類2基、遺構の半分以上が調査区域外で、平面形が不明なもの2基である。(ただし、外周ピットについては当遺跡の特徴としてとらえた。)また、3遺跡と大きく異なる点は、バリエーションがないことである。3遺跡の分類は同一観点で分類されているわけではないが、当遺跡の方形堅穴遺構は3遺跡の分類の中でもそれぞれ1つのタイプにしか当てはまらない点が注目される。

このことから、当遺跡の方形堅穴遺構は、下古館遺跡とのつながりを強く感じる一方、下古館遺跡の集落よりも、限定された集落と考えることができる。集団としての生活の場所で、効率的・機能的に遺構が配置されており、住居の可能性が考えられるが、特定の職人層・身分層の仕事の場、「工房」の可能性も否定できない。

表11 方形竪穴遺構の比較

項目	遺跡	石畑遺跡	由比ヶ浜中世集団墓地	柴崎遺跡	下古館遺跡
形状		長方形	長方形・方形	方形	長方形・方形
出入口		張り出し・階段状	スロープ状・階段状	スロープ状	張り出し・階段状・スロープ
柱穴		86%が支柱穴3か所	6か所・壁直下に柱穴などさまざま	83%が支柱穴2か所	86%で柱穴(32%が2・3か所)
炉状施設		確認なし	確認なし	約14%に火処	14%で確認
床面		86%が硬化(内50%全面)	木材・石材・土間	半面硬化	硬化面なし
主な出土遺物		土師質土器(播鉢)・常滑(甕・片口鉢)・硯・平瓦	土師質土器, 瀬戸灰釉折縁鉢, 灰釉碗	土師質土器(小皿)・常滑(壺)・青磁(碗)・渡来銭・鉄鎌	土師質土器, 陶器, 産地不明土器(火鉢)
その他の特徴		外周ピットを持つ	「倉」と「住居」	小規模, 「住居」	主軸方向は道路に関係



第77図 方形竪穴遺構の分類

註

- 1) 小川岳人は、縄文前期によくみられる住居の再利用について、「拡張・立て直し」行為を、「反復」という言葉で総括し、規模的・時間的・効率的な視点から、前期の奥東京湾周辺集落について論じている。
- 2) 五霞町の貝塚では、戦前（1933年）に史前学研究所（大山柏ら）の分布調査が行われ、江坂輝弥の論文（1954年）や和島誠一らの研究（1968年）に取り上げられている。また、埼玉県立不動岡高校の社会クラブ（金井忠夫）による発掘（1962～1965年）、立正大学考古学研究会によるフィールド調査（1969・1970・1973年）が実施されている。
- 3) 和島誠一らは「関東平野に於ける縄文海進の最高水準について」（1968年）の中で、茨城県五霞町・神栖町、埼玉県入間郡、神奈川県横浜市などのボーリング調査を行い、珪藻化石分析の結果、海成層頂面高度は0～3.5mであることを立証し、海面10m説を否定した。
- 4) 「掘立柱建物を主体とする集落」については、「掘立柱建物の母屋、付属屋、倉庫、工房、井戸などに方形堅穴の倉庫・工房が伴う」集落で、階級の差によって規模に違いがあり、畿内と東国では同様であるとする。「壁支建物を主体とする集落」については、14世紀初頭の例として、新潟県馬場屋敷遺跡下層遺構があげられている。また、「壁支建物」とは、「浅く堅穴に掘り込んだ地中から板壁を立ち上げていく構造で、壁によって上屋を支える」建物であり、鎌倉の「(仮称)板壁掘立柱建物跡」と同様のものとしている。
- 5) 現在、陸奥・常陸・上総・上野・下野・北武蔵・信濃などで確認され、13世紀中葉に成立し、15世紀後半に廃絶したと考えられている。
- 6) 鎌倉・由比ヶ浜の方形堅穴遺構については、汐見一夫や斉木秀雄により分類が行われている。特に、斉木秀雄はその分類の中で、底面に石材や板材を使用している、しっかりとした建物としての「倉」と、柱穴を有し、壁を支えるのに角材を使用しない建物としての「住居」を区別している。
- 7) 茨城県教育財団の中・近世研究班による分類。硬化面と火処から、土間と床敷きの上屋を想定している。
- 8) 田代隆による分類。方形堅穴遺構を生活痕跡が残る「日常的な」遺構と考え、床面や覆土の炭化物について、上屋根材の片づけと火入れによる始末だと考える。遺構の使用期間と用途との密接な関係を指摘している。

参考文献

- ・五霞村教育委員会 『石畑遺跡』 1977年
- ・小川岳人『縄文時代の生業と集落－古奥東京湾沿岸の社会－』2001年5月
- ・埼玉葛地区文化財担当者会「埼玉葛の縄文前期－埼玉葛地区縄文時代前期調査報告書－」
『埼玉葛地区文化財担当者会報告書第3集』1999年1月
- ・立正大学考古学研究会「茨城県猿島郡五霞村フィールド調査中間報告」
- ・金井忠夫「氷河性海面変化と五霞村の貝塚」『埼玉研究』第12号 埼玉県地域研究会 1966年
- ・東京大学出版会『図解・日本の中世遺跡』2001年3月
- ・由比ヶ浜中世集団墓地遺跡発掘調査団「由比ヶ浜4－6－9地点発掘調査報告書」
『大蔵省印刷局鎌倉宿泊所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』1994年3月
- ・茨城県教育財団「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ～Ⅲ
柴崎遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第54・63・72集』1989・1990・1991年
- ・茨城県教育財団「中世の堅穴遺構について」『研究ノート』創刊号 1992年
- ・栃木県教育委員会（財）栃木県文化振興事業団「下古館遺跡」『－住宅・都市整備公団小山・栃木都市計画事業自治医科大学周辺地区埋蔵文化財発掘調査－』1995年3月

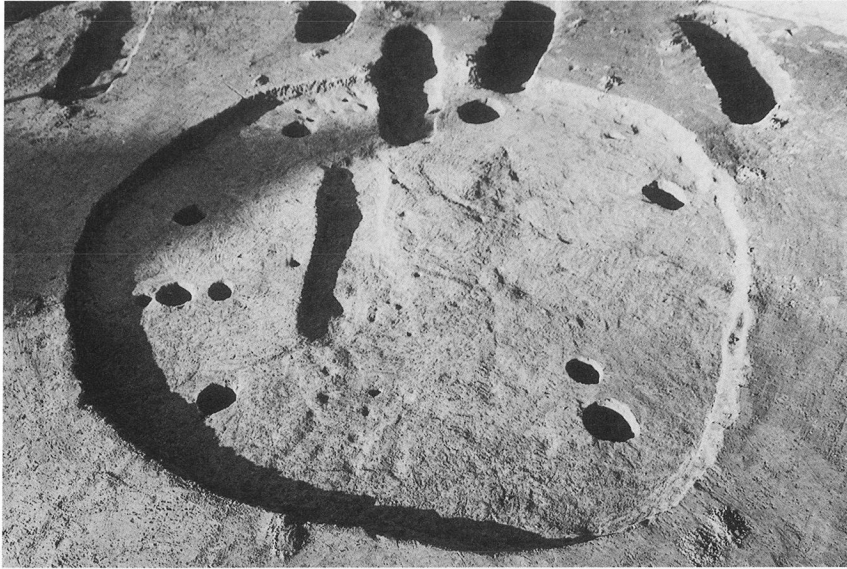
写真図版



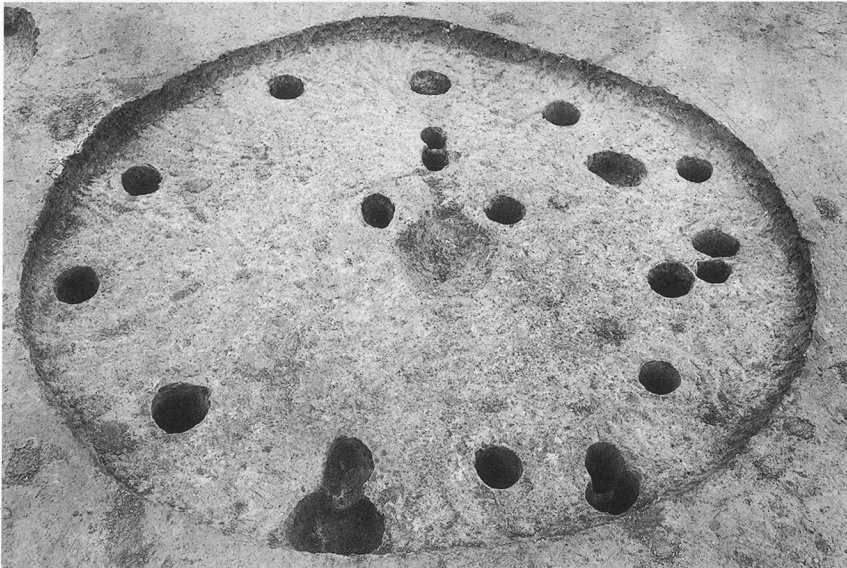


調査Ⅱ・Ⅲ区全景，調査Ⅳ区全景

PL2



第 2 号住居跡
第162~167号土坑

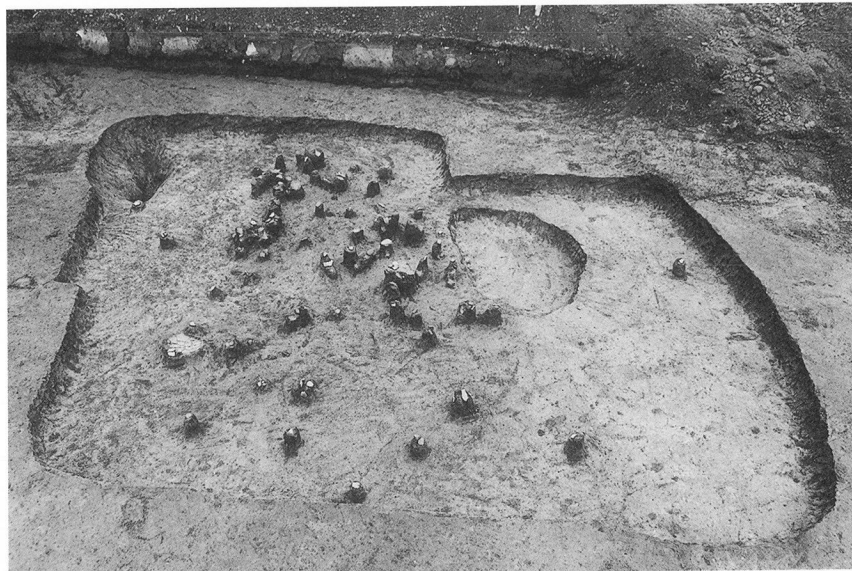


第 3 号住居跡



第 4 号住居跡
第170号土坑

第5・6号住居跡
遺物出土状況
第181・182号土坑



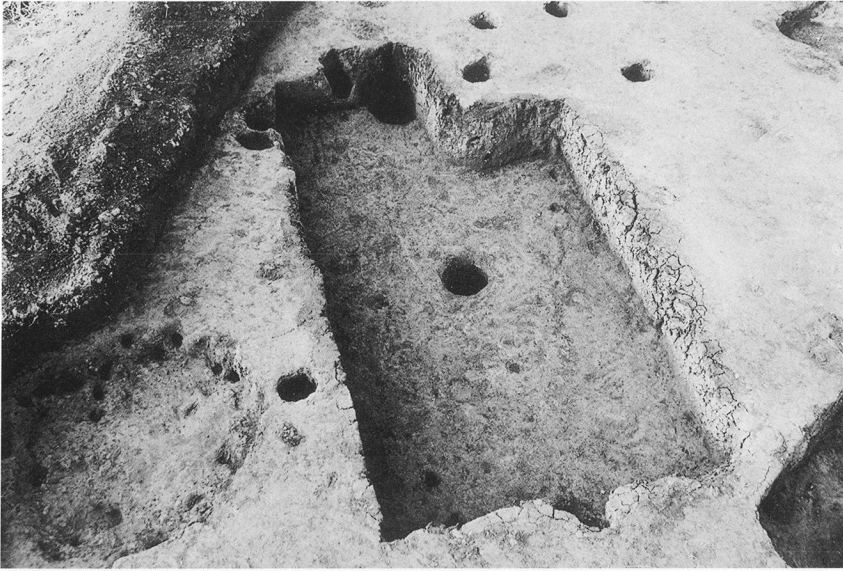
第10・12号住居跡
第204・208号土坑



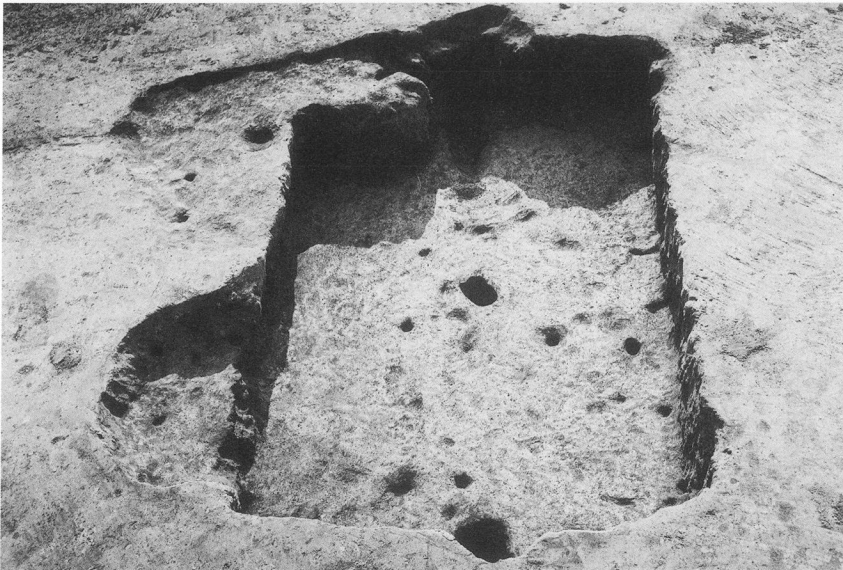
第11号住居跡



PL4



第2号方形竖穴遺構
第8号土坑



第3号方形竖穴遺構
第29・31号土坑



第4号方形竖穴遺構
遺物出土狀況
第5号方形竖穴遺構

第6・7号方形竖穴遺構
第1号井戸跡
第41B・42A・42B土坑



第13号方形竖穴遺構
遺物出土状況



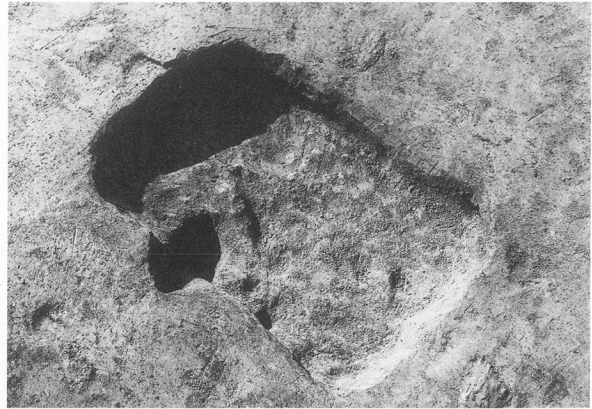
第14号方形竖穴遺構
遺物出土状況



PL6



第67号土坑



第1号火葬墓



第106号土坑



第24号土坑



第180号土坑



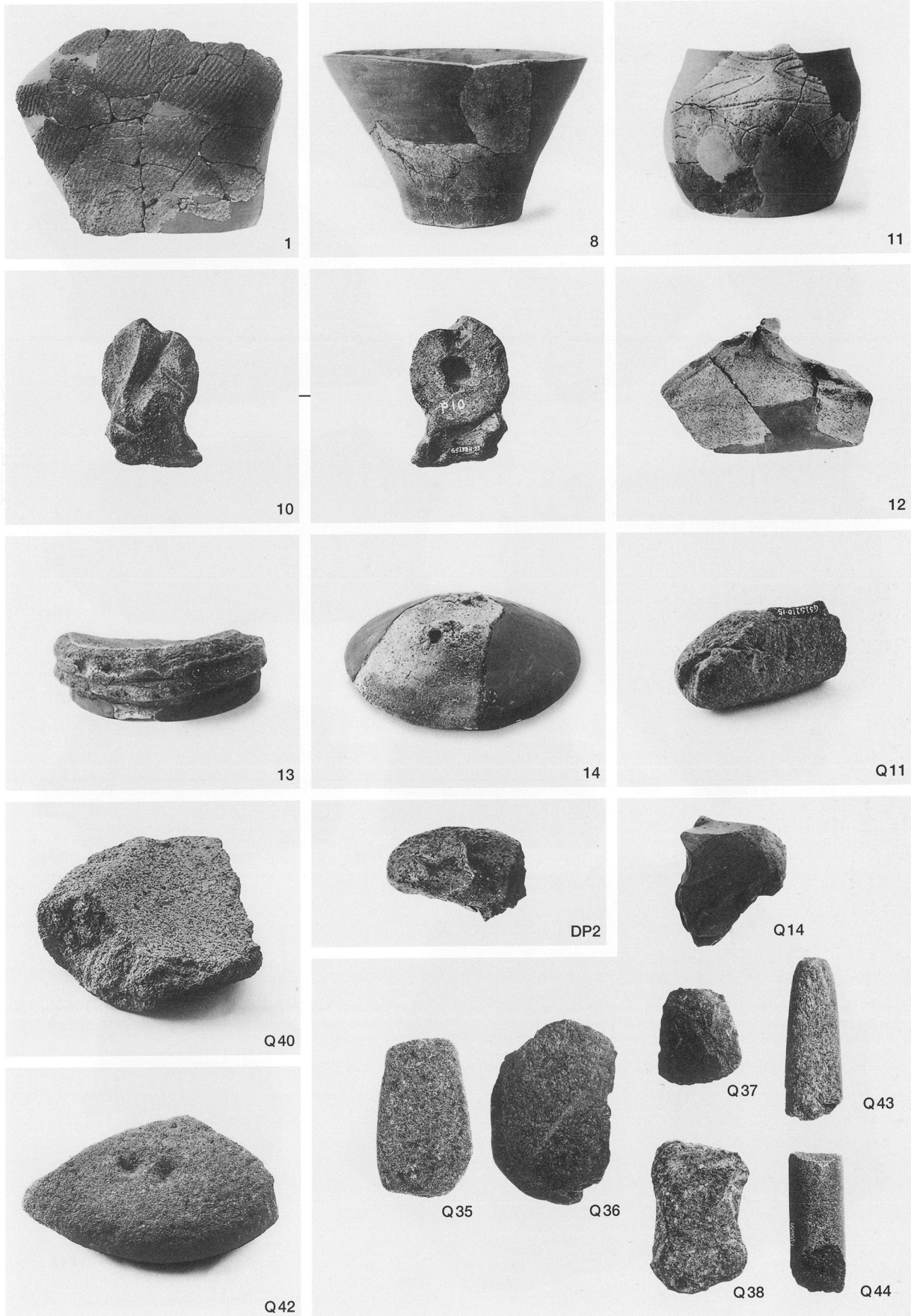
第133~138号土坑



第207号土坑

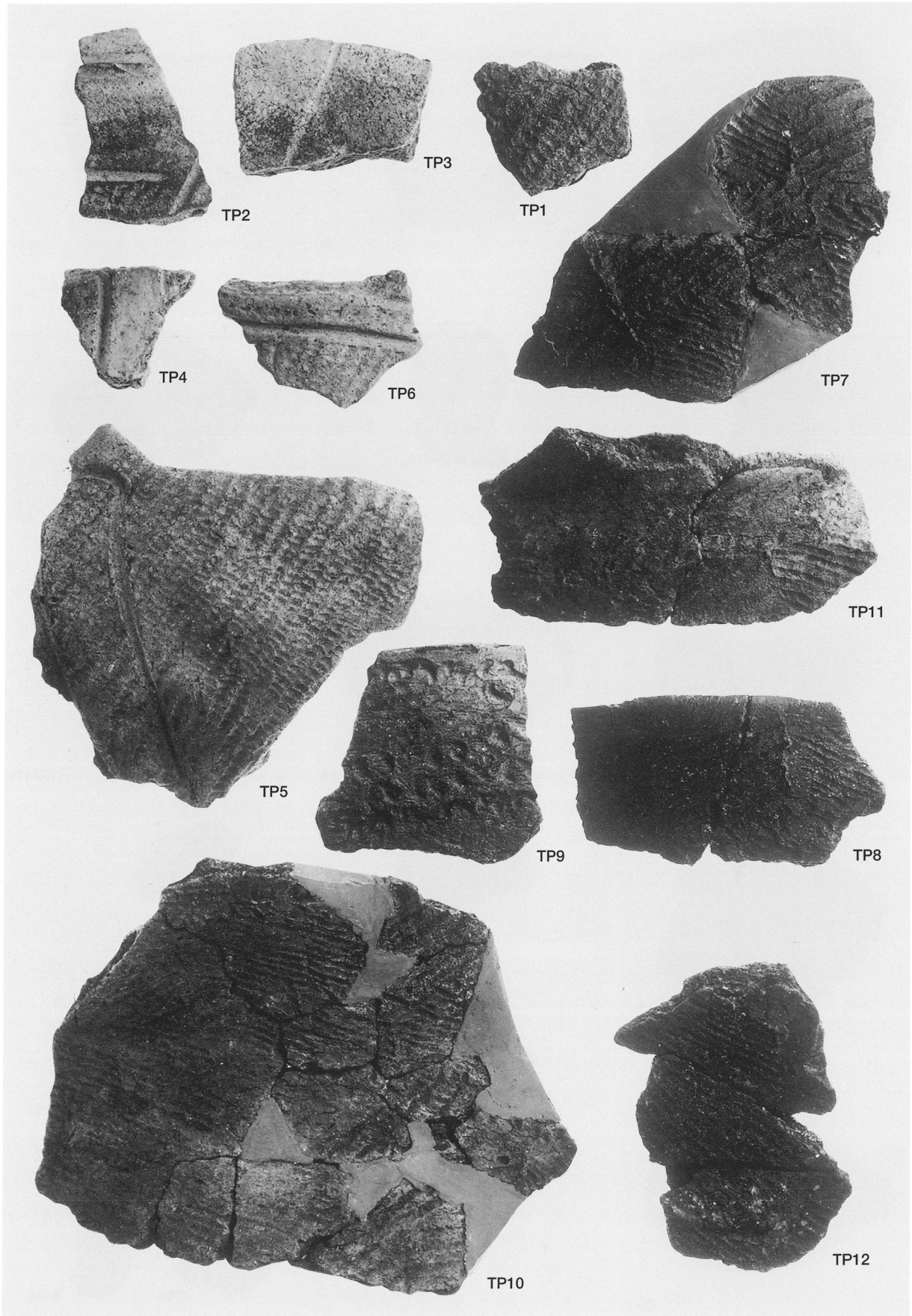


第14号土坑, 第1·2号沟

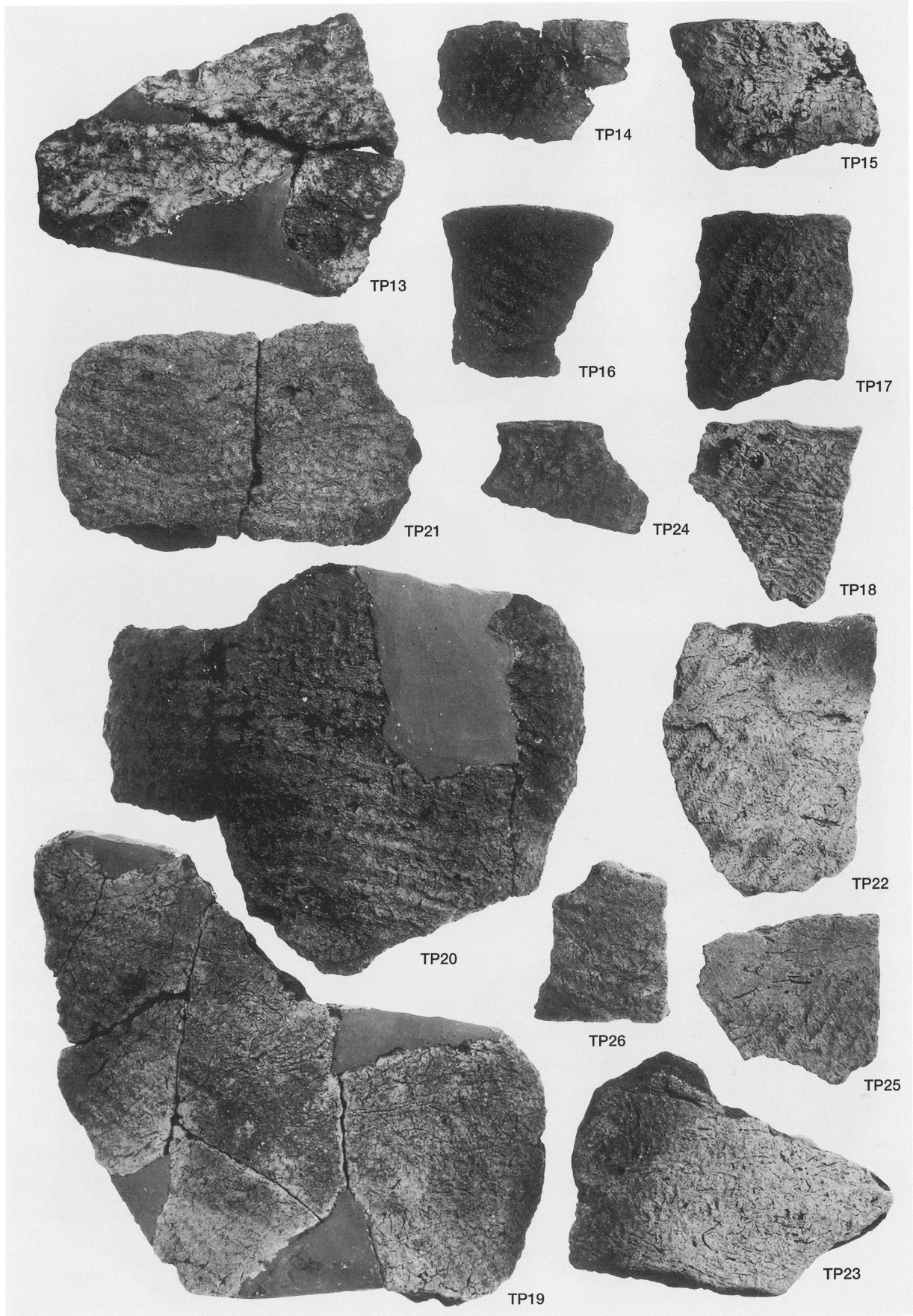


第5号住居跡出土遺物，遺構外出土遺物（縄文時代），土製品・石器（旧石器・縄文時代）

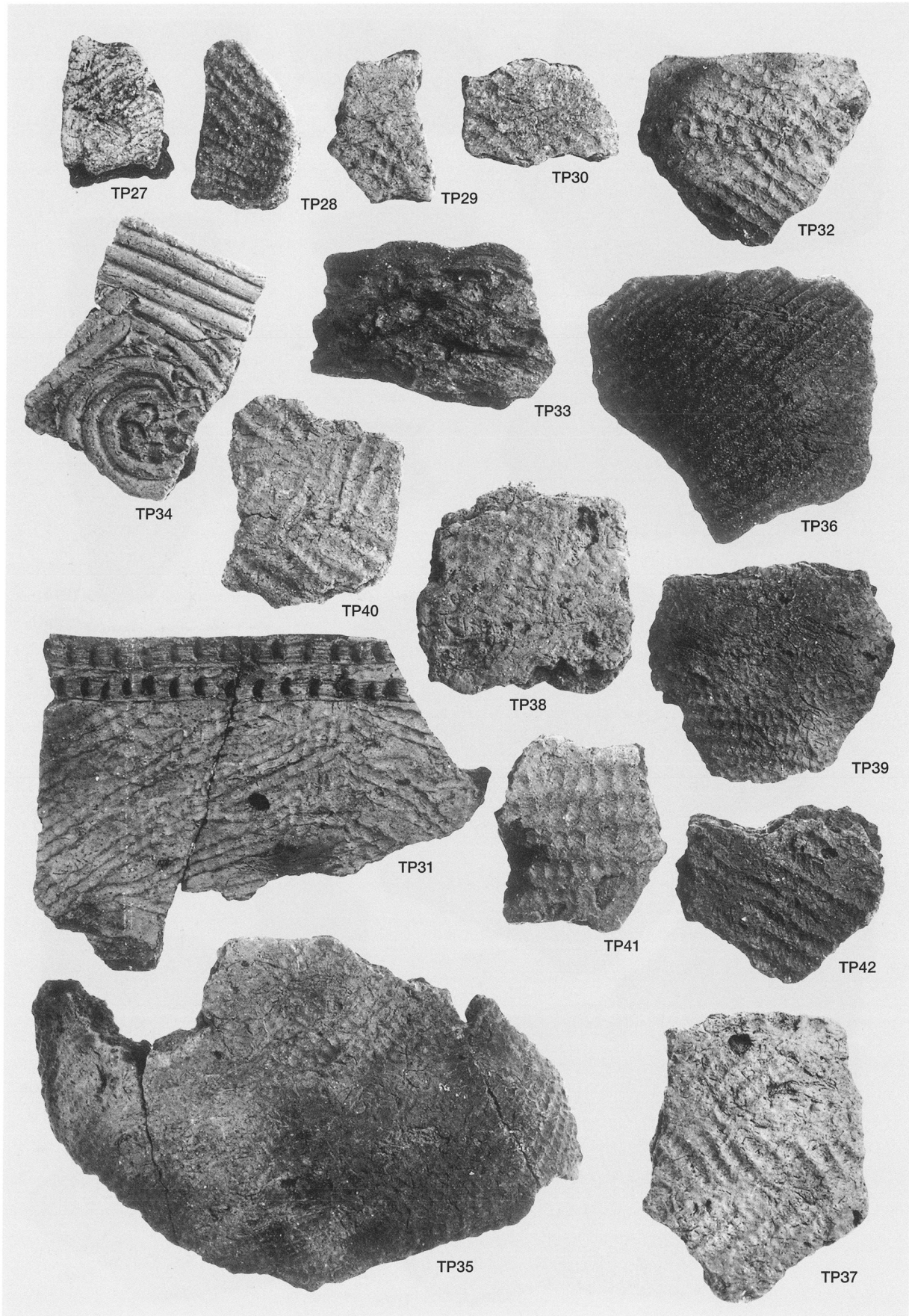
PL8

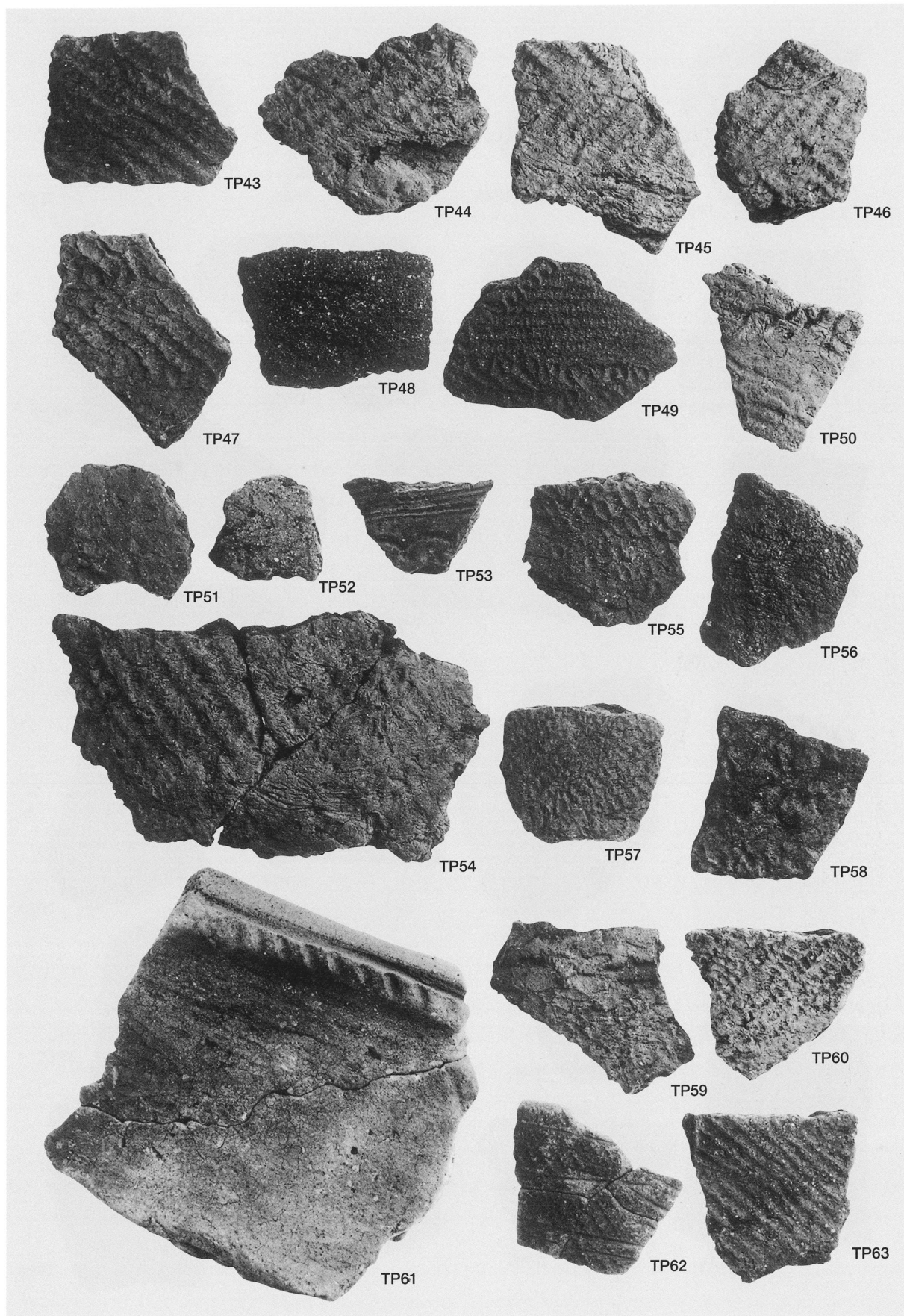


縄文土器 (1)

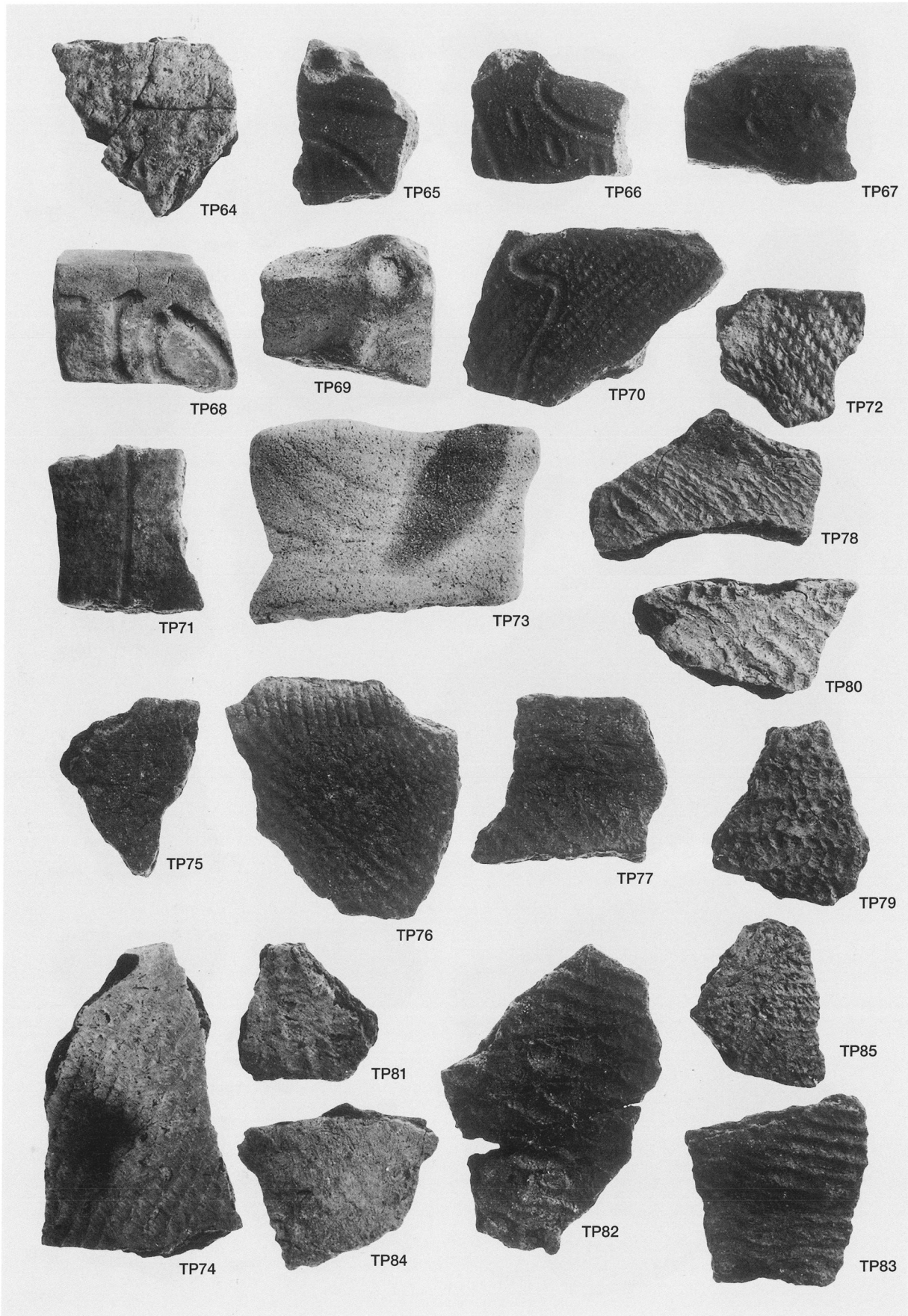


縄文土器 (2)

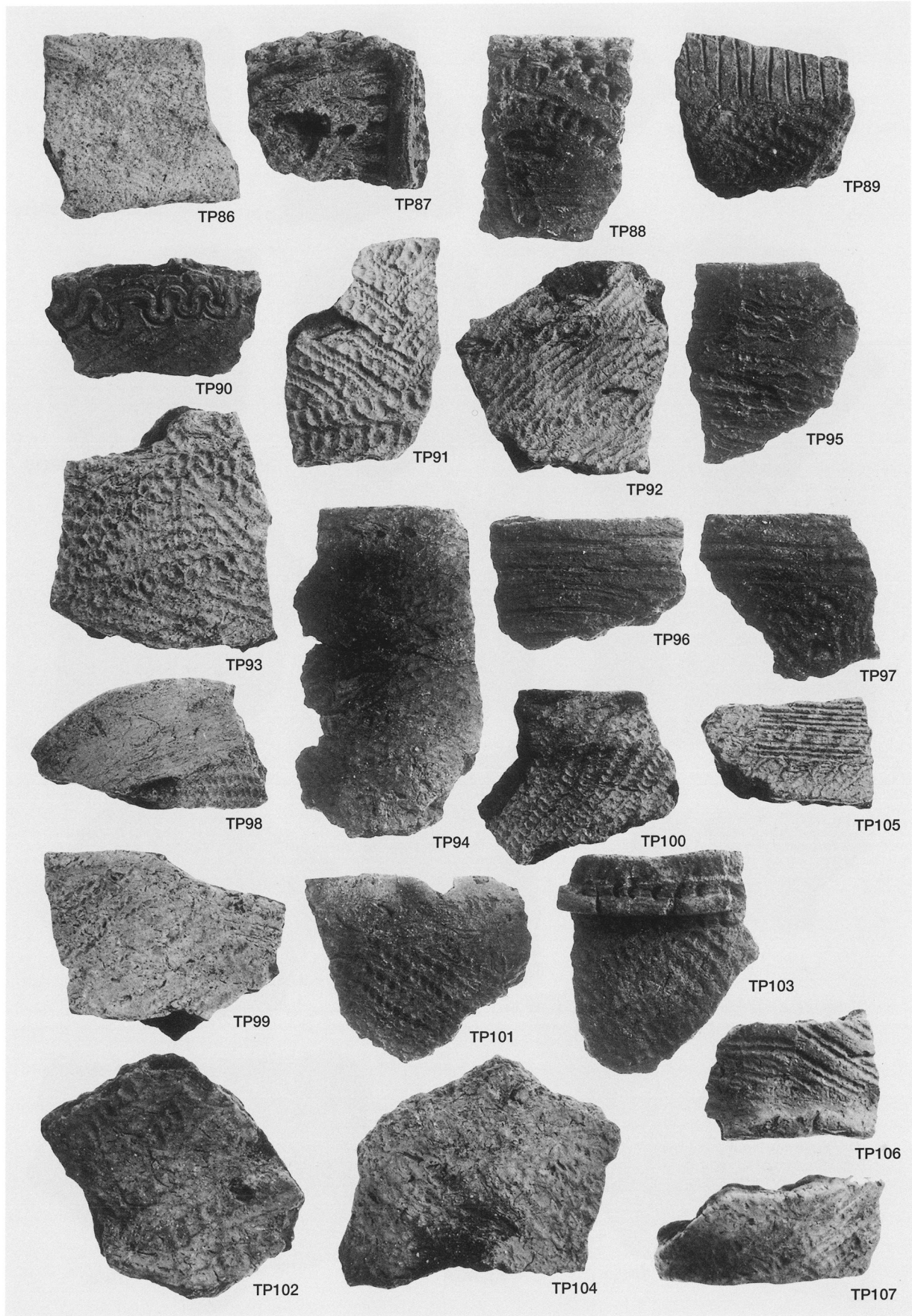




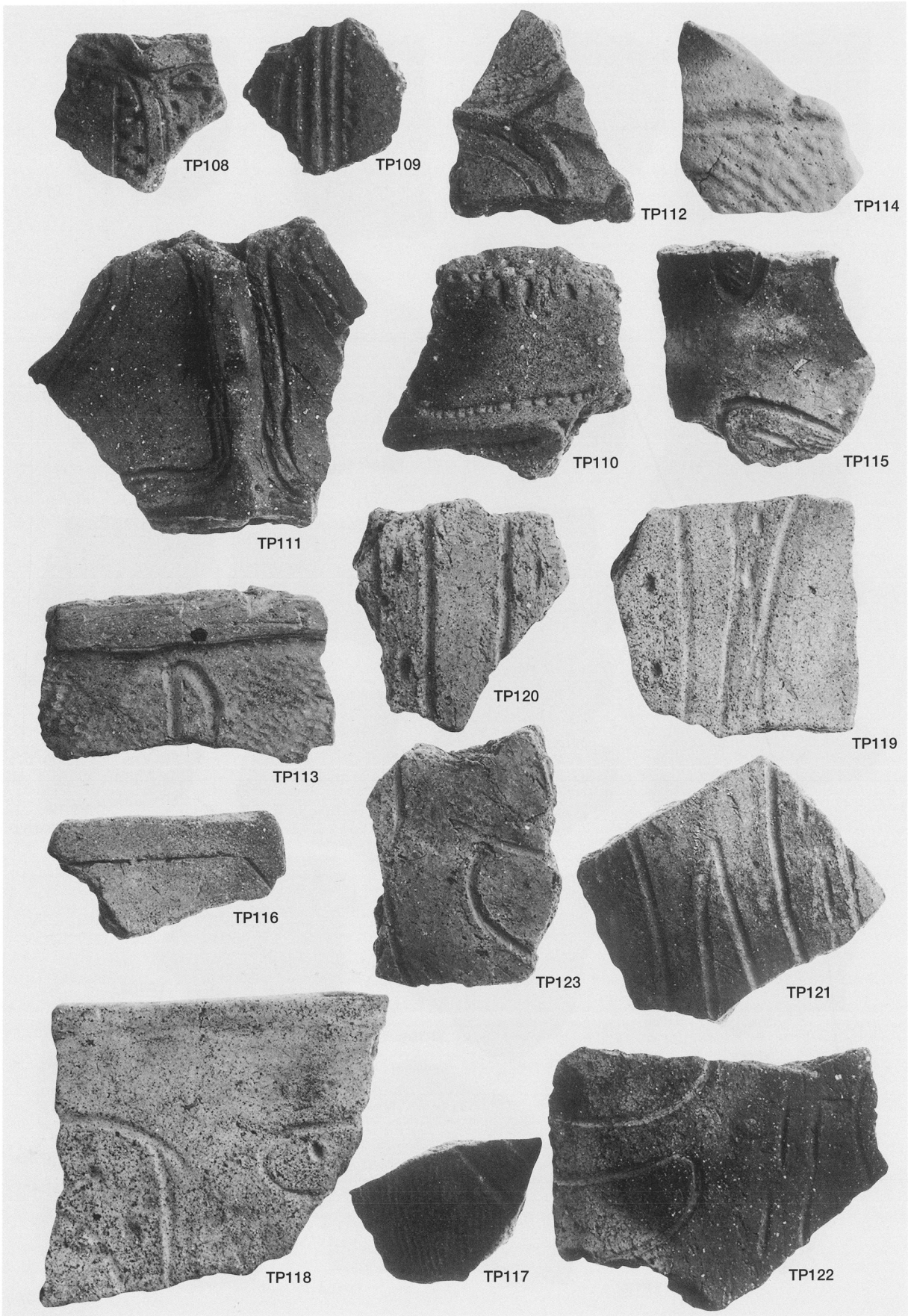
縄文土器 (4)



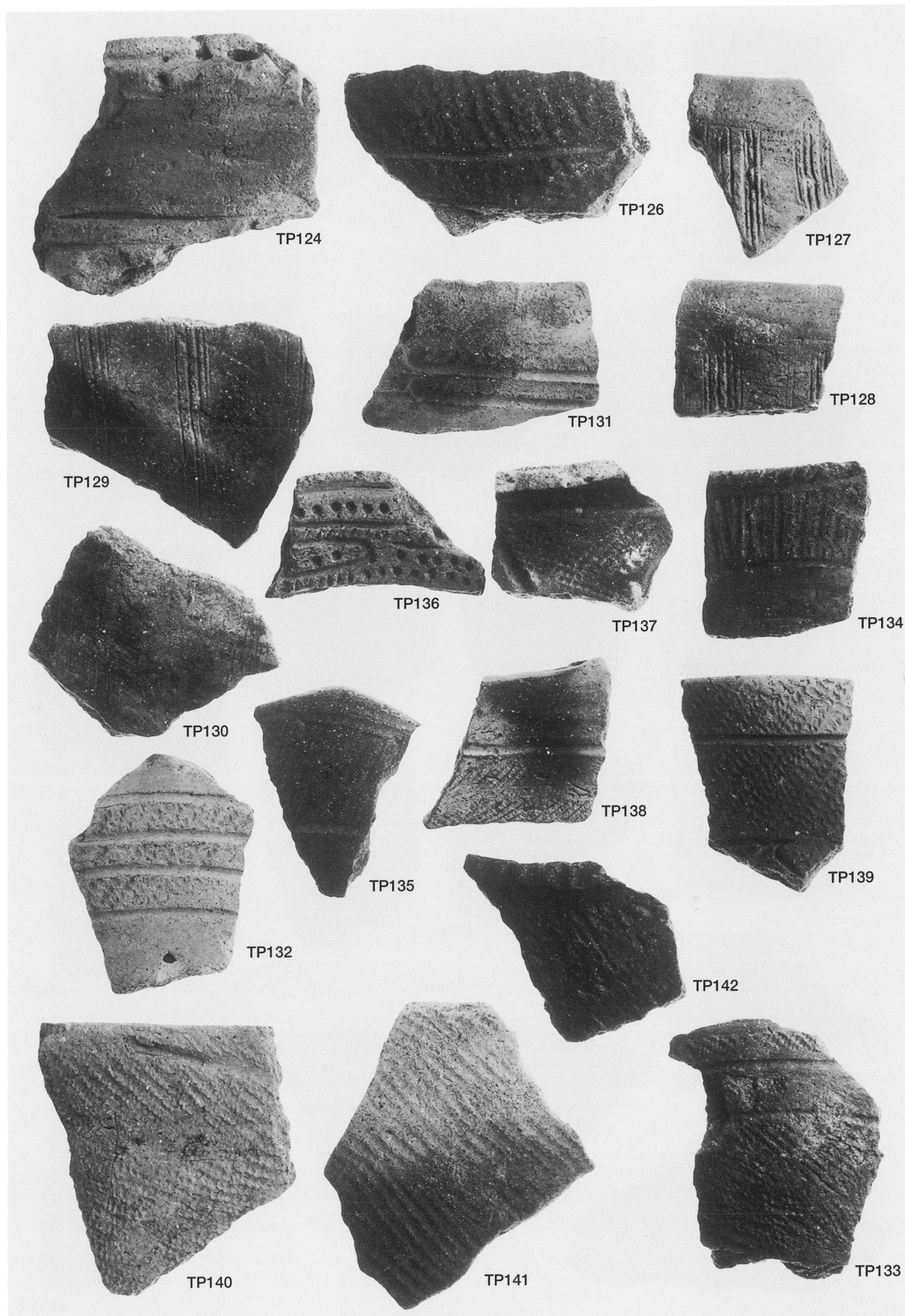
縄文土器 (5)



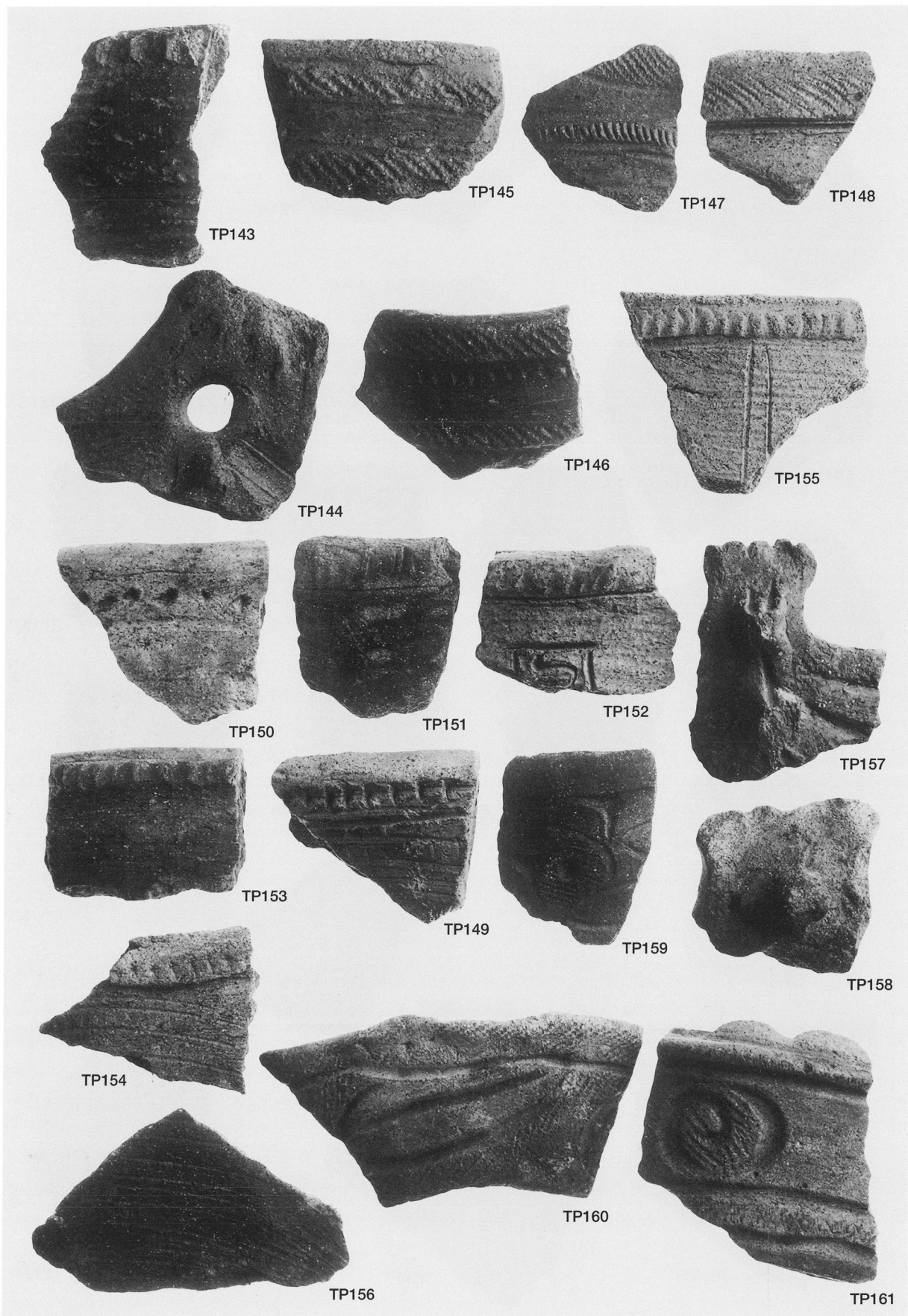
縄文土器 (6)

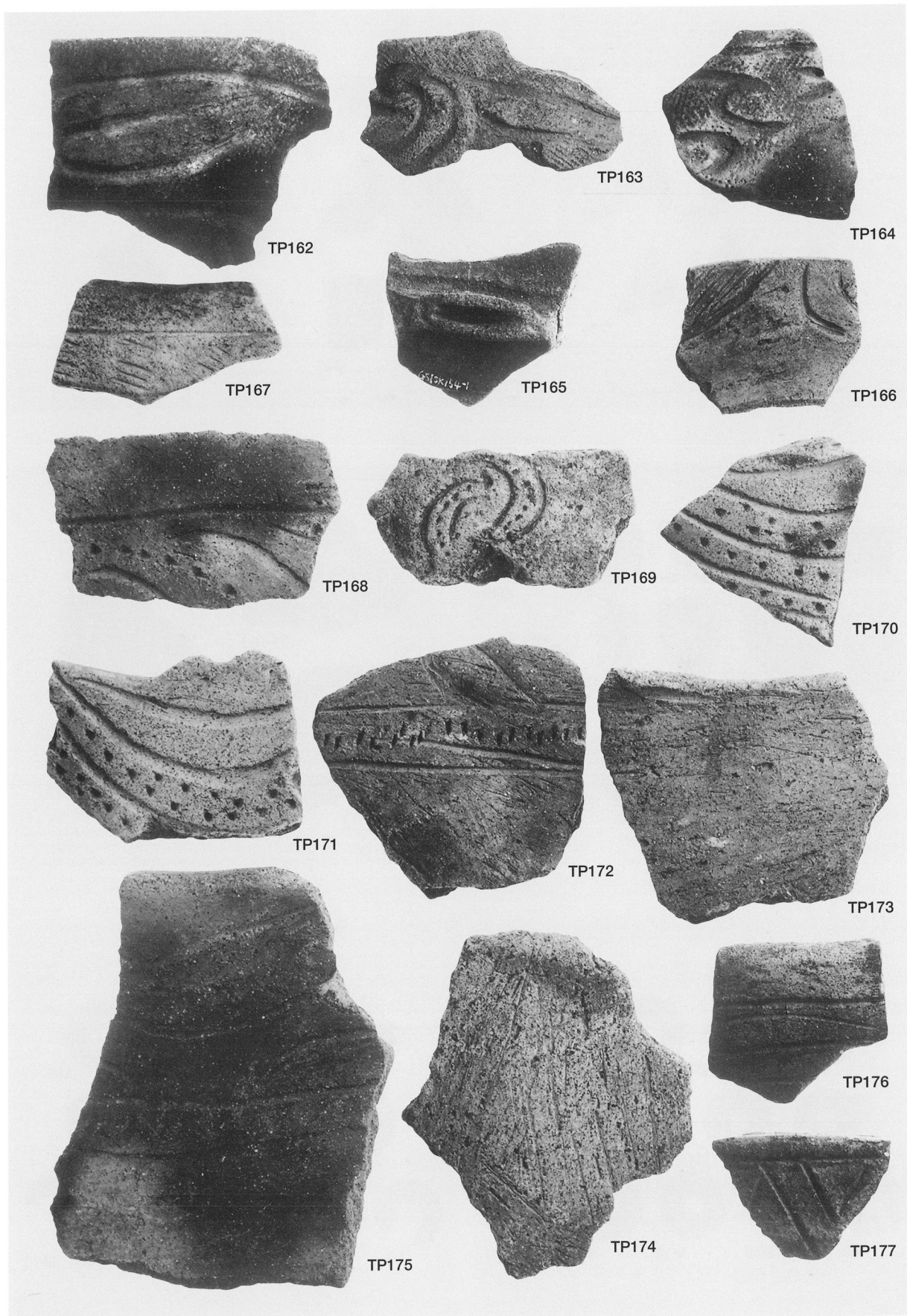


縄文土器(7)

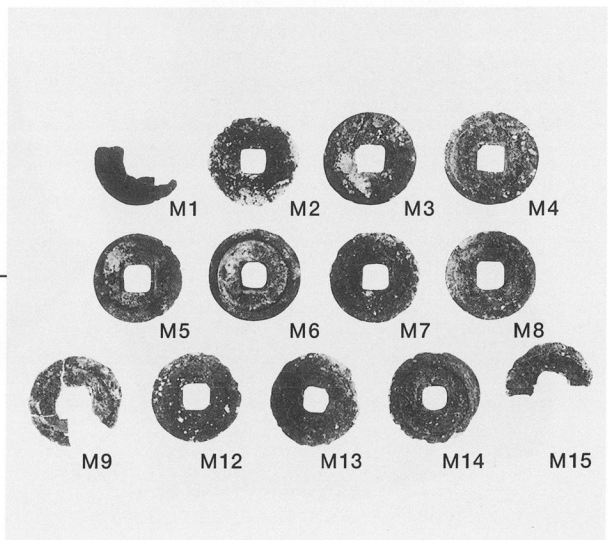
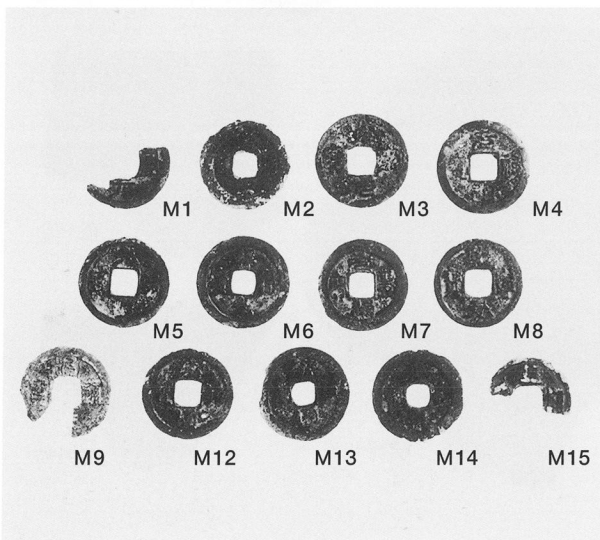
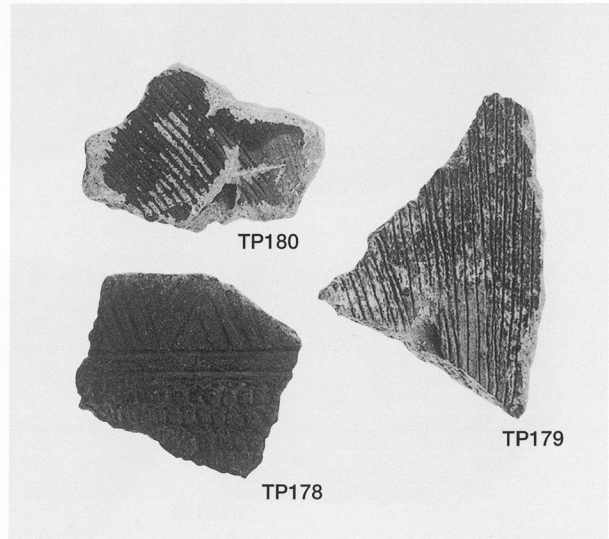
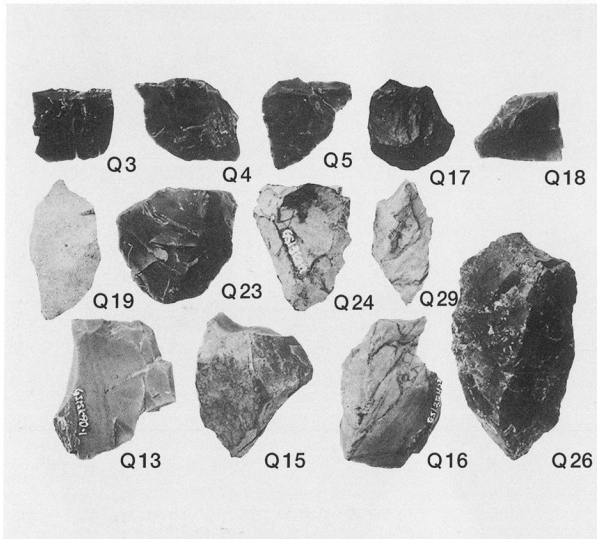
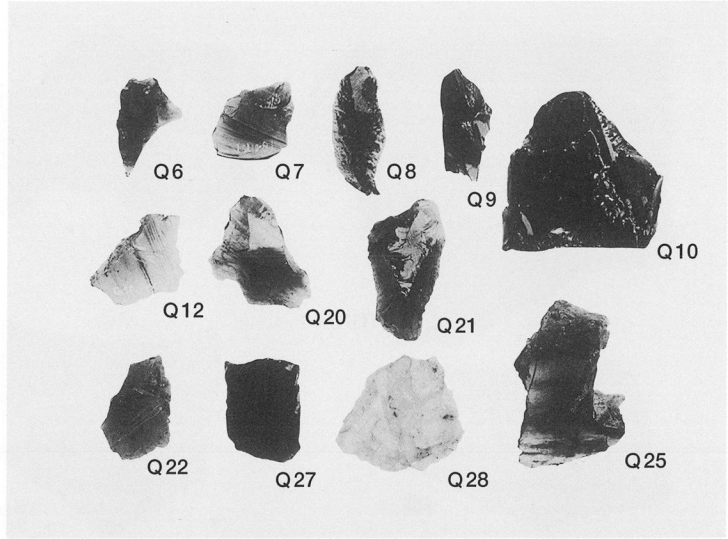
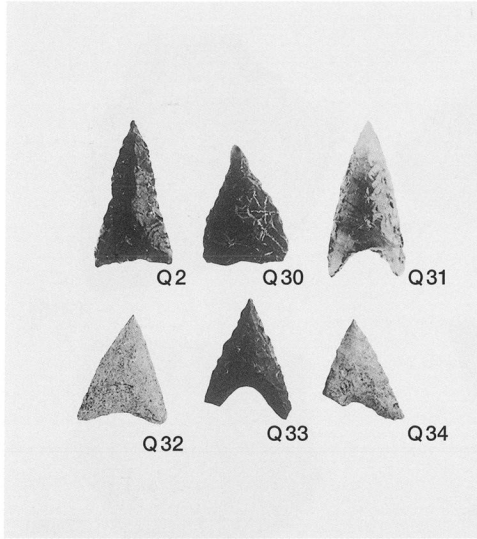


縄文土器 (8)

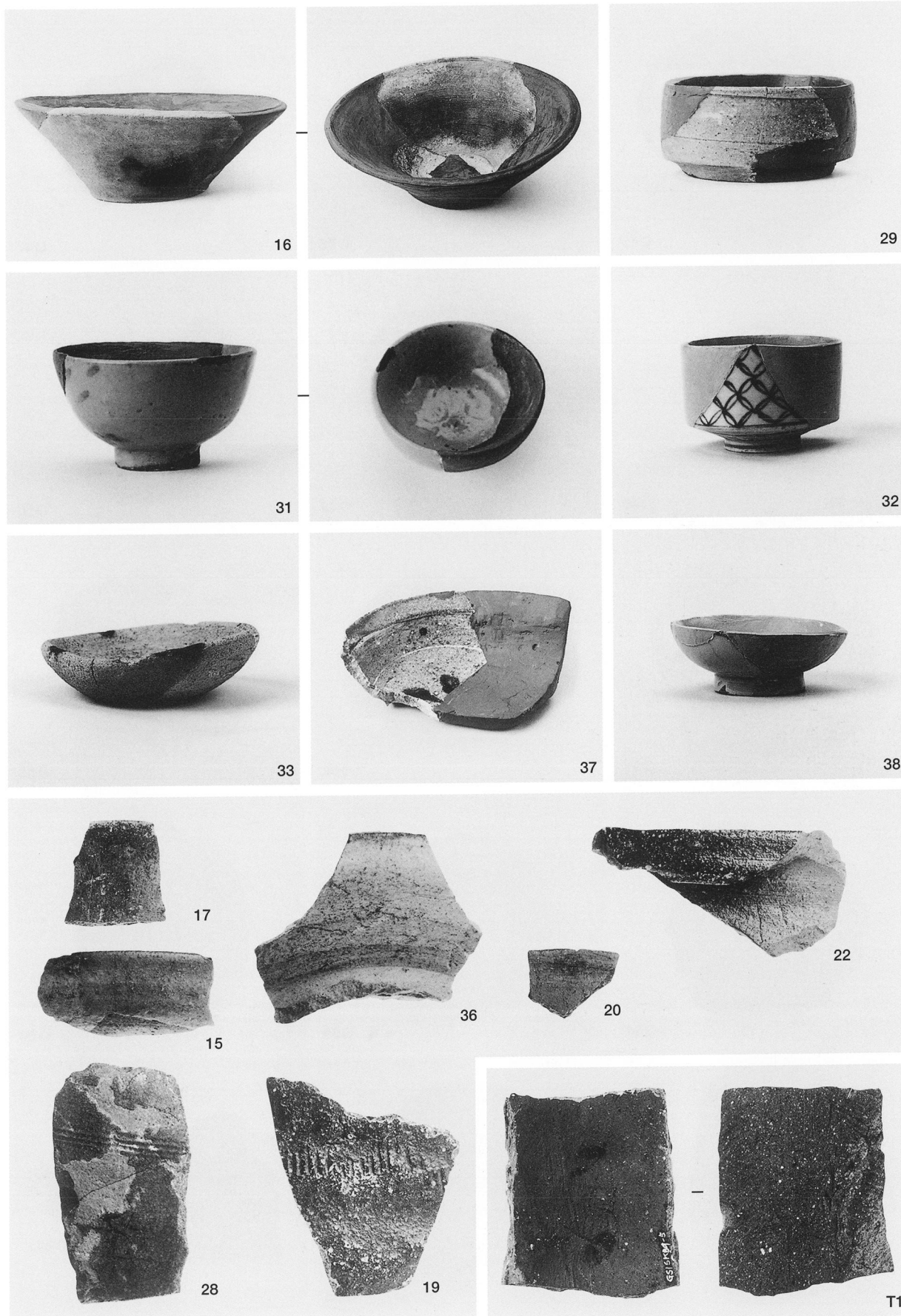




PL18

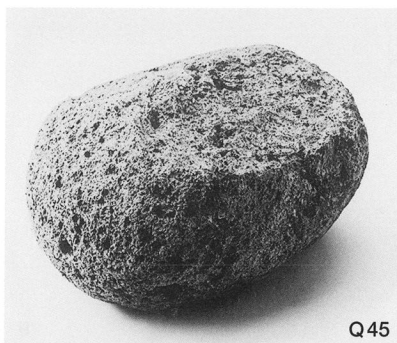


石器（縄文時代），土器（中・近世），金属製品（中世）

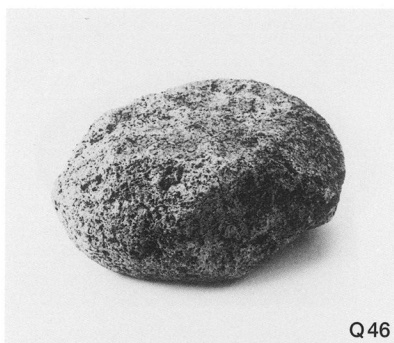


第4・6・10・13号方形竖穴遺構，第5号井戸跡，第26号土坑，第1号溝，遺構外出土遺物（中近世）

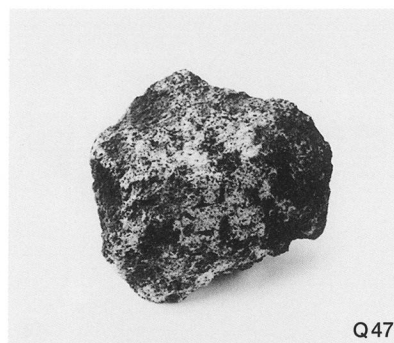
PL20



Q45



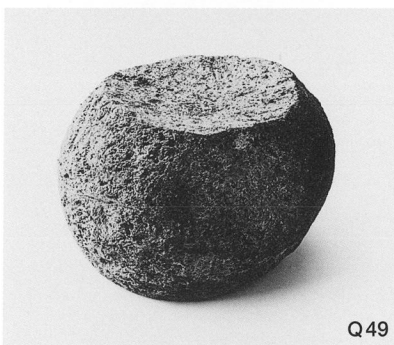
Q46



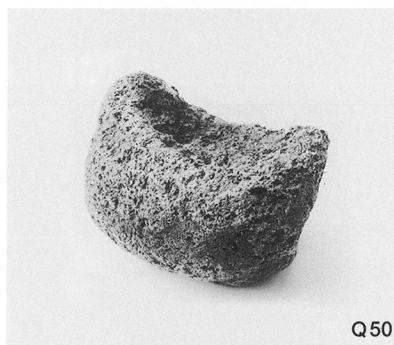
Q47



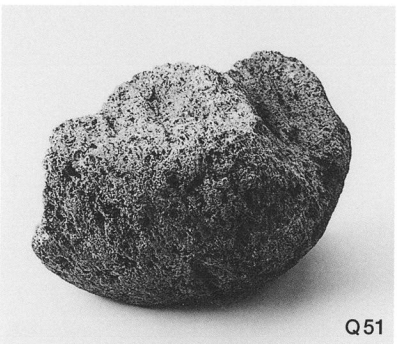
Q48



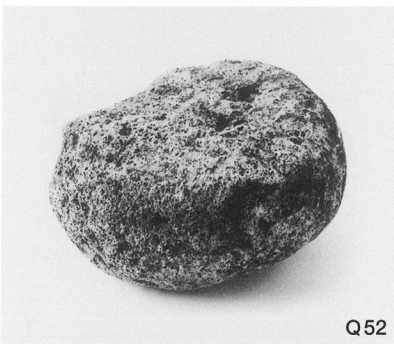
Q49



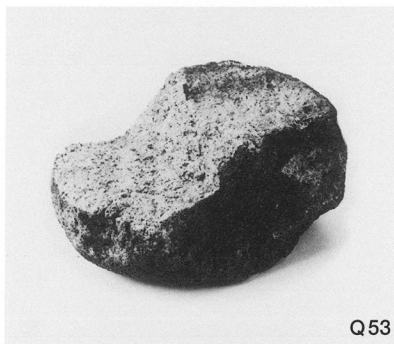
Q50



Q51



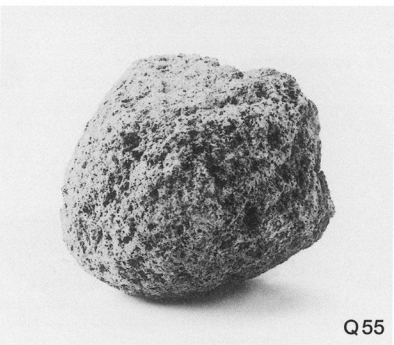
Q52



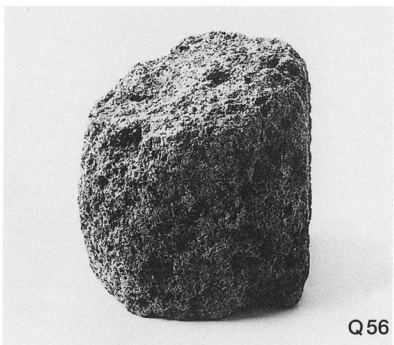
Q53



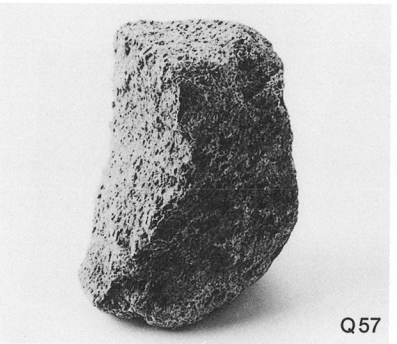
Q54



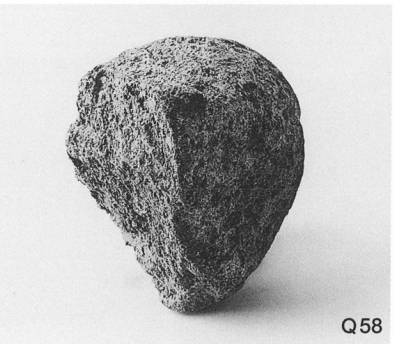
Q55



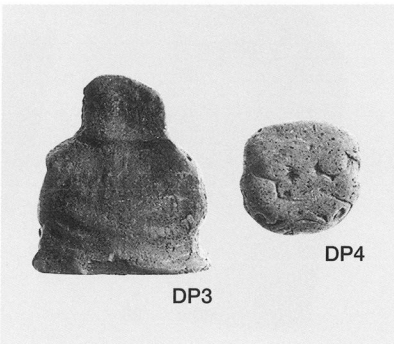
Q56



Q57



Q58



DP3

DP4

土製品・石器 (中・近世)

茨城県教育財団文化財調査報告第192集

石 畑 遺 跡

平成14年(2002)3月20日 印刷
平成14年(2002)3月25日 発行

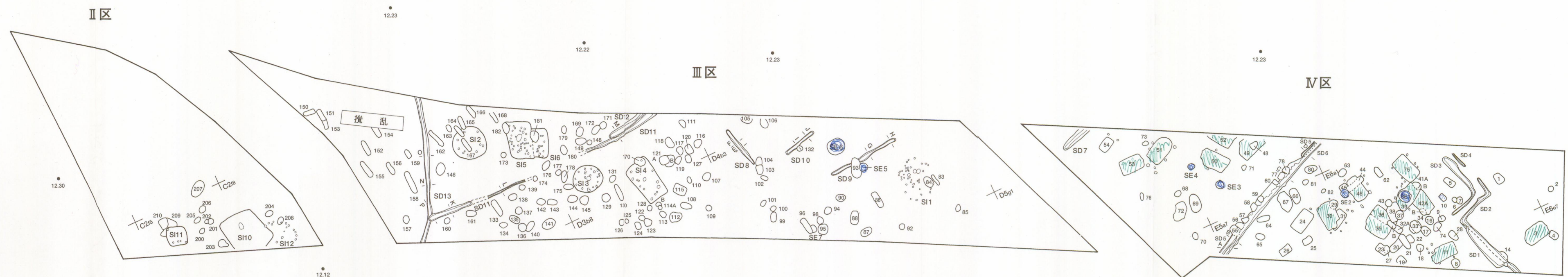
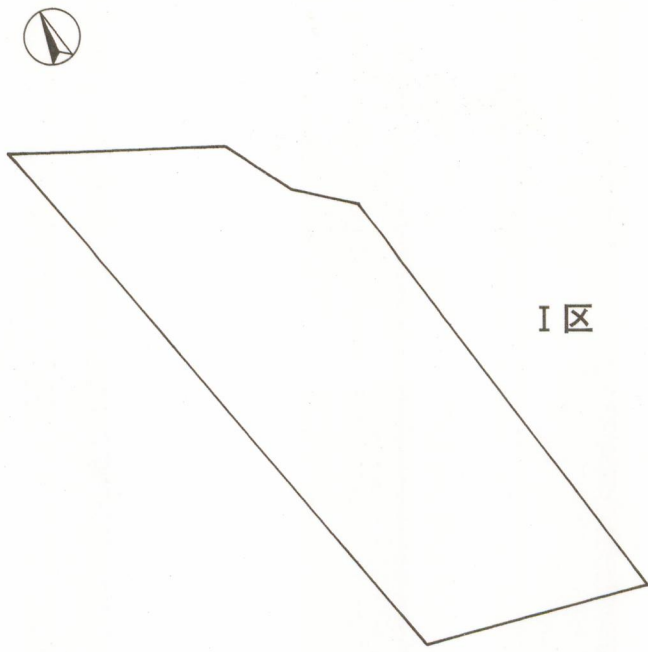
発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
T E L 029-225-6587

印刷 株式会社 あけぼの印刷社
〒310-0804 水戸市白梅1丁目2番11号
T E L 029-227-5505

付 図

茨城県教育財団文化財調査報告第192集

石畑遺跡遺構全体図



付図 石畑遺跡遺構全体図